

科目名	論理学	担当教員	石橋 敏郎
-----	-----	------	-------

学科	看護学科	年次	1	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活、社会の理解						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	1982年より、熊本女子大学生活科学部、1994年より熊本県立大学総合管理学部にて、主として社会保障関係の講義を担当する傍ら、アドミニストレーション研究科（大学院）にて、論理的思考、論文の書き方などを指導した。
授 業 概 要	最初は、論理的思考とは何か、創造力の必要性、わかりやすく説明したり、誰にでも理解できるような文章力を身につけるために何が必要かを講義するが、後半では、実際に、論文を読んでみたり、あるいはあるテーマについて自分で文章を書く訓練を行う。
到 達 目 標	物事を筋道立てて考える能力（論理的思考力）、自分の頭で考える能力（創造力）、自分の考えをわかりやすく伝える能力（発言力、プレゼンテーション能力）、わかりやすい文章を書く能力（文章力）を身につけさせる。

授 業 計 画

回	テーマ	授 業 内 容
1	何のために学問は必要なのか。	高等教育機関に進学する理由は何か。
2	頭が良い人とはどういう人のことをいうのか。	頭が良いとか、優秀とか言われる人は、単なる「ものしり」とは違う。
3	組織の基本はなんと言っても人材である。	いま、社会が求めている人材とはどのような人か。
4	多角的な視点からものごとを見る能力を身につけよう。	「こうのとりにゆりかご」と多角的視点。
5	学問はまず「気付くこと」から始まる。	職場や社会で、どうしてだろうかと疑問に思うことや、おかしいなあと思うことはないだろうか。
6	ものごとを筋道立てて考える能力（論理的思考力）を身につけよう。（その1）	大学入試で、小論文が課せられるようになったのはなぜだろうか。
7	ものごとを筋道立てて考える能力（論理的思考力）を身につけよう。（その2）	論文と感想文はどこが違うのだろうか。
8	自分の頭で考えてアイデアを出せる能力（創造力）を身につけよう。（その1）	アメリカの教育と日本の教育の違い。
9	自分の頭で考えてアイデアを出せる能力（創造力）を身につけよう。（その2）	「熊本型福祉」とは何だろうか。自分で考えてみよう。
10	自分の意見をいえるようになろう（発言力）。	日本の子どもたちはなぜ自分の意見を言わないのだろうか。
11	理論と実践とはどうかかわっているのだろうか。	看護の実践とともに理論的な思考も身につけよう（理論と実践の統合）。
12	論理は、主張と理由（根拠）から成り立っている。	事実をいくら述べても会話にはならない。主張とその理由について学ぶ。
13	事実と推測と意見の違いを理解しよう。	絶対に正しいことから、個人的見解まで事柄を見分ける。
14	文章がつながっているかを点検する。	一つ一つの文章は正しくても、つながっていなければ論理にならない。
15	帰納法と演繹法。	帰納法と演繹法はどこが違うのだろうか。

準備学習（予習復習）の 具体的な内容	その日の講義資料を見ながら、自分で理解できたかどうかをチェックすること。
成 績 評 価	☒ 定期試験 （ 100 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☒ その他 （ 受講態度 ）
教 科 書	教科書は使用しない。
参 考 書	適宜、配布する。
授業の留意点・備考	具体的な事例をあげながらわかりやすい講義を心がけたい。分からないところはどんどん質問すること。教科書を暗記するようなこれまでの勉強方法ではなく、自分の頭で考えて、自分の意見をいえるような能力を身につけてもらいたい。

科目名	文化人類学	担当教員	田畑 博敏
-----	-------	------	-------

学科	看護学科	年次	1	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活、社会の理解						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		長年に亘り、大学で哲学・思想系の講義・研究を行ってきた経験を活かして、異文化理解の学問である文化人類学の講義ができる。									
授 業 概 要		人間と文化、人生と時間、信仰と世界観、身体・病気・治療、人間と死を考えるとともに、日本文化にふれる機会を持つ。									
到 達 目 標		文化の違いによって異なる考えを持つ人々がいることを、宗教、生活習慣、儀礼などの文化を通して理解する。異文化による人間の行動や考えの違いを知り、国際的な視野を広げる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	人間と文化			(1) 文化人類学における「文化」について (2) 文化人類学の特徴：フィールドワークとエスノグラフィ							
2	人と人とのつながり			(1) 個人と社会集団の関係 (2) 現代社会と文化人類学の現在・変化する人間							
3	個人・家族・家族をこえたつながり			(1) 個人と社会(2)家族(3)家族をこえたつながり							
4	人のライフサイクル			(1) 通過儀礼について、儀礼の構造 (2) 誕生・成熟etcの儀礼、個人にとってのライフサイクル							
5	科学・技術・環境（1）			(1) 人間はどのように自然を認識してきたか、認識しているか？							
6	科学・技術・環境（2）			(2) 人間はどのように自分たちを認識してきたか、認識しているか？							
7	宗教と世界観（1）			(1) 文化人類学から見た宗教							
8	宗教と世界観（2）			(2) 宗教儀礼について							
9	健康と文化			(1)健康と病についての文化人類学による意味づけ (2)治療体系の多様性							
10	熊本の都市づくり			熊本市の現状と課題、どのような都市を目指しているのか。高齢化社会への取り組み。生活弱者に対しての工夫、防災など							
11	熊本の歴史・文化①			学校のある熊本西区や中央区について理解するため、歴史や文化について学ぶ							
12	熊本の歴史・文化②			その地域の歴史を知るとはそこに住む人を理解することにもなる。熊本市の歴史、春日地区の文化や歴史について学ぶ。							
13	異文化理解			県内で活動している国際交流員の出身地域の文化（生活、宗教、健康観）などを学ぶとともに、外から見た熊本の良さなど							
14	社会貢献について			モンゴルでの植林活動活動なども含め、多様な社旗活動を通しての価値観や多様性について学ぶ							
15	異文化理解・社会貢献について			看護師としてインドネシアで活動した経験や、日本語教師、EPA看護師の支援など様々な経験をとおして、異文化理解、看護師の活躍の場の広がりなどについて学ぶ							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		教科書を予め読んでおくこと。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 90 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☒ 小テスト （ 10 % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		系統看護学講座 基礎分野 文化人類学 第4版 （医学書院）									
参 考 書		適宜、示す									
授業の留意点・備考		毎回、授業終了時に、意見や感想を書いた小ペーパーを提出してもらう。									

科目名	教育学	担当教員	山城 千秋
-----	-----	------	-------

学科	看護学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活、社会の理解					選択・必修	必修		
担当教員の実務経験		教育学と福祉と地域づくりをつなぐ研究を通して、看護・医療がこれからの少子・高齢社会においてどのように地域貢献できるのか、教育学の立場から講義を行う。									
授 業 概 要		本講義では、教育とはそもそも何かという問題を、学校教育だけでなく家庭や社会教育をふまえて考察する。具体的には、教育とは何かという「人間と教育」に関する思想、発達と教育、そして教育と社会の関係について基礎的理解を深め、教育学の総論的な視点を概観する。									
到 達 目 標		教育とは何かという原理的な問いに答えることができ、子ども・家庭・学校・地域それぞれの相互関係を理解することをめざす。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	教育の基本概念 (1)			人間と教育に関する思想							
2	教育の基本概念 (2)			教育はどこでなされるか							
3	教育の基本概念 (3)			人間は社会のなかで人間になる							
4	教育の基本概念 (4)			誰が子どもに何を教えるのか							
5	教育の基本概念 (5)			子ども・学校・地域							
6	教育学の歴史 (1)			日本の近現代史と教育							
7	教育学の歴史 (2)			戦争と平和学習							
8	教育学の歴史 (3)			戦後日本の教育とその思想							
9	教育と家庭 (1)			すべての乳幼児の発達を保障する保育							
10	教育と家庭 (2)			子どもの成長と家族の役割							
11	教育と家庭 (3)			子どもの生活と食育							
12	教育と社会 (1)			社会教育と生涯学習							
13	教育と社会 (2)			教育と福祉の統合をめざす地域づくり							
14	教育と社会 (3)			義務教育未修了者の学習権保障							
15	定期試験			本講義のふり返りとまとめ							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		日頃から新聞等の購読を通して、社会問題、教育問題への関心を高めること。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 70 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☒ 課題 （ 30 % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ % ）									
教 科 書		教科書は使用しない。授業中に資料のプリントを配布し、それを適宜参照しながら授業を進める。									
参 考 書		アリエス『〈子供〉の誕生』（みすず書房）、ルソー『エミール』（岩波書店）、イリイチ『脱学校の社会』（東京創元社）、フレイレ『非抑圧者の教育学』（亜紀書房）									
授業の留意点・備考		教育学は、自らの成長段階において、どのような人々がどのような働きかけをし、どう作用したか、既に経験的に無意識で知っていることを、言語化し明確化する。家族・社会との関係を問い、個別的な経験を普遍化する作業と心得てもらいたい。									

科目名	心理学	担当教員	高野 浩美
-----	-----	------	-------

学科	看護学科	年次	1	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活、社会の理解						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		臨床心理学を専門職として、行政機関や教育機関、医療機関などで培った経験を活かし、看護職における患者やその家族の心理・支援について講義・演習を行うことができる。									
授 業 概 要		「こころ」を探究する心理学の基礎的知識を学び、対人援助職に必要な専門的技術を習得することにより、看護の対象である人（患者）やその家族の心理や行動を多面的に理解し、医療従事者に必要な知識や技術を身に付ける。									
到 達 目 標		・心理学の基礎的知識を学び、人の感覚・感情・思考などのメカニズムを知ることによって、それらに基づく行動の発生・変容等を理解できる。 ・看護の対象である人間（患者）やその家族の心情や行動を共感できる。 ・傾聴等の技術を習得し、個々人にあった適切な支援を行うことができる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション（心理学とは）			心理学とはどのような学問が。その歴史の過程は。							
2	看護職における心理学			主に病期における患者の心理を理解し、適切な支援方法を考える。							
3	人の感覚・知覚及び認知のしくみ			外界の刺激の取り入れ・解釈・行動に変化するまでを考える。							
4	記憶のメカニズムについて			記憶の3つの側面（記銘・保持・想起）の役割について。							
5	記憶の変容・忘却について			記憶された内容も時間とともに変容・忘却されてゆく。							
6	思考・言語・問題解決の過程			思考の定義・言語の役割・問題解決の手順・方法を学ぶ。							
7	学習とは			心理学で考える学習するということはどういうことなのか。							
8	人の感情（情動）の種類・働き			感情（情動）はどのようにおこってくるのか。その種類は。							
9	動機づけの意味			どのような動機づけがあるのか。持続するには何が必要か。							
10	性格とパーソナリティ			性格はどのように形成されるのか。性格と人格の違い。							
11	性格の測定方法（演習）			一部、心理検査を使用しての演習。							
12	集団（対人関係）			人はどのように人を知覚し、関係づくりをしていくのか。							
13	人の発達（誕生から死まで）			誕生から死に到るまでのそれぞれの発達課題を考える。							
14	心理臨床（ストレス、傾聴などのカウンセリングの基礎等）			ストレスの仕組み、コーピングの方法などについて学び、傾聴などカウンセリングの基礎について学ぶ。							
15	試験			教科書の内容を中心に出题された試験。							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		教科書から抜粋された資料等、特に講義や演習を行った部分を中心に見直しておくこと。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 90 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☒ レポート （ 10 % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		系統看護学講座 基礎分野 心理学 第6版 （医学書院）									
参 考 書											
授業の留意点・備考		授業中の私語やスマホの使用は禁止する。具体的事例を多く活用し、わかりやすく伝える。									

科目名	カウンセリング論	担当教員	河田 将一
-----	----------	------	-------

学科	看護学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活、社会の理解						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	この授業は、療育センター心理職、発達健診・相談の心理職、スクールカウンセラー、特別支援教育専門家チーム委員としての豊富な実務経験を有する教員によって、カウンセリングにおける他者と関わるものの本質、問題の捉え方、治ることの意味、コミュニケーションの在り方について問い返し、その上でカウンセリングの基本姿勢と主な技法について講述する。
-----------	---

授 業 概 要	カウンセリングの基本姿勢及び基本的な技法を学び、心理療法との関連についても触れながら、看護場面で活用できるようにする。また、現場で出会うクライアント・家族に見られる状態像等や支援のあり方についても学び、臨床場面での効果や限界についても考える機会とする。
---------	---

到達目標	・カウンセリングの基本姿勢を身につけ、活用することができる。 ・カウンセリングの基本的な技法を身につけ、活用することができる。 ・クライアントだけでなく、彼らを取り巻く人々にもアプローチをすることができる。
------	---

授 業 計 画

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	対人関係の心理からカウンセリングの意義を考える
2	こころの問題とは	誰にかかわるのか、背景に迫る、「治る」と「もとどおり」
3	コミュニケーションを考える（１）	言語的・非言語的コミュニケーション
4	コミュニケーションを考える（２）	対人距離、メラビアンの法則、防衛機制
5	カウンセリングの基本姿勢	ラポール、共感、傾聴など、相談等との違い
6	カウンセリングの基本技法	繰り返し、反射、感情の明確化など
7	演習を通じた理解（１）	ラポール形成の演習（数種類）
8	演習を通じた理解（２）	非言語的手段の演習、聴いてもらえない演習（数種類）
9	演習を通じた理解（３）	対人関係のあり方演習、ダブルバインド演習（数種類）
10	演習を通じた理解（４）	非言語的態度の演習、共感と感情の反射の演習（数種類）
11	カウンセリングと家族療法	家族へのアプローチを考える
12	演習を通じた理解（５）	リフレーミング、会話としての応答の留意点
13	カウンセリングと行動療法（１）	行動形成と問題行動への対応を考える
14	カウンセリングと行動療法（２）	強化刺激、消去、飽和、カームダウンなど
15	カウンセリングと自己/他者理解	自己開示とフィードバックなど

準備学習（予習復習）の 具体的な内容	
-----------------------	--

成 績 評 価	☒ 定期試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%)
	☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☐ その他 ()

教科書	なし
-----	----

参 考 書	心と関わる臨床心理 (ナカニシヤ出版)
-------	---------------------

授業の留意点・備考	原則として配布資料は用意せず、受講生各自が書き写しながら1冊のノートを仕上げるようにする。
-----------	---

科目名	社会学	担当教員	田口 宏昭
-----	-----	------	-------

学科	看護学科	年次	1	開講期	前期	単位数	2	時数	45	授業形態	講義
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活、社会の理解						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		熊本大学専任教員、他大学ならびに看護学校等において40年以上、社会学の教育と研究に携わってきた。									
授 業 概 要		社会学を「関係の学」として捉える立場から、社会学の対象が人間、行為、社会関係、社会集団と組織および文化であることを具体例に即しながら説明する。また社会学が扱う広範囲の個別具体的なテーマのなかから、受講者の将来の職業生活に必要なテーマを選び出し、課題解決の考え方や「生きる」ヒントを得られるような授業を、受講者に質問を投げかけながら展開する。									
到 達 目 標		①社会学の基礎的な視点や考え方を理解することができる。 ②社会学的な想像力を養い、それによって社会的な諸課題の解決の道筋を示す模擬的処方箋を書くことができる。									

授業計画		
回	テーマ	授業内容
1	人間とは何か	心と社会の関係、社会学の対象、社会学的視点・思考の特徴を理解する。
2	行為、社会的相互行為、ことば	基礎概念としての行為、社会的相互行為、言語のはたらきについて学ぶ。
3	社会関係	基礎概念としての社会関係の諸タイプについて学ぶ。
4	社会集団	基礎概念としての社会集団の類型、その特徴について学ぶ。
5	文化、社会、社会化（1）	基礎概念としての文化、社会、社会化とその意義について学ぶ。
6	文化、社会、社会化（2）	具体例に即して、現代の文化、社会、社会化について学ぶ。
7	家族と婚姻（1）	社会学の最も基本的対象としての家族と婚姻について理解を深める。
8	家族と婚姻（2）	具体例を通して家族と婚姻について理解を深める。
9	家族、ジェンダー、社会（1）	家族や社会のなかに埋め込まれたジェンダーについて理論的に考える。
10	家族、ジェンダー、社会（2）	具体例を通してジェンダーの問題性について学び考える。
11	地域社会の変容と都市	人工の都市集中都市的生活様式について学ぶ。
12	組織と官僚制 [小テスト実施]	近代以降における組織運営の優勢な制度としての官僚制の特徴と問題点を学ぶ。
13	逸脱と犯罪（1）	逸脱・犯罪現象への社会学独自の視点を学ぶ。
14	逸脱と犯罪（2）	具体例を通して逸脱・犯罪への社会学的理解を深め、処方箋を考える。
15	身体と病気（1）	心身の病気と介護問題への社会学的アプローチについて学ぶ。

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	身体と病気 (2)	具体例を通して病気と介護問題への社会学的理解を深める。
17	統治、権力、戦争 (1)	社会現象としての統治、権力、戦争という問題への社会学的視点を学ぶ。
18	統治、権力、戦争 (2)	具体例を通して統治、権力、戦争についての理解を深める。
19	社会成層と階級	諸個人の生活水準に直結する社会成層と階級への社会学的視点を学ぶ。
20	労働、教育、社会的機会	諸個人の生活水準に直結する労働、教育、社会的機会、文化資本について学ぶ。
21	社会変動 (1)	人間社会の歴史的変化への社会学的視点を学ぶ。
22	社会変動 (2)	人間社会の歴史的変化への社会学的視点を学ぶ。
23	小テスト実施、レポート作成指導	総復習のための小テストを実施する。将来の看護・技術職の基本リテラシーとして位置づけられるレポートの作成方法について指導する。
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
準備学習（予習復習）の具体的な内容		教科書に目を通しておくこと。図書館や図書室で関連図書に親しみ、新聞、雑誌、インターネットのWikipediaなどの情報にできるだけ多く接すること。
成 績 評 価		☐ 定期試験 (%) ☐ 実技試験 (%) ☒ 小テスト (20 %) ☒ レポート (80 %) ☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☐ その他 ()
教 科 書		田口宏昭『レジリエンスのための社会学』
参 考 書		アンソニー・ギデンス『社会学 第5版』而立書房。奥井智之『社会学 第2版』東京大学出版会。
授業の留意点・備考		好奇心がなければ知識や教養は身につかない。好奇心は自分で開発するものと心得て、常に自分に向けて「それは何」「それは何故」という問いを発し、自分なりの答えを見つけ出すことを習慣づけるよう務める。

科目名	英会話	担当教員	ジェフェリーアランケアンズ
-----	-----	------	---------------

学科	看護学科	年次	1	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活、社会の理解						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		教育現場で培った経験を活かし、将来、医療現場で働く学生に学んで欲しい基礎的な知識を講義できる。									
授 業 概 要		医療及び看護の専門分野の英語文献資料を読解できる英語力を養う。									
到 達 目 標		To review and improve English communication skills,Build practical English vocabulary;Expand English communication ability.（英語のコミュニケーション能力を伸ばすため、英語の語彙力を確立する。英語のコミュニケーション能力を発展させる。）									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	Orientation			orientation（オリエンテーション）							
2	Vocabulary Practice（語彙の練習）			Communication Practice Topics -Food							
3	Vocabulary Practice（語彙の練習）			Communication Practice Topics -Japan							
4	Vocabulary Practice（語彙の練習）			Communication Practice Topics -Shopping							
5	Vocabulary Practice（語彙の練習）			Communication Practice Topics -Music							
6	Vocabulary Practice（語彙の練習）			Communication Practice Topics -Transportation							
7	Vocabulary Practice（語彙の練習）			Communication Practice Topics -Work							
8	Vocabulary Practice（語彙の練習）			Communication Practice Topics -Family							
9	Vocabulary Practice（語彙の練習）			Communication Practice Topics -Travel							
10	Vocabulary Practice（語彙の練習）			Communication Practice Topics -Europe							
11	Vocabulary Practice（語彙の練習）			Communication Practice Topics -Famous People							
12	Vocabulary Practice（語彙の練習）			Communication Practice Topics -Sports							
13	Vocabulary Practice（語彙の練習）			Communication Practice Topics -Home							
14	Vocabulary Practice（語彙の練習）			Communication Practice Topics -Health、Entertainment							
15	Examination										
準備学習（予習復習）の具体的な内容		all instruction done in English（講義は英語で行われます） Students are expected to communicate in English（授業中、学生は英語でコミュニケーションをとることが望ましい） monthly vocabulary quizzes（毎月英語の語彙クイズを実施します）									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 100 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		“Let's Talk About It” b y PERSON Longman Craig Drayton&Mark Gibbon									
参 考 書		適宜、示す									
授業の留意点・備考		a good "Learner's"dictionary will be needed by every student in every class（毎回、学習者用の辞書を持参すること。電子辞書でも構いません）									

科目名	医療英語	担当教員	濱田 比呂美
-----	------	------	--------

科目名	情報科学 I	担当教員	小菌 和剛
-----	--------	------	-------

学科	看護学科	年次	1	開講期	前期	単位数	1	時数	15	授業形態	講義
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活、社会の理解					選択・必修		必修	
担当教員の実務経験		情報教育における長年の経験から、情報システムの利活用について、また、情報というものの捉え方や看護分野への応用について講義・演習を行える。									
授 業 概 要		情報の活用能力の向上を目指して、情報の理論とコンピューターの実際を学ぶ。情報科学の初歩的理論を学び医療における情報（特にプライバシーに関する）取り扱いにおける責任・理論を理解し、実践を通して「情報処理」能力を取得する。									
到 達 目 標		コンピューターの基本操作ができるようになる。特に、実践的な情報処理と統計を簡単な例や調査・研究をしながら、自分で出来るようにする。また、今後、実際の業務や生活全般での個人情報やプライバシー保護などの基本規範も身に着ける。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	授業ガイダンス・情報とは			授業を進めるうえでの注意点等の説明を行う。また、看護の分野で、なぜ情報を取り扱う必要があるのかについて解説する。							
2	文書作成の基礎			学生生活を送るうえで、また業務上必要なスキルとして文書作成ソフトウェア（ワードプロセッサ）を利用した文書作成の基礎について学習する。							
3	文書作成の応用			文書作成ソフトウェア利用の応用的な能力を身に着けるため、文書の事例を用いながら解説ならびに演習を行う。							
4	表計算の基礎			収集したデータを分析・加工するために一般的に利用されている表計算ソフトウェアの基礎的な学習を行う。							
5	表計算の応用			表計算ソフトウェアの応用的な能力を身に着けるため、データの事例を用いながら解説ならびに演習を行う。							
6	プレゼンテーションの基礎			看護研究の発表ならびに様々な業務改善等を他者に伝える際に利用される、プレゼンテーションソフトウェアの基礎的な学習を行う。							
7	プレゼンテーションの応用			プレゼンテーションソフトウェアの応用的な能力を身に着けるため、プレゼンテーション事例を用いながら解説ならびに演習を行う。							
8	個人情報の保護／定期試験			個人情報の保護について、特に気を付けるべきポイントについて解説を行う。また、今学期の学習内容の理解度を測るため定期試験を実施する。							
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習）の具体的な内容		今後の自らの学生生活と生涯学習の基盤となるので、積極的に反復練習や教科書の内容を理解するよう努めること。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 40 ％ ） ☐ 実技試験 （ ％ ） ☐ 小テスト （ ％ ） ☐ レポート （ ％ ） ☒ 課題 （ 60 ％ ） ☐ 発表 （ ％ ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		適宜講義内容に関するプリントを配布する。									
参 考 書		なし									
授業の留意点・備考		看護分野を取り巻く情報の重要性、また、情報システムの利活用について積極的に学習を行って頂きたい。また、演習を通じて、情報機器やソフトウェアの利活用についてのスキル向上を目指し積極的に取り組んで頂きたい。									

科目名	健康とスポーツ	担当教員	松尾 洋
-----	---------	------	------

学科	看護学科	年次	1	開講期	後期	単位数	1	時数	15	授業形態	講義・演習
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活、社会の理解						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		保健体育の授業のみならず、介護予防事業・介護保険計画や公衆衛生学を通じて地域行政にかかわった経験を活かし、地域における看護師の役割などについて講義・演習を行うことができる。									
授 業 概 要		運動による健康増進の効果を倫理的に学び、その必要性を理解する。さらに体力の維持・向上を目指し、協調性・責任感などを養う。									
到 達 目 標		運動と健康増進の効果を倫理的に学ぶ。スポーツやレクリエーションを通して、自己の健康と臨床能力に活かす基本を身につけることができる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション 健康づくり概論①			日本の健康づくり施策の変遷を学び、健康づくり施策の現状を学ぶ。							
2	身体機能測定演習			Inbodyを使用し自分の身体機能を学ぶ。							
3	ウォーキング演習			ウォーキングの理論を学び、学外においてウォーキングを実践する。							
4	ストレッチング			体を動かす基礎となるストレッチの実践方法を学び、学外において実践する。							
5	ヨガ演習			パワーヨガのポーズや呼吸法などを学び、上達する。ヨガを通じて自分の健康を見直し、改善点を考える。ヨガを通じたストレスマネジメントについて学ぶ。							
6	スロージョギング演習			スロージョギングの理論を学び、学外においてウォーキングを実践する。							
7	筋トレ演習			筋力トレーニングの基礎を学び、学外において実践する。							
8	まとめ			講義・レポート							
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習）の具体的な内容		自宅におけるストレッチ、筋トレなどの自身の基礎体力づくりを行うとともに、各演習内容について指定の学会等ホームページで復習を行う。									
成 績 評 価		☐ 定期試験 （ %） ☐ 実技試験 （ %） ☐ 小テスト （ %） ☒ レポート （ 100 %） ☐ 課題 （ %） ☐ 発表 （ %） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		特になし、適宜資料を配布									
参 考 書		特になし、適宜資料を配布									
授業の留意点・備考		演習授業時の服装は動きやすい格好とする。学外で実施の場合は運動靴を準備すること。									

科目名	人間関係論	担当教員	水野 直樹
-----	-------	------	-------

学科	看護学科	年次	1	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活、社会の理解						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		キャリアコンサルタント、人材育成講師、ラジオパーソナリティの経験を活かし、学生の自己理解のグループワークや臨床現場でのコミュニケーションスキルについて講義・演習を行うことができる。									
授 業 概 要		コミュニケーションに必要な要素を分野別に探究する。									
到 達 目 標		1. コミュニケーションの基礎知識を理解できる。 2. ホスピタリティマインドを身につけたコミュニケーションを図ることができる。									
授 業 計 画											
回	テーマ	授 業 内 容									
1	コミュニケーションとは	言語的・非言語的コミュニケーションについて理解する。									
2	良好なコミュニケーションの要素①	自分の内面と向き合うための演習。									
3	良好なコミュニケーションの要素②	対象となる人物に届く手段を手に入れる。									
4	傾聴とは①	傾聴の意味を知る。									
5	傾聴とは②	傾聴を体験する。①									
6	傾聴とは③	傾聴を体験する。②									
7	報告・連絡・相談	3つの明確な区別を知り、対象となる人物の情報を整理する。									
8	看護場面で求められるコミュニケーション	臨床現場での実践と自分の課題を知る。									
9	行動変容のための言葉かけ	ケアの対象との相互作用に着目し、専門職としての実践力をつける。									
10	患者・看護師間の相互作用	実践を客観的に分析することにより、その必要性を学ぶ。									
11	チームにおけるコミュニケーション	同じ目的を持つチームのリーダーシップ、メンバーシップについて学ぶ。									
12	ホスピタリティ視点での接遇コミュニケーション	ホスピタリティマインドを学び、サービスとの使い分けをする。									
13	クレーム対応とAngerマネジメント	気持ちと言葉の相関関係を学ぶ。									
14	メンタルヘルスとコミュニケーション	自己理解をもとに、のセルフケアについて考える。									
15	試験	まとめと解説									
準備学習（予習復習）の具体的な内容											
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 80 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☒ 課題 （ 20 % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		なし									
参 考 書		なし									
授業の留意点・備考											

科目名	解剖生理学Ⅰ	担当教員	吉永 一也
-----	--------	------	-------

学科	看護学科	年次	1	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		医学部（医学科・保健学科）での解剖学の講義・実習ならびに医療系専門学校（看護学科含む）での解剖生理学の講義を長年担当した経験を活かし、看護師養成のための解剖生理学の講義を行うことができる。									
授業概要		人体の構造・部位・器官、細胞および細胞膜の構造と機能、細胞の増殖と染色体、上皮組織・筋組織・結合組織・神経組織、口・咽頭・食道の構造と機能、腹部消化管の構造と機能、栄養素の消化と吸収、膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能、腹膜、呼吸器の構造と機能、呼吸運動の調節、血液の組成と機能									
到達目標		人体を構成する細胞・組織・器官の構造と機能を知り、生命維持について概要を理解できる。消化・吸収の意義を説明できる。呼吸の意義を説明できる。									
授業計画											
回	テーマ	授業内容									
1	解剖生理学を学ぶための基礎知識①	人体の構造と階層性、人体の部位と区分、方向と位置を示す用語について学ぶ									
2	解剖生理学を学ぶための基礎知識②	器官と器官系について学ぶ									
3	解剖生理学を学ぶための基礎知識③	細胞の構造、細胞を構成する物質、細胞膜の構造と機能について学ぶ									
4	解剖生理学を学ぶための基礎知識④	細胞の増殖と染色体、上皮組織・筋組織・結合組織・神経組織、膜について学ぶ									
5	栄養の消化と吸収①	口・咽頭・食道の構造と機能を学ぶ									
6	栄養の消化と吸収②	腹部消化管（胃・小腸・大腸）の構造と機能を学ぶ									
7	栄養の消化と吸収③	栄養素の消化と吸収を学ぶ									
8	栄養の消化と吸収④	膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能を学ぶ									
9	栄養の消化と吸収⑤	腹膜について学ぶ									
10	呼吸と血液のはたらき①	呼吸器の構成、上気道を学ぶ									
11	呼吸と血液のはたらき②	下気道・肺と胸膜・縦隔を学ぶ									
12	呼吸と血液のはたらき③	内呼吸と外呼吸、呼吸運動、呼吸気量を学ぶ									
13	呼吸と血液のはたらき④	ガス交換とガスの運搬、呼吸運動の調節、呼吸器系の病態生理を学ぶ									
14	呼吸と血液のはたらき⑤	血液の組成と機能、血漿タンパク質、血液の凝固と線維素溶解、血液型を学ぶ									
15	試験	総まとめ									
準備学習（予習復習）の具体的な内容		予習：毎回の講義内容について、教科書を一読しておく。 復習：その日の講義内容を復習し、重要なポイントを整理しておく。									
成績評価		☒ 定期試験 （ 100 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教科書		系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕 解剖生理学 第11版 （医学書院）									
参考書		参考資料を適宜配布									
授業の留意点・備考		疑問点が生じた時は、積極的に質問すること。									

科目名	解剖生理学Ⅱ	担当教員	橋本 弘司
-----	--------	------	-------

学科	看護学科	年次	1	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		ブレインサイエンスを専門とし、熊本大学医学部において、生理学、微生物学、医用工学、情報処理学などの科目について30年以上の講義実績がある。									
授 業 概 要		解剖生理のうち、循環器、体液調節、自律神経、神経系の講義を行う。									
到 達 目 標		心臓、血液循環、腎臓、自律神経、神経系の解剖および生理機能が説明できるようになる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	心臓の構造と機能			心臓のポンプ機能、血管と神経、興奮とその伝播について説明できるようになる。							
2	心電図、心音			心電図の導出法、心電図とその意味、心電図の異常、心音について説明できるようになる。							
3	末梢循環器系			動脈、毛細血管、静脈の構造、肺循環、体循環の循環器系に関して説明できるようになる。							
4	血圧、リンパ管			血圧測定、血圧・血流量の調節、微小循環及び循環器系の病態生理、リンパの循環に関して説明できるようになる。							
5	腎臓			腎臓、糸球体、尿管、傍糸球体装置の構造と機能に関して説明できるようになる。							
6	体液調節			尿の生成、排泄路の構造、蓄尿と排尿の機構、体液の調節に関して説明できるようになる。							
7	ニューロン、シナプス			ニューロン、シナプスの構造と興奮の伝導、伝達に関して説明できるようになる。							
8	脳と脊髄			大脳、間脳、小脳、脳幹、脊髄の構造と機能に関して説明できるようになる。							
9	大脳皮質			大脳の機能局在に関して説明できるようになる。							
10	運動神経			運動機能と下行伝導路に関して説明できるようになる。							
11	感覚神経			感覚神経と上行伝導路に関して説明できるようになる。							
12	特殊感覚－視覚、聴覚			視覚、聴覚の構造と機能に関して説明できるようになる。							
13	特殊感覚－味覚、嗅覚、痛覚			味覚、嗅覚、痛覚の構造と機能に関して説明できるようになる。							
14	脳波、記憶、学習			脳波の基礎が理解でき、記憶・学習、中枢神経の障害、脳死に関して説明できるようになる。							
15	試験										
準備学習（予習復習）の具体的な内容		予習は教科書の該当箇所を読んでおくこと。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 100 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕 解剖生理学 第11版 （医学書院）									
参 考 書		なし									
授業の留意点・備考		期間中に数回の小テストを行うので、当該箇所の教科書を熟読して試験に臨むこと。									

科目名	解剖生理学Ⅲ	担当教員	吉永 一也
-----	--------	------	-------

学科	看護学科	年次	1	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	医学部（医学科・保健学科）での解剖学の講義・実習ならびに医療系専門学校（看護学科含む）での解剖生理学の講義を長年担当した経験を活かし、看護師養成のための解剖生理学の講義を行うことができる。										
授 業 概 要	内分泌器官の構造と機能、ホルモン分泌の調節、骨の形態と構造、関節の構造と可動性、骨格筋の構造と作用、全身の骨格と筋、骨格筋の収縮機構、運動と代謝、皮膚の構造と機能、生体の防御機構、体温とその調節、男性生殖器、女性生殖器、受精と胎児の発生、成長と老化										
到 達 目 標	内蔵機能の調節を説明できる。身体の支持・運動を説明できる。身体機能の防御と適応を説明できる。生殖・発生と老化のしくみを説明できる。										

授 業 計 画											
---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

回	テーマ	授 業 内 容
1	内蔵機能の調節①	自律神経の機能と構造、内分泌とホルモンについて学ぶ
2	内蔵機能の調節②	視床下部-下垂体系、甲状腺と副甲状腺の構造と機能について学ぶ
3	内蔵機能の調節③	膵臓・副腎・性腺の構造と機能、ホルモン分泌の調節について学ぶ
4	身体の支持と運動①	骨の形態と構造、関節、骨の生理的な機能、骨格筋の構造と作用について学ぶ
5	身体の支持と運動②	体幹・頭頸部の骨格と筋について学ぶ
6	身体の支持と運動③	上肢・下肢の骨格と筋、上肢・下肢の運動について学ぶ
7	身体の支持と運動④	骨格筋の収縮機構、心筋・平滑筋の収縮の特徴について学ぶ
8	身体機能の防御と適応①	皮膚の構造と機能について学ぶ
9	身体機能の防御と適応②	生体の防御機構について学ぶ
10	身体機能の防御と適応③	体温とその調節について学ぶ
11	生殖・発生と老化のしくみ①	男性生殖器の構造と機能について学ぶ
12	生殖・発生と老化のしくみ②	女性生殖器の構造と機能について学ぶ
13	生殖・発生と老化のしくみ③	受精と胎児の発生、成長と老化について学ぶ
14	体表からみた人体の構造	体表から触知できる骨格部分・筋・血管について学ぶ
15	試験	総まとめ

準備学習（予習復習）の具体的な内容	・予習：毎回の講義内容について、教科書を一読しておく。 ・復習：その日の講義内容を復習し、重要なポイントを整理しておく。
成 績 評 価	☒ 定期試験 （ 100 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ % ）
教 科 書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕 解剖生理学 第11版 （医学書院）
参 考 書	参考資料を適宜配布
授業の留意点・備考	疑問点が生じた時は、積極的に質問すること。

科目名	臨床生化学	担当教員	山元 恵
-----	-------	------	------

学科	看護学科	年次	1	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		国内・海外の研究機関での生化学・衛生学関連の研究経験を活かし、生化学に関する基礎知識、代謝、遺伝子発現の調節等について講義を行うことができる。									
授 業 概 要		生体における生命現象のメカニズムの理解は、病態や診断・治療・予防の深い理解につながる。生化学の学習を通じて、生体構成物質の物質的基盤、代謝、遺伝子発現の調節、生体恒常性の調節メカニズム等を学ぶ。									
到 達 目 標		生体を構成する物質（糖質、脂質、タンパク質、核酸など）の構造と機能を説明できる。代謝経路及び代謝の調節メカニズムを説明できる。遺伝子発現と調節メカニズムを説明できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	生化学を学ぶための基礎知識			生化学とは；生体の化学の基礎知識；細胞の構造と機能							
2	代謝の基礎と酵素・補酵素			酵素の基礎知識；補因子；酵素の反応速度；ビタミン							
3	糖質の構造と機能			糖質とは；単糖・二糖・多糖の構造と機能							
4	糖質代謝			糖質の消化と吸収；グルコースの分解；グリコーゲン代謝；糖新生							
5	脂質の構造と機能			脂質とは；脂質の種類；リポタンパク質							
6	脂質代謝			脂質の消化と吸収；脂肪酸の分解；脂質の合成							
7	タンパク質の構造と機能			アミノ酸；タンパク質の構造							
8	タンパク質代謝			タンパク質の消化と吸収；アミノ酸の分解							
9	ポルフィリン代謝と異物代謝			ポルフィリン；生体異物代謝；活性酸素とその除去反応							
10	遺伝子と核酸			遺伝学の基礎知識；核酸の構造と機能；核酸の代謝							
11	遺伝子の複製・修復・組換え			DNAの複製・修復・組換え；遺伝子多型							
12	転写・翻訳と翻訳後修飾			転写とは；転写の開始・終結；転写メカニズム；翻訳メカニズム							
13	シグナル伝達			シグナル伝達のメカニズム；内分泌の生化学的基盤							
14	がん			がん遺伝子；がん抑制遺伝子							
15	試験			まとめと解説							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		毎回の講義直後に教科書の履修箇所及び配布資料を3回読み、理解に努めてください。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 95 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☒ その他 （ 質問・コメント用紙 5% ）									
教 科 書		系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔2〕生化学 第14版 （医学書院）									
参 考 書		「図解・化学「超」入門 物質の基本がゼロからわかる」「カラー図解でわかる高校化学超入門」（サイエンス・アイ新書）									
授業の留意点・備考		高校「化学」の教科書を持っていない方は、上記参考書（どちらか一冊で可）の購入を推奨します。									

科目名	臨床栄養学						担当教員	石井 孝文			
-----	-------	--	--	--	--	--	------	-------	--	--	--

学科	看護学科	年次	1	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		熊本県行政の栄養指導員として、県民の栄養改善・食生活改善指導の経験を活かし、また、尚絨大学での管理栄養士養成の実績を応用して、栄養学の基礎理論を講義することができる。									
授 業 概 要		人が発育・成長して生命を維持し、健全な生命活動を営むために必要な栄養素やその代謝について学び、食習慣、生活習慣やライフスタイルと健康課題について理解する。									
到 達 目 標		健全な生命活動を営むための栄養素の種類とその働きを説明できる。 医療における食事について説明できる。 NSTにおける看護師の役割を実践できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ					授 業 内 容					
1	栄養学を学ぶということ					栄養学はどのように生まれ、研究されてきたか学ぶ					
2	看護と栄養					医療における栄養と看護師の役割を学ぶ					
3	栄養素の種類とはたらき①					糖質、脂質、たんぱく質の種類と体内での生理機能を学ぶ					
4	栄養素の種類とはたらき②					ビタミン、ミネラル、食物繊維の種類と体内での生理機能を学ぶ					
5	食物の消化と栄養素の吸収					食物の消化の仕組みと、栄養素の吸収機構を学ぶ					
6	栄養素の代謝					栄養素が生体内でどのように分解・合成され利用されるか学ぶ					
7	エネルギー代謝					生体内で行われるエネルギーの産生とその変化を学ぶ					
8	まとめ										
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習）の具体的な内容		自分自身や身近な人(家族や友人等)の食生活や生活習慣に関心を持ち、健康を意識する。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☐ その他 ()									
教 科 書		系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 (3) 栄養学 第13版 (医学書院)									
参 考 書		なし									
授業の留意点・備考		授業中は周りの人に迷惑をかけること。									

科目名	臨床栄養学	担当教員	佐野 正人
-----	-------	------	-------

学科	看護学科	年次	1	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		病院での栄養管理に係わった経験を生かし、栄養食事療法に対する看護師の役割や制度について講義演習を行うことができる。									
授 業 概 要		専門基礎分野を基盤とし栄養食事療法の概要や制度、サービス等について学習する。患者、地域住民への具体的なアプローチについて学習する。									
到 達 目 標		正しい食事を理解し、自らの正しい食生活を実践できる。患者、住民への治療食としての栄養食事療法を説明できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	病院食、栄養状態の評価判定			治療食としての栄養食事療法の係わりと役割を学習する。							
2	循環器・消化器疾患、腎臓病			それぞれの疾患の栄養食事療法を学習する。（循環器・消化器疾患等）							
3	血液疾患、小児、妊娠高血圧、肝臓			それぞれの疾患の栄養食事療法を学習する。（血液疾患等）							
4	代謝疾患、糖尿病、肥満			それぞれの疾患の栄養食事療法を学習する。（代謝疾患等）							
5	術前・術後、食物アレルギー			それぞれの疾患の栄養食事療法を学習する。（術前・術後、食物アレルギー）							
6	高齢者の栄養管理、在宅療法			骨粗鬆症、低栄養、食欲不振等について学習する。							
7	医療保険、診療報酬制度			医療保険、診療報酬制度等について学習する。							
8	まとめ										
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習）の具体的な内容		講義資料を復習し、資料内容の課題について予習する。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 100 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		系統看護学講座 別巻 栄養食事療法 第4版 （医学書院）									
参 考 書		糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版 （文光堂）									
授業の留意点・備考		食事全般、栄養食事療法について、不明な点を積極的に質問できるように促していく。									

科目名	病理学総論	担当教員	橋本 弘司
-----	-------	------	-------

学科	看護学科	年次	1	開講期	前期	単位数	1	時数	15	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		ブレインサイエンスを専門とし、熊本大学医学部において、病理学実習、生理学、微生物学、医用工学、情報処理学などの科目について30年以上の講義実績がある。									
授 業 概 要		疾病の理解の基本となる病理学総論について概説する。									
到 達 目 標		病因や病気の成り立ち、発生機序について、病理学の基礎を理解し説明できるようになる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	病医学とは			看護において病理学を学ぶ意義、病因、疾病の分類について説明できるようになる。							
2	細胞・組織の損傷と修復、炎症			細胞・組織の損傷と適応、損傷に対する反応、炎症の分類と治療について説明できるようになる。							
3	免疫、移植と再生医療			免疫と免疫不全、液性免疫と細胞性免疫、アレルギー、移植と再生医療について説明できるようになる。							
4	感染症			感染の成立と発病、おもな感染症、感染症法、予防接種に関して説明できるようになる。							
5	循環障害、代謝障害			循環障害の概要、および代謝障害について説明できるようになる。							
6	先天異常と遺伝性疾患			先天異常、遺伝性疾患の原因と分類、それらの診断と治療について説明できるようになる。							
7	腫瘍			腫瘍の定義、種類と命名法、形態と発育様式、転移と浸潤、発生機序を説明できるようになる。							
8	生活習慣と環境因子による生体の障害			生活習慣病、放射線や化学物質による障害について説明できるようになる。							
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習）の具体的な内容											
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 100 ％ ） ☐ 実技試験 （ ％ ） ☐ 小テスト （ ％ ） ☐ レポート （ ％ ） ☐ 課題 （ ％ ） ☐ 発表 （ ％ ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進〔1〕 病理学 第6版 （医学書院）									
参 考 書		なし									
授業の留意点・備考											

科目名	疾病と治療Ⅰ	担当教員	藤本 和紀
-----	--------	------	-------

学科	看護学科	年次	1	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		医学部医学科での生理学、生化学、薬理学の講義ならびに一般外科・消化器外科の臨床に係わった経験を活かし、看護科ための病理学の講義を行うことができる。									
授 業 概 要		呼吸器疾患の症状と病態生理、検査と治療・処置、呼吸器疾患。循環器系の症状と病態生理、検査と治療・処置、循環器疾患									
到 達 目 標		呼吸器系の基礎知識（構造と機能、症状と病態生理）と主な疾病の病態、検査、治療、予後を理解する。循環器系の基礎知識（構造と機能、症状と病態生理）と主な疾病の病態、検査、治療、予後を理解する。習得した呼吸器系・循環器系の知識や技術を臨地実習や臨床での看護の展開に活かす。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	呼吸器①			呼吸器疾患の症状と病態生理を学ぶ							
2	呼吸器②			呼吸器疾患の検査と治療・処置を学ぶ							
3	呼吸器③			呼吸器感染症について学ぶ							
4	呼吸器④			間質性肺疾患、気道疾患について学ぶ							
5	呼吸器⑤			肺塞栓症、呼吸不全、呼吸調節に関する疾患について学ぶ							
6	呼吸器⑥			肺腫瘍について学ぶ							
7	呼吸器⑦			胸膜・縦隔・横隔膜の疾患について学ぶ							
8	循環器①			循環器疾患の症状と病態生理を学ぶ							
9	循環器②			循環器疾患の検査と治療・処置を学ぶ							
10	循環器③			虚血性心疾患について学ぶ							
11	循環器④			心不全と血圧異常について学ぶ							
12	循環器⑤			不整脈について学ぶ							
13	循環器⑥			弁膜症、心膜炎、心筋疾患、先天性心疾患について学ぶ							
14	循環器⑦			動脈系疾患・静脈系疾患について学ぶ							
15	まとめ			評価							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		教科書、講義プリントをよく読んで予習復習をする。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 100 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔2〕呼吸器 第16版（医学書院） 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔3〕循環器 第16版（医学書院）									
参 考 書		なし									
授業の留意点・備考		パワーポイントとプリントを用いて授業を行う。疑問点が生じたときは教科書やプリント、さらには教官の積極的に活用すること。									

科目名	疾病と治療Ⅱ	担当教員	藤本 貴久
-----	--------	------	-------

学科	看護学科	年次	1	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		医学部医学科での生理学、生化学、薬理学の講義ならびに一般外科・消化器外科の臨床に係わった経験を活かし、看護科ための病理学の講義を行うことができる。									
授 業 概 要		消化器疾患の症状と病態生理、検査と治療・処置について学ぶ。また代表的な消化器疾患に関して病態生理や症状を学び、治療や患者が疾患をコントロールするために必要な知識について学習する									
到 達 目 標		消化器系の基礎知識（構造と機能、症状と病態生理）と主な疾患の病態、検査、治療、予後を理解する。習得した消化器系の知識や技術を臨地実習や臨床での看護展開に活かす。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	消化器①			消化器の構造と機能を学ぶ							
2	消化器②			消化器疾患の症状と病態生理を学ぶ							
3	消化器③			消化器疾患の検査と治療・処置を学ぶ							
4	消化器④			食道・胃の疾患について学ぶ							
5	消化器⑤			腸および腹膜の疾患について学ぶ							
6	消化器⑥			肝臓・胆嚢の疾患について学ぶ							
7	消化器⑦			膵臓の疾患について学ぶ							
8	消化器⑧			まとめ							
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習）の具体的な内容		教科書、講義プリントをよく読んで予習復習をする。とくに病気の成り立ちを学習するためには、正常の構造と機能をよく理解しておく必要があり、解剖生理で学んだ知識を整理しておくこと。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 100 ％ ） ☐ 実技試験 （ ％ ） ☐ 小テスト （ ％ ） ☐ レポート （ ％ ） ☐ 課題 （ ％ ） ☐ 発表 （ ％ ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔5〕消化器 第16版（医学書院）									
参 考 書		なし									
授業の留意点・備考		パワーポイントとプリントを用いて授業を行う。授業終了後は必ず復習すること。疑問点が生じたときは教科書やプリント、さらには教官の積極的に活用すること。									

科目名	疾病と治療Ⅲ（腎・泌尿器）						担当教員	香月 麗			
-----	---------------	--	--	--	--	--	------	------	--	--	--

学科	看護学科	年次	1	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		皮膚・排泄ケア認定看護師、診療看護師として、診療・泌尿器科領域に携わった経験を活かし、泌尿器科疾患の理解ができるように講義を行うことができる。									
授 業 概 要		泌尿器科・泌尿器科疾患における病態生理、疾患、検査、治療について学習する。									
到 達 目 標		泌尿器科疾患に必要な検査、病体について説明できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ					授 業 内 容					
1	尿路、男性生殖器の構造・解剖生理					泌尿器とは 男性生殖器とは					
2	腎・泌尿器の検査					尿検査、腎機能検査、画像検査、超音波検査など					
3	尿器・性器感染症、尿路通過障害					泌尿器科的治療と処置 疾患の総論と各論					
4	悪性腫瘍、良性腫瘍					悪性腫瘍、良性腫瘍の病態生理、治療、検査					
5	尿失禁					尿失禁の種類、治療、検査					
6	泌尿器科救急疾患					外傷、尿路結石など					
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習）の具体的な内容		教科書を読んでおく。講義内容、資料の復習。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 100 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		系統看護学講座 専門分野 成人看護学[8] 腎・泌尿器 第15版 （医学書院）									
参 考 書		なし									
授業の留意点・備考		積極的に質問し、授業時間の有効活用									

科目名	疾病と治療Ⅲ（腎・泌尿器）					担当教員	深山 美香				
-----	---------------	--	--	--	--	------	-------	--	--	--	--

学科	看護学科	年次	1	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進					選択・必修	必修		
担当教員の実務経験		透析看護認定看護師として、腎不全・透析看護に携わった経験を活かし、腎不全と腎臓病の疾患の理解ができるよう講義を行うことができる。									
授 業 概 要		腎不全と腎臓病における症状病態生理、それに伴う検査と治療について学習する。									
到 達 目 標		・腎不全（急性・慢性・CKD）について検査データ異常や病態について説明できる。 ・腎臓病における必要な検査や透析治療について説明できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ					授 業 内 容					
1	日本の動向、症状と病態生理					CKD、透析、腎移植の動向、腎不全の症状病態について学ぶ					
2	検査と治療					腎不全における検査、透析治療について学ぶ					
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習）の具体的な内容		教科書を読んでおく。講義内容や配布資料の復習をする。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 100 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		系統看護学講座 専門分野 成人看護学[8] 腎・泌尿器 第15版 （医学書院）									
参 考 書		無し									
授業の留意点・備考		不明な点は積極的に質問して時間を有効活用すること									

科目名	疾病と治療Ⅳ（脳神経）	担当教員	斎藤 義樹
-----	-------------	------	-------

学科	看護学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		脳神経疾患の治療や研究に携わった経験を講義に活用する。									
授 業 概 要		脳・神経系の解剖や疾患について基本的な知識を概説する。									
到 達 目 標		脳・神経系の基礎的な解剖と主な疾患の病態を理解し看護への展開に活かす。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	脳・神経系疾患を学ぶにあたって			医療・保健の動向や脳・神経疾患の患者の概況および心理・社会的問題、等							
2	脳・神経系の構造と機能			神経系の分類と機能、中枢神経系、末梢神経系、血管系、等							
3	脳・神経系疾患の症状と病態生理			神経系の役割、症状と病態生理、等							
4	神経学的検査・診断と治療・処置			診断と診察の流れ、検査、治療・処置、など							
5	疾患の理解 1			脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷、等							
6	疾患の理解 2			脊髄疾患、末梢神経障害、感染症、認知症、等							
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習）の具体的な内容		教科書を読んでおく。講義ノートを復習する。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 100 ％） ☐ 実技試験 （ ％） ☐ 小テスト （ ％） ☐ レポート （ ％） ☐ 課題 （ ％） ☐ 発表 （ ％） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔7〕脳・神経 第16版（医学書院）									
参 考 書		なし									
授業の留意点・備考		私語を慎み周囲の人に迷惑をかけない。									

科目名	疾病と治療Ⅳ（救急・災害）	担当教員	宮本 誠
-----	---------------	------	------

学科	看護学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	これまでの医師としての経験を基に、病態・症状・治療について講義を行うことができる。
-----------	---

授 業 概 要	救急・急変看護の基礎を理解し、病態・症状・治療について学習する。
---------	----------------------------------

到 達 目 標	救急・急変看護の基礎を学習し、臨床的概要を理解することができる。
---------	----------------------------------

授 業 計 画											
---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

回	テーマ	授 業 内 容
1	救急・病理①	災害看護・外傷
2	救急・病理②	ショック、意識障害（失神、痙攣）頭痛、麻痺
3	救急・病理③	胸痛、呼吸苦、動悸、めまい
4	救急・病理④	腹痛、吐下血、嘔吐、下痢、腰背部痛
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

準備学習（予習復習）の具体的な内容	教科書を読んでおく
-------------------	-----------

成 績 評 価	☒ 定期試験 （ 100 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）
---------	--

教 科 書	ゼロからわかる救急・急変看護 （成美堂出版）
-------	------------------------

参 考 書	
-------	--

授業の留意点・備考	テキストを主に、パワーポイントを使用した講義を行います。
-----------	------------------------------

科目名	疾病と治療Ⅳ（感覚器）	担当教員	大谷 尚子
-----	-------------	------	-------

学科	看護学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	基幹病院及び開業医での診療経験を活かし、眼科看護における看護師に必要な基礎知識について講義を行うことができる。
-----------	---

授 業 概 要	眼球及び眼関連組織の解剖、病態、各種疾患の概要、治療、予後等を学ぶ。
---------	------------------------------------

到 達 目 標	眼球及び眼関連組織の解剖、病態、各種疾患の概要、治療、予後等を理解することで、眼疾患の患者看護の展開に活かすことができる。
---------	---

授 業 計 画											
---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

回	テーマ	授 業 内 容
1	眼の構造と研解	眼球及び眼関連組織の解剖、眼疾患の症状とその病態生理
2	眼疾患の各論1	眼疾患に関する症状、診察、検査、治療ロービジョンケアについて（1）
3	眼疾患の各論2	眼疾患に関する症状、診察、検査、治療ロービジョンケアについて（2）
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

準備学習（予習復習）の具体的な内容	教科書を読んでおく。授業後はプリント、ノート等の復習をする。
-------------------	--------------------------------

成 績 評 価	☒ 定期試験 （ 90 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☒ 小テスト （ 10 % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）
---------	--

教 科 書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔13〕 眼 第14版 （医学書院）
-------	--------------------------------------

参 考 書	
-------	--

授業の留意点・備考	学生の間に眼科疾患を学ぶ機会は少なく、眼科医による講義は本科目のみであるため、不明な点は積極的に質問し理解を深めること。
-----------	--

科目名	疾病と治療Ⅳ（感覚器）	担当教員	野口 聡
-----	-------------	------	------

学科	看護学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	これまでの耳鼻咽喉科臨床・研究・医学教育の経験を基に、わかりやすい講義を心掛ける。
-----------	---

授 業 概 要	解剖・生理を中心とする耳鼻咽喉科領域の基礎を理解し、代表的疾患の病態・症状・治療について学習する。
---------	---

到 達 目 標	耳鼻咽喉科領域の構造・機能を学習し、代表的疾患についての臨床的概要を理解することができる。
---------	---

授 業 計 画											
---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション・耳鼻咽喉科領域の基礎①	解剖・生理を中心に耳鼻咽喉科領域器官の仕組みや役割について解説する。（1）
2	耳鼻咽喉科領域の基礎②	解剖・生理を中心に耳鼻咽喉科領域器官の仕組みや役割について解説する。（2）
3	代表的な耳疾患	代表的な中耳炎・難聴・めまい疾患の病態・症状・治療について解説する
4	代表的な鼻・咽喉頭疾患	代表的な鼻・咽喉頭疾患および緊急性を要する疾患についての病態・症状・治療について解説する。
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

準備学習（予習復習）の具体的な内容	①教科書を読んでおく ②講義録、講義ノートの復習をする
-------------------	-----------------------------

成 績 評 価	☐ 定期試験 （ % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☒ 小テスト （ 100 % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）
---------	--

教 科 書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔14〕耳鼻咽喉 第14版 （医学書院）
-------	--

参 考 書	
-------	--

授業の留意点・備考	スライド、ビデオを中心に講義を行います。質問などあればいつでもお答えします。
-----------	--

科目名	疾病と治療Ⅴ（運動器系）	担当教員	福元哲也/前田智
-----	--------------	------	----------

学科	看護学科	年次	1	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		整形外科医として整形外科疾患に携わった経験を活かし、各疾患の病態、検査、治療についての講義を行うことができる。									
授 業 概 要		骨格系、筋系の疾患に関して、病態、検査、治療、予後を理解する。									
到 達 目 標		骨格系、筋系の疾患に関して、病態、検査、治療、予後を理解し、看護の展開に活かすことができる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	骨・バランス・総論			・骨の役割と意味 ・神経支配 ・可動域 ・ギプス							
2	変形性関節症			・復習 ・変形性関節症 ・骨折							
3	高齢者骨折の治療			・骨粗鬆症患者での骨折 ・大腿骨近位部骨折における地域連携							
4	骨折全般・骨、軟部腫瘍			・緊急対応（骨折）・リウマチの最近の治療、診断・骨腫瘍の最新治療							
5	復習・ロコモ 総論			復習・ロコモ・総論							
6	肩関節周囲の疾患、外傷			総論、疾患外傷各論							
7	末梢神経損傷			総論、各論							
8	試験			試験および解説							
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習）の具体的な内容		教科書を読んでおく。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 100 ％） ☐ 実技試験 （ ％） ☐ 小テスト （ ％） ☐ レポート （ ％） ☐ 課題 （ ％） ☐ 発表 （ ％） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔10〕運動器 第15版（医学書院）									
参 考 書											
授業の留意点・備考		教科書を使用した講義となります									

科目名	臨床薬理学	担当教員	飛野 幸子
-----	-------	------	-------

学科	看護学科	年次	1	開講期	後期	単位数	2	時数	45	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進						選択・必修		必修
担当教員の実務経験		熊本大学医学部付属病院で13年間、済生会熊本病院薬剤部で25年間の調剤業務・薬剤管理指導業務、また、熊本大学薬学部での講義経験を生かし、薬物の効果や副作用・医薬品管理・医療安全についての講義を行うことができる。									
授 業 概 要		薬物の特性・作用機序・副作用について基礎的な知識を学ぶことで、薬物の作用について理解する。系統的に薬の作用を学ぶことで、人体の機能についても理解を深める。また、臨床現場での安全管理では薬剤は重要であるため、実際の医薬品管理や薬剤使用時の取り扱いの注意点についての知識を得る。									
到 達 目 標		薬剤の人体への影響について系統的に理解するとともに、人体の機能への理解を深めることができる。薬物の作用・有害作用について説明できる。医薬品の安全使用についての基本的な考え方を説明できる。医薬品の管理について説明できる。									

授 業 計 画											
回	テーマ					授 業 内 容					
1	薬理学を学ぶにあたって					人類にとって薬物とは何かということ、使用目的・看護師の役割を通して学び、医療安全と薬について学習する。薬理学の成り立ちについても学ぶ。					
2	薬理学の基礎知識①					薬が作用する仕組みについて学ぶ。薬の投与経路と体内動態について学ぶ。					
3	薬理学の基礎知識②					薬力学・薬物動態額（吸収・分布・代謝・排泄）・薬物の相互作用について学ぶ。					
4	薬理学の基礎知識③					薬物使用の有益性と危険性について学ぶ。医薬品に関する法律について理解し、臨床現場での医薬品の取り扱いと注意点を学ぶ。					
5	抗感染症薬①					感染症治療の基礎知識を学ぶ。抗感染症薬の作用機序と適正使用について理解し抗菌薬各論について学ぶ。また、特殊な感染症の治療薬について学ぶ。					
6	抗感染症薬②					抗真菌薬・抗ウイルス薬・抗寄生虫薬について学ぶ。					
7	抗がん薬					がん治療の基本的考え方を学ぶ。薬物治療の目的・抗がん作用の仕組み・抗がん薬各論を学ぶ。また、がん性疼痛の治療についても学ぶ。					
8	免疫治療薬					免疫系の仕組みを理解し、免疫抑制薬と免疫増強薬について学ぶ。					
9	抗アレルギー薬・抗炎症薬					アレルギー反応の成り立ちを理解し、抗アレルギー薬の作用機序と薬剤について学ぶ。炎症の発生機序を理解し、抗炎症薬の種類と特徴を理解する。					
10	末梢神経に作用する薬物					末梢での神経伝達の仕組みを理解し、薬物の作用機序を学ぶ。交感神経・副交感神経・運動神経・知覚神経に作用する薬物について学ぶ。					
11	中枢神経系に作用する薬物①					中枢神経系の組織と神経伝達物質・全身麻酔薬・抗不安薬・睡眠導入薬・向精神病薬・抗うつ薬・気分安定薬について学ぶ。					
12	中枢神経系に作用する薬物②					パーキンソン症候群治療薬・抗てんかん薬・麻薬・片頭痛治療薬について学ぶ。					
13	循環器系に作用する薬物①					降圧薬・抗狭心症治療薬・心不全治療薬について学ぶ。					
14	循環器系に作用する薬物②					不整脈についての基礎知識と抗不整脈薬について学ぶ。利尿薬・脂質異常症治療薬について学ぶ。					
15	循環器系に作用する薬物③					血液凝固系・線溶系に作用する薬物（抗凝固薬・抗血小板薬・止血薬など）について学ぶ。貧血治療薬・血液悪性腫瘍薬について学ぶ。					

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	呼吸器・消化器・生殖器官に作用する薬物	気管支喘息治療薬・鎮咳薬・呼吸促進薬について学ぶ。消化性潰瘍治療薬・制吐薬・便秘下痢に使用される薬物・整腸剤について学ぶ。性ホルモン依存性がん治療薬、更年期障害治療薬、下部泌尿器障害に使用される薬物について学ぶ。
17	物質代謝に作用する薬物①	糖尿病治療薬・甲状腺疾患治療薬について学ぶ。
18	物質代謝に作用する薬物②	視床下部・下垂体ホルモンの作用と治療薬について学ぶ。治療薬としてのビタミンの役割について学ぶ。
19	皮膚科用薬・眼科用薬	皮膚の構造と薬物作用の基礎知識及び皮膚科領域に用いられる代表的な薬物について学ぶ。眼の構造と薬物の作用および眼科領域に用いられる薬物について学ぶ。
20	救急の際に使用される薬物	救急時に用いられる薬物（心臓・血管・脳・消化器・気管支などの急変に使用される薬物）について学ぶ。急性中毒に使用される薬物について学ぶ。
21	漢方薬・消毒薬	西洋薬と漢方薬の考え方の違い、漢方薬の臨床応用について学ぶ。滅菌と消毒の違い、消毒薬の種類とその臨床での使用について学ぶ。
22	輸液製剤・輸血剤・看護に必要な知識	輸液の目的と組成について学ぶ。輸血製剤の種類と管理、投与上の注意点について学ぶ。薬物の濃度計算・添付文書の活用について学ぶ。
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
準備学習（予習復習）の具体的な内容		教科書を読んでおくこと。
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 100 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）
教 科 書		系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなり立ちと回復の促進〔3〕薬理学 第15版 （医学書院） 今日の治療薬 解説と便覧 2021 （南江堂）
参 考 書		
授業の留意点・備考		

科目名	臨床検査	担当教員	佐々木 道太郎
-----	------	------	---------

学科	看護学科	年次	1	開講期	後期	単位数	1	時数	15	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	これまでに急性期病院で経験した臨床検査を講義することができる。検体検査から生理学的検査まで、幅広く経験している。
-----------	--

授 業 概 要	臨床検査とその役割、臨床検査の流れ、系統別臨床検査の進め方、臨床検査の方法と検査値の示すもの、一般・血液検査（輸血に関する検査含む）、微生物検査、病理検査、生理機能検査、画像検査、内視鏡検査
---------	---

到達目標	疾病の回復を促進するために診断、治療、検査として臨床検査および放射線検査の役割と概要を理解できる。
------	--

授 業 計 画	
---------	--

回	テーマ	授 業 内 容
---	-----	---------

1	臨床検査の基礎①	臨床検査とその役割、臨床検査の流れ、臨床検査の準備、検査を受ける患者への説明と注意
---	----------	---

2	臨床検査の基礎②	検体の採取法、保存・移送法、検査に伴う危険とその防止
---	----------	----------------------------

3	臨床検査の基礎③	看護師が実施・指導する検査、生体検査とその介助、検査結果の取り扱い
---	----------	-----------------------------------

4	おもな臨床検査①	一般検査、血液学の検査、化学検査、免疫・血清学の検査、内分泌検査
---	----------	----------------------------------

5	おもな臨床検査②	微生物学的検査、病理学的検査
---	----------	----------------

6	おもな臨床検査③	生体検査（心電図、筋電図、脳波）肺機能検査
---	----------	-----------------------

7	おもな臨床検査④	生体検査（超音波検査）
---	----------	-------------

8	試験・まとめ	総まとめ
---	--------	------

9		
---	--	--

10		
----	--	--

11		
----	--	--

12		
----	--	--

13		
----	--	--

14		
----	--	--

15		
----	--	--

準備学習（予習復習）の 具体的な内容	
-----------------------	--

成 績 評 価	☒ 定期試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%)
	☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☐ その他 ()

教科書	系統看護学講座 別巻 臨床検査 第9版 (医学書院)
-----	----------------------------

参 考 書	
-------	--

授業の留意点・備考	
-----------	--

科目名	微生物学	担当教員	松尾 和夫
-----	------	------	-------

学科	看護学科	年次	1	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進						選択・必修		必修

担当教員の実務経験	研究機関において病原微生物を扱ってきた経験から、医療系大学において研究、講義及び実習を行ってきた。本教科ではそれらの経験を実践的な授業として生かすことができる。
-----------	--

授 業 概 要	看護医療において感染症はきわめて重要な位置を占めている。本教科では病原微生物の性状、感染様式、発病機構、病原微生物と生体の免疫機能などを学ぶことにより、両者のバランスによって生じる疾病についての理解を深めることができる。また、診断方法や消毒方法など科学的な観点から理解することにより看護における感染症予防・対処方法に生かすことが可能になる。
---------	--

到達目標	1.病原微生物について形態、構造、性状及び増殖様式 2.感染成立の要因 3.感染源・感染経路からみた主要な感染症の概要 4.感染に対する生体防御機構、とくに自然免疫と獲得免疫 5.日和見感染、菌交代症及び院内感染 6.消毒と滅菌の違い 7.感染症の診断法と予防の概要 8.主要な感染症の現状、再興・新興感染症及び感染症新法と対策など 以上について説明できる。
------	---

授 業 計 画

回	テーマ	授 業 内 容
---	-----	---------

1	細菌学概要	微生物学の歴史、細菌学の基礎（形態、構造、培養、性状及び病原性など）
---	-------	------------------------------------

2	微生物の性質	代謝、遺伝、薬剤耐性など
---	--------	--------------

3	ウイルスの概要	ウイルスの微細構造、増殖様式、DNAとRNAウイルス
---	---------	----------------------------

4	感染と感染症	病原性と生体防御の関係、感染の成立とその後の経過。感染源と感染経路、細菌感染の機構。ウイルス感染の機構。感染症法の対象となる感染症。
---	--------	--

5	日和見感染	常在細菌叢の役割。代表的な日和見感染。特殊な感染形式
---	-------	----------------------------

6	診断方法、消毒と滅菌について	感染症の検査と診断。病原体を検出する方法。生体の反応（血清学）から診断する方法。消毒と滅菌について。重要な消毒薬の殺菌スペクトル。
---	----------------	---

7	感染に対する生体防御機構	自然免疫と獲得免疫。抗原に対する免疫応答。免疫の所在と免疫に係る細胞について。免疫の仕組み。免疫成立の過程。液性及び細胞性免疫。腸管免疫
---	--------------	--

8	再興感染症	炭疽、結核、デング熱、黄熱病、狂犬病
---	-------	--------------------

9	新興感染症	クリプトスポリジウム、腸管出血性大腸菌症、ヘリコバクター・ピロリ、マレーシア脳炎、SARS、MERS、新型コロナウイルス感染症
---	-------	---

10	血液媒介性感染症	AIDS、アメーバー赤痢、B/C型肝炎（A/E）
----	----------	--------------------------

11	臓器親和性ウイルス感染症	日本脳炎、季節性インフルエンザ、 新型インフルエンザ 、鳥インフルエンザ、ウエストナイル、日本脳炎。
----	--------------	---

12	向汎性及び臓器親和性ウイルス感染症	麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、百日咳
----	-------------------	-------------------

13	輸入感染症	コレラ、細菌性赤痢、チフス、ブルセラ、マラリア
----	-------	-------------------------

14	特殊な感染症	プリオン病、BSE、天然痘、ポリオ、エボラ出血熱、食中毒
----	--------	------------------------------

15	定期試験	まとめと解説

準備学習（予習復習）の具体的な内容	各授業ごとに当該授業の重要点を問題形式にして配布するので事前に学習しておくこと。授業に使用した資料については見直しと重要項目については暗記が必要。通常1時間以上は要する。
-------------------	---

成 績 評 価	☒ 定期試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%)
	☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☐ その他 (%)

教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進〔4〕微生物学 第14版 (医学書院)
-----	---

参 考 書	
-------	--

授業の留意点・備考	授業に使用する資料を事前に配布するので、重要点を書き込む等の補足が重要。
-----------	--------------------------------------

科目名	保健医療論						担当教員	菊池 仁美			
-----	-------	--	--	--	--	--	------	-------	--	--	--

学科	看護学科	年次	1	開講期	前期	単位数	1	時数	15	授業形態	講義・演習
区分	専門基礎分野	教育内容	健康支援と社会保障制度						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験											
授 業 概 要		医学・医療の歩み、健康の概念、医学と医療、我が国の医療供給体制、現代医療における諸問題									
到 達 目 標		医療をめぐる動向を理解し、望ましい医療の在り方について考えることができる。									
授 業 計 画											
回	テーマ				授 業 内 容						
1	医学・医療のあゆみ（１）				人類の誕生と文化の発達、原始生活と病気・医術、医療の原始的形態、古代の医学、中世の医学を学ぶ						
2	医学・医療のあゆみ（２）				宗教医学からの脱却と医学の近代化、近代医学の基礎と臨床医学の近代化、近代医学の発展を学ぶ						
3	健康の概念（１）				健康の概念を学ぶ、疾病について、生活と健康を学ぶ						
4	医学と医療（１）				医学と医療を学ぶ、現代医療の本質、医療の実践を学ぶ						
5	わが国の医療供給体制（１）				医療供給の現状と整備の経過を学ぶ、医療関係者の現状と養成の実態を学ぶ						
6	現代医療における諸問題（１）				医療の進歩と医の倫理を学ぶ、医療における患者の権利を学ぶ						
7	現代医療における諸問題（２）				病状(真実) 告知を学ぶ、脳死と臓器移植を学ぶ、死と生命保持、安楽死、死を共有する						
8	望ましい医療の在り方				今後の医療の展望						
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習）の具体的な内容											
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 80 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☒ レポート （ 10 % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☒ その他 （ ）									
教 科 書		現代医療論 メジカルフレンド社									
参 考 書											
授業の留意点・備考											

科目名	関係法規						担当教員	荒木 紀代子			
-----	------	--	--	--	--	--	------	--------	--	--	--

学科	看護学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	15	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	健康支援と社会保障制度						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		保健医療福祉行政の実務経験に携わった経験やこれまでの研究等を活かして、人びとの健康支援に関連する法規について講義する。									
授 業 概 要		少子高齢化が進展するわが国の社会保障制度の動向を学習し、看護を中心とする関係法令について学習する。									
到 達 目 標		法の概念と厚生行政の仕組みを理解する。看護に関連する関係法規を理解するとともにその意義を説明できる。医事、保健衛生、社会保険、労働などに関する基本理念と法の体系を理解する。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	法の概念と社会保障制度			法とは何かということを学び、社会保障制度の動向について理解する。							
2	衛生法と看護法			衛生法の歴史的変遷と保健師助産師看護師法の成り立ちを学ぶ。							
3	看護法			保健師助産師看護師法および看護師等の人材確保の促進に関する法律を学ぶ。							
4	医事法			医療法、保健医療福祉資格法および臓器移植に関する法律を学ぶ。							
5	保健衛生法			地域保健法、健康増進法および学校保健安全法を学ぶ。							
6	社会保険法と福祉法			高齢者の医療の確保に関する法律、介護保険法および児童福祉法を学ぶ。							
7	労働法			労働条件や職場の安全衛生など労働に関する法律を学ぶ。							
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習）の具体的な内容		教科書を読んでおくこと。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 80 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☒ レポート （ 20 % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔4〕 看護関係法令 第57版（医学書院）									
参 考 書		なし									
授業の留意点・備考		不明な点は積極的に質問すること。									

科目名	社会福祉	担当教員	高倉 統一
-----	------	------	-------

学科	看護学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	健康支援と社会保障制度						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		熊本県国保連合会における介護保険サービス等苦情処理の業務経験を活かし、各制度の概要について講義を行うことができます。									
授 業 概 要		社会保障・社会福祉の理念、戦後社会保障法・政策の展開、社会福祉についての行政・民間組織、医療保障・社会福祉・年金・労働保険・社会手当・公的扶助制度の概要を講義します。									
到 達 目 標		不完全にしか知らないということは知らないということと同義です。この講義では、受講生が社会保障・社会福祉の基本概念（保険者・医療法人・開設者・ケアマネジメント等々）については、資格試験のみならず、医療機関・地域での現場業務にも適う水準となるようにします。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	社会保障とは何か①			社会保険の基礎概念を学ぶ。							
2	社会保障とは何か②			保険制度（保険関係・資格要件・給付内容）の基礎を学ぶ。							
3	医療保障①			医療保障制度における医療保険の位置づけ。							
4	医療保障②			医療保険制度の概要							
5	医療保障③			公費負担医療・精神医療の概要							
6	医療保障④			医事法（医療法、医師法、「保助看法」等）の概要							
7	労働保険			雇用保険法、労働者災害補償保険法の概要							
8	社会福祉とは何か①			社会福祉の基本理念（ノーマライゼーション、エンパワーメント）							
9	社会福祉とは何か②			社会福祉行政機関（厚生労働省の機関、福祉事務所、各種相談所）							
10	高齢者福祉法制			介護保険、高齢者医療制度の概要							
11	児童福祉法制			要保育・要保護・障害児福祉サービス							
12	障害者福祉法制			障害者総合支援法の概要							
13	年金保険			年金制度の概要							
14	社会手当			児童手当法等の概要							
15	公的扶助			生活保護制度の概要							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		予習は必要ありません。よく復習をおこなってください。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 100 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		プリントを配布します									
参 考 書		医事法講義 米村慈人 （日本評論社）									
授業の留意点・備考		毎回の講義において受講生に発言を求めます。									

科目名	リハビリテーション論	担当教員	有働正二郎・緒方茂 前野祥子・田代丈二
-----	------------	------	------------------------

学科	看護学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	15	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	リハビリテーション論						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	各講師は、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士の資格を持ち、当校各学科の専任教員を務めている。実務経験とともに教育経験をもって教授していくことができる。
-----------	---

授 業 概 要	リハビリテーションの理解、リハビリテーションに関わる専門職についての理解、リハビリテーションにおける多職種連携とチームアプローチ、疾患（障害）と病期からみたリハビリテーション
---------	---

到 達 目 標	リハビリテーションとは何かを理解し、多職種連携の考え方とチームアプローチの方法について考えることができる。
---------	---

授 業 計 画		
---------	--	--

回	テーマ	授 業 内 容
1	リハビリテーションの理解	リハビリテーション構成メンバー、リハビリテーションがめざすもの、ICFに基づく考え方について学ぶ。（有働）
2	リハビリテーションに関わる専門職についての理解 ① PT(理学療法士)	理学療法士（PT）の主な役割と活動内容について学ぶ。（緒方）
3	リハビリテーションに関わる専門職についての理解 ①	リハビリテーション(理学療法)における多職種連携について事例（運動機能障害のある患者）を通して学ぶ。（緒方）
4	リハビリテーションに関わる専門職についての理解 ② OT(作業療法士)	作業療法士（OT）の主な役割と活動内容について学ぶ。（有働）
5	リハビリテーションに関わる専門職についての理解 ②	リハビリテーション（作業療法）における多職種連携について事例（認知症の患者）を通して学ぶ。（前野）
6	リハビリテーションに関わる専門職についての理解 ③ ST(言語聴覚士)	言語聴覚士（ST）の主な役割と活動内容について学ぶ。（田代）
7	リハビリテーションに関わる専門職についての理解 ③	リハビリテーション(言語聴覚療法)における多職種連携について事例（嚥下障害のある患者）を通して学ぶ。（田代）
8	リハビリテーション論の総括	評価
9		
10		

準備学習（予習復習）の具体的な内容	
-------------------	--

成 績 評 価	☒ 定期試験 （ 100 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）
---------	--

教 科 書	武田宣子：系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護第6版、医学書院、2015
-------	--

参 考 書	
-------	--

授業の留意点・備考	
-----------	--

科目名	看護学概論	担当教員	岡田玉子
-----	-------	------	------

学科	看護学科	年次	1	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	基礎看護学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		国立病院・民間病院での看護師経験、看護師長の経験を活かし、看護の概念や倫理等を教授できる。									
授 業 概 要		看護学の構成、看護の概念、健康の概念、看護の対象、看護の機能、看護の歴史、看護理論（大理論）									
到 達 目 標		看護への関心を高め、看護学の主要概念を理解する。また、専門家としての看護の役割と看護活動の概要を理解する。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	科目ガイダンス 看護における主要概念			看護学の構成と基礎看護学の位置づけ 「看護」「人間」「環境」「健康」の関係性の理解							
2	4つの主要概念「看護」「人間」「環境」「健康の理解」①			人間のとらえ方							
3	4つの主要概念「看護」「人間」「環境」「健康の理解」②			健康のとらえ方							
4	4つの主要概念「看護」「人間」「環境」「健康の理解」③			環境のとらえ方							
5	看護理論における4つの概念 看護理論と看護モデル			ナイチンゲール・ヘンダーソン・ロイ・ウィーデンバックの理論における4つの概念を捉える。看護理論と看護モデルの違い							
6	看護実践			看護実践の科学性 看護実践の特徴 看護実践の原則							
7	看護の歴史①			古代・中世における看護 近世における看護 近代看護							
8	看護の提供者①			看護職の資格：保助看法からみる看護職 養成制度・就業状況							
9	看護の提供者②			継続教育：院内教育と院外教育 OJTとoff-JT クリニカルラダー キャリア開発：専門看護師 認定看護師 認定看護管理者 特定行為研修							
10	看護提供の仕組み			サービスとしての看護 看護サービス提供の場 チーム医療とは クリティカルパス 多職種チーム							
11	看護倫理①			医の倫理 看護の倫理 インフォームド・コンセント リビング・ウィル等							
12	看護倫理②			事例検討を通して、看護倫理について考える。 「聞いてください看護婦さん」を読む							
13	広がる看護の場 災害看護			看護師の働く場 DMAT DPAT 災害支援看護師 トリアージ							
14	広がる看護の場 国際看護			EPAに基づく外国人看護師の受け入れ 異文化の理解 JICA NiNA							
15	自己の看護観 まとめ			学生各自が、学んだことから自己の「看護観」を整理する。							
準備学習（予習復習）の具体的な内容											
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 85 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☒ 課題 （ 15 % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		系統看護学講座 専門分野Ⅰ 看護学概論 ケースを通して やさしく学ぶ看護理論 日総研									
参 考 書		看護覚え書 フローレンス・ナイチンゲール著 現代社									
授業の留意点・備考		「看護覚え書」を読んで、内容をまとめる。5回目の講義の朝、提出する。（評価対象とする。）									

科目名	看護研究理論	担当教員	岡田 玉子
-----	--------	------	-------

学科	看護学科	年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	15	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	看護研究						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		専門学校や臨床での研究指導経験を生かし講義を行なうことができる。									
授 業 概 要		看護研究の意義を理解し、看護研究についての基礎的知識を学ぶ。									
到 達 目 標		研究の必要性、目的、方法について学び、看護研究の基本的考え方、進め方、倫理的配慮について理解し、看護論文のまとめかたについて知識を習得する。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	研究の意義			研究とは・看護研究とは・研究プロセスの概要を学ぶ。							
2	リサーチクエストと文献検索			リサーチクエストの必要性和文献活用方法について学ぶ。							
3	文献の読み方			文献クリティークの仕方と文献レビューの仕方について学ぶ。 ※成績評価の課題の提示							
4	倫理的配慮・研究デザイン			研究倫理について考える。また、研究デザインの方法について学ぶ。							
5	データ分析（質的研究）			質的研究の分析方法を学ぶ。							
6	データ分析（量的研究）			量的研究の分析方法を学ぶ。							
7	事例研究・ケーススタディー			事例研究とケーススタディーの違い及びその概要を学ぶ。 ※文献クリティークの課題の提出日							
8	研究発表・プレゼンテーション			研究発表のフィールドについて・効果的なプレゼンテーションについて学ぶ。							
9	試験										
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習）の具体的な内容		予定授業の項目について、テキストを読んでおく。授業資料とテキストをもって復習する。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 80 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☒ 課題 （ 20 % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		系統看護学講座別巻 看護研究 医学書院									
参 考 書		看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 新版 昭林社									
授業の留意点・備考		看護研究演習に向け、知識・方法を理解しておく必要がある。予習・復習を十分におこなうこと。 成績評価の課題は、「文献クリティーク」の課題を7回目の講義の朝、8:50までに過番が名簿にチェックをつけて提出。時間に遅れた場合は、0点とする。									

学科	看護学科	年次	3	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	演習
区分	専門分野	教育内容	基礎看護学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		臨床で研究に携わった経験を活かして臨地実習で受け持った患者に実践した看護を事例研究として実際にまとめる過程を指導できる。									
授 業 概 要		看護研究、文献検索、担当教員による個別指導データ収集方法の検討、データ収集および整理の検討、データ整理の仕方の解説、論文の書き方の視点解説、看護研究の論文作成、看護研究発表の実際。									
到 達 目 標		事例研究として論文をまとめ、プレゼンテーションすることができる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	研究の意義・アウトライン			研究の進め方、テーマの表現方法、文献検索の一般的方法							
2	看護研究の進め方			領域の決定・担当教員決定・データ収集方法							
3	事例研究とケースレポート			事例研究の進め方、研究計画書作成							
4	看護研究の実際			はじめに、考察、結論、おわりに、の記述方法、発表方法							
5	パワーポイント作成・発表の実際			実際に記述してみよう							
6	研究発表会			研究結果を、それぞれ発表する。							
7	研究発表会			研究結果を、それぞれ発表する。							
8	研究発表会			研究結果を、それぞれ発表する。							
9	研究発表会			研究結果を、それぞれ発表する。							
10	研究発表会			研究結果を、それぞれ発表する。							
11	研究発表会			研究結果を、それぞれ発表する。							
12	研究発表会			研究結果を、それぞれ発表する。							
13	研究発表会			研究結果を、それぞれ発表する。							
14	研究発表会（予備）			原稿の最終提出							
15	まとめ			看護観の記入							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		2年次のテキストや講義資料を復習し、講義時は持参すること。									
成 績 評 価		☐ 定期試験 （ %） ☐ 実技試験 （ %） ☐ 小テスト （ %） ☒ レポート （ 90 %） ☐ 課題 （ %） ☒ 発表 （ 10 %） ☒ その他 （ %） （担当教員とのコンタクト状況等を含めた総合評価）									
教 科 書		系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院									
参 考 書		看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 新版 照林社									
授業の留意点・備考		実習にて対象を決定し、担当教員からの指導を受け計画的に進める。									

[illegible]

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	呼吸器系のフィジカルアセスメント	呼吸器系をアセスメントするための知識を学ぶ
17	循環器系のフィジカルアセスメント	循環器系をアセスメントするための知識を学ぶ
18	乳房・腋窩、腹部のフィジカルアセスメント	乳房・腋窩、腹部をアセスメントするための知識を学ぶ
19	筋・骨格系、神経系のフィジカルアセスメント	筋・骨格系をアセスメントするための知識を学ぶ
20	頭頸部・感覚器・外皮系のフィジカルアセスメント	頭頸部・感覚器・外皮系をアセスメントするための知識を学ぶ
21	心理・社会状態のアセスメント	対象の心理・社会状態をアセスメントするための知識を学ぶ
22	事例から考えるフィジカルアセスメント	グループワーク・発表
23	試験	
準備学習（予習復習）の具体的な内容		解剖生理学を理解しておくこと
成 績 評 価	☐ 定期試験 （ 80 %） ☐ 実技試験 （ %） ☐ 小テスト （ %） ☒ レポート （ 20 %） ☐ 課題 （ %） ☐ 発表 （ %） ☐ その他 （ ）	
教 科 書	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 医学書院	
参 考 書	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術第2版 医学書院	
授業の留意点・備考	バイタルサイン測定に関しては技術チェックを行う。基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱまでに技術を習得すること。	

科目名	基礎看護技術Ⅰ							担当教員	首藤 真奈美 坂本 浩子		
学科	看護学科	年次	1	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	基礎看護学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		内科・外科病棟に入院する患者の看護経験を活かし、講義・演習を行うことができる。									
授 業 概 要		感染予防技術・スタンダードプリコーション（標準予防策）使用した器具の感染防止の取扱い・感染性廃棄物の取扱い・無菌操作、安全管理の技術・インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告・患者の誤認防止策の実施									
到 達 目 標		看護技術に共通する、看護技術の考え方や安全管理の技術、安楽確保の技術、感染防止対策、安全管理の技術について根拠を理解して安全・安楽に実施できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	感染予防について			感染と感染予防の基礎知識、看護師の責務と役割を学ぶ							
2	スタンダードプリコーション			CDCガイドライン、スタンダードプリコーション、感染経路別予防策感染源対策を学ぶ							
3	手洗いの実際			演習							
4	感染経路への対策			感染経路別予防策 感染性医療廃棄物に関する基礎知識を学ぶ							
5	院内感染について			院内感染の要因やその制御のための基礎知識を学ぶ。							
6	無菌操作			洗浄・消毒・滅菌、無菌操作の基礎知識・実際							
7	無菌操作の実際			演習							
8	無菌操作の実際			演習							
9	安全確保の基礎知識			安全確保の基礎知識 主な医療事故、インシデント・アクシデントレポートについて							
10	誤薬防止の基礎知識と実際			誤薬防止の基礎知識と危険薬、与薬業務の過程ごとの誤薬防止の実際を学ぶ。 患者誤認防止のための方法について学ぶ。							
11	チューブ類の事故防止の基礎知識と実際			チューブ類の事故防止、予定外抜去防止、チューブ類の閉塞・接続外れ・接続間違い防止、血管外露出防止の実際を学ぶ。							
12	転倒・転落防止の基礎知識と実際			転倒・転落の発生要因とリスクアセスメント、防止策を理解する。							
13	薬剤・放射線暴露の防止			抗がん薬暴露防止、放射線暴露防止の方法を学ぶ。							
14	針刺し事故防止について			針刺し事故防止に必要な知識と技術を理解する。							
15	日常生活で起こる事故について考える（事例）			演習 自己の看護援助の振り返り グループワーク							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		解剖生理学を理解しておくこと									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 80 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☒ レポート （ 10 % ） ☐ 課題 （ % ） ☒ 発表 （ 10 % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 医学書院									
参 考 書		根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術第2版 医学書院									
授業の留意点・備考											

科目名	基礎看護技術Ⅱ	担当教員	工藤 かしみ 濱崎 勝子
-----	---------	------	-----------------

学科	看護学科	年次	1	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	基礎看護学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		内科の疾患、外科の疾患を持つ入院患者への看護経験を活かし、講義・演習を行うことができる。									
授 業 概 要		生活環境を整える技術、活動と休息のバランスを整える技術、安楽確保の技術について、根拠を理解して安全・安楽に実施できる。									
到 達 目 標		環境・活動と休息・安楽確保の技術									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	生活環境、療養環境について考える			自分の周囲の生活環境について、療養環境の調整の意義、構成要素についてグループワークをする							
2	ベッド周囲の環境整備			病室と病床の環境調整について学ぶ							
3	ベッドメイキング・リネン交換			ベッドメイキング・リネン交換の実際を学ぶ							
4	基本的なベッドメイキングの実際			演習							
5	基本的なベッドメイキングの実際			演習							
6	活動・休息援助技術について			活動・休息援助技術(基本的活動の基礎知識、体位、体位変換、ポジショニング、歩行、移乗、移送)の実際を学ぶ							
7	体位変換、ポジショニングの技術・実際			体位変換、体位保持の実際を演習する							
8	体位変換、ポジショニングの技術・実際			体位変換、体位保持の実際を演習する							
9	移動・移乗・移送の技術・実際			移動・移乗・移送の実際を演習する							
10	移動・移乗・移送の技術・実際			移動・移乗・移送の実際を演習する							
11	睡眠と休息の援助			睡眠と休息の援助(基礎知識、睡眠障害のアセスメント、援助の実際)を学ぶ							
12	苦痛の緩和・安楽確保の技術			苦痛の緩和・安楽確保の技術（体位保持、電法、身体ケアを通じてもたらされる安楽）を学ぶ							
13	臥床患者のシーツ交換			臥床患者のシーツ交換の方法を学ぶ							
14	臥床患者のシーツ交換の実際			演習							
15	臥床患者のシーツ交換の実際			演習							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		・解剖生理学を理解しておくこと ・事前に基礎看護技術Ⅱの教科書を読んでおくこと									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 80 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☒ レポート （ 20 % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☒ その他 （ % ） 技術確認(ベッドメイキング、移乗・移送)									
教 科 書		系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 医学書院									
参 考 書		根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術第3版 医学書院									
授業の留意点・備考		・基礎看護学実習Ⅰ～Ⅱへ行くまでに技術確認にてベッドメイキング、移乗・移送の技術を習得すること。 ・レポートは期限時間内に提出すること。遅れたり未提出の場合は評価に含まない。									

科目名	基礎看護技術Ⅲ							担当教員	首藤 眞奈美		
学科	看護学科	年次	1	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	基礎看護学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		病棟での看護経験を活かし、基礎的な看護の知識・技術を講義・演習を通して教授することができる									
授 業 概 要		清潔・衣生活援助技術・足浴・手浴・整容・点滴・ドレーン等を留置していない患者の寝衣交換・入浴・シャワー浴の介助・陰部の保清・清拭・洗髪・口腔ケア									
到 達 目 標		日常生活を送る際の清潔保持について、援助が必要な対象者に対する看護技術を根拠を理解して安全・安楽に実施できる。									
回	テーマ			授 業 内 容							
1	清潔の援助の基礎知識（１）			1.清潔のとは 2）身体清潔の意義 3）清潔援助の効果 4）清潔援助における看護師の役割							
2	清潔援助における身体への影響と清潔方法の選択			1）皮膚の構造と機能 2）清潔行動に影響を与える因子と観察 3）清潔方法の選択 4）洗浄剤の使用 5）清潔援助実施上の原則							
3	衣生活の意義、整容			1.整容 1)整容の目的 2）整容実施時の観察と注意点 2.衣生活 1）衣生活の意義 2）熱産生と熱放散 3）被服気候 4）衣生活に影響を与える因子 5）衣服の選択 6）寝衣交換の方法と注意点							
4	寝衣交換の実際			寝衣交換演習							
5	対象に応じた看護①（入浴・シャワー浴・手浴・足浴）			1.入浴・シャワー浴 1）目的 2）入浴動作が身体に及ぼす影響 3）入浴方法の選択と観察 4）入浴援助時の注意点 2.部分浴（手浴、足浴）1）部分浴の目的 2）部分浴の適応 3）部分浴の禁忌 4）部分浴の方法と注意点							
6	対象に応じた看護②（全身清拭・陰部洗浄）			1.清拭 1）全身清拭の目的 2）全身清拭の適応と禁忌 3）全身清拭実施前後の観察点 4）清拭の方法の選択 5）全身清拭の方法と注意点 2.陰部洗浄 1）陰部洗浄の目的 2）陰部の構造と特徴 3）陰部清潔の方法 4）陰部洗浄時の注意点							
7	清潔援助の実際（１）			全身清拭(演習)・陰部洗浄							
8	清潔援助の実際（２）			全身清拭(演習)・陰部洗浄							
9	清潔援助の実際（３）			部分浴（手浴・足浴）							
10	対象に応じた看護（洗髪）			1）洗髪の意義 2）洗髪の方法 3）洗髪方法の選択 4）洗髪実施前後の観察 5）洗髪の方法と注意点							
11	清潔援助の実際（１）			洗髪(演習)							
12	清潔援助の実際（２）			洗髪(演習)							
13	対象に応じた看護（口腔ケア）			1）口腔ケアの目的 2）口腔の構造と機能 3）口腔ケアの効果 4）口腔ケアの方法と物品の選択 5）口腔ケア時の注意点 6）義歯の取り扱い							
14	清潔援助の実際（１）			口腔ケア・整容(演習)							
15	事例を用いた清潔援助の実際			まとめ							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		1）皮膚の構造や機能、口腔内の構造については学習して臨むこと。（レポート課題）									
成 績 評 価		☐ 定期試験 （ 80 %） ☒ 実技試験 （ %） ☒ 小テスト （ %） ☒ レポート （ 20 %） ☐ 課題 （ %） ☐ 発表 （ %） ☐ その他（全身清拭は技術の確認を行う ）									
教 科 書		1. 系統看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院									
参 考 書		1. 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院									
授業の留意点・備考		不明な点は積極的に質問して解決すること。授業中に課したレポート課題、授業態度は加減点の対象とする。 授業を欠席した場合は教科担当に申し出て授業で使用した必要な資料をもらいに来ること。 全身清拭の技術は、基礎看護学実習までには習得しておく。									

学科	看護学科	年次	1	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	基礎看護学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		病棟での看護経験を活かし、基礎的な看護の知識・技術を講義・演習を通して教授することができる									
授 業 概 要		食事の援助技術（食事摂取の介助、摂食・嚥下訓練、経管栄養法） 排泄の援助技術（尿器・便器の種類とあて方、おむつ交換、摘便、浣腸、導尿）									
到 達 目 標		食と排泄を整える技術について、根拠を理解した上で安全・安楽に実施できる。									
回	テーマ			授 業 内 容							
1	食事援助の基礎知識			栄養状態および接触能力、食欲や食に対する認識のアセスメント、医療施設で提供される食事の種類と形態							
2	食事摂取の介助			援助の基礎知識、援助の実際（演習）							
3	摂食・嚥下訓練（１）			援助の基礎知識							
4	摂食・嚥下訓練（２）			援助の実際（演習）							
5	非経口的栄養摂取の援助			経管栄養法（演習）							
6	自然排尿および自然排便の基礎知識			排泄の意義、排泄器官の機能と排泄のメカニズム、排泄・排泄動作のアセスメント							
7	尿器・便器の種類とあて方			援助の基礎知識、援助の実際（演習）							
8	おむつ交換・陰部洗浄			援助の基礎知識、援助の実際（演習）							
9	浣腸（１）			援助の基礎知識							
10	浣腸（２）			援助の実際（演習）							
11	浣腸（３）			援助の実際（演習）							
12	人工肛門			援助の実際（演習）							
13	導尿（１）			援助の基礎知識							
14	導尿（２）			援助の実際（演習）							
15	導尿（３）			援助の実際（演習）							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		レポート課題・授業内容復習の小テスト									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 90 ％ ） ☐ 実技試験 （ ％ ） ☐ 小テスト （ ％ ） ☒ レポート （ 10 ％ ） ☐ 課題 （ ％ ） ☒ 発表 （ ％ ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		1. 系統看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院									
参 考 書		1. 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院									
授業の留意点・備考		「導尿」は臨地実習に行くまでに習得すること。									

科目名	臨床看護学総論							担当教員	梅下 恵		
-----	---------	--	--	--	--	--	--	------	------	--	--

学科	看護学科	年次	1	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	基礎看護学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		内科的疾患、外科的疾患を持つ入院患者の看護経験を活かし、講義・演習を行うことができる。									
授 業 概 要		・健康上のニーズを持つ対象者と家族・健康状態の経過に基づく看護・主要な症状を示す対象者の看護・呼吸機能障害、循環機能障害・栄養・代謝障害、排泄機能障害・身体的不活動、休息・睡眠障害、認知・知覚障害・ストレスとコーピング・安全や生体防御、安楽障害、治療・処置を受ける患者の看護									
到 達 目 標		臨床看護の場、対象（家族も含む）の健康状態の経過からみた特徴と看護、主要な症状を示す対象者への看護、治療や処置を受ける患者の看護を理解する。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	健康上のニーズを持つ対象者と家族			ライフサイクル、家族の機能、生活と療養の場からとらえた対象と家族の健康上のニーズ							
2	健康状態の経過に基づく看護（急性期）			急性期の特徴、急性期の患者のニーズ、急性期にある患者への看護援助							
3	健康状態の経過に基づく看護（慢性期）			慢性期の特徴、慢性期の患者のニーズ、慢性期にある患者への看護援助							
4	健康状態の経過に基づく看護（リハビリ期）			リハビリ期の特徴、リハビリ期の患者のニーズ、リハビリ期にある患者への看護援助							
5	健康状態の経過に基づく看護（終末期）			終末期の特徴、終末期にある患者のニーズ、終末期にある患者への看護援助							
6	死の看取りの援助技術（演習）			死後の処置							
7	主要な症状を示す対象者の看護（呼吸機能障害）			呼吸機能障害に関連する症状のメカニズム、アセスメント、必要な看護援助							
8	主要な症状を示す対象者の看護（呼吸機能障害）			呼吸機能障害に関連する症状のメカニズム、アセスメント、必要な看護援助							
9	主要な症状を示す対象者の看護（循環機能障害）			循環機能障害に関連する症状のメカニズム、アセスメント、必要な看護援助							
10	主要な症状を示す対象者の看護（循環機能障害）			循環機能障害に関連する症状のメカニズム、アセスメント、必要な看護援助							
11	主要な症状を示す対象者の看護（栄養・代謝障害・排泄機能障害）			栄養・代謝・排泄障害に関連する症状のメカニズム、アセスメント、必要な看護援助							
12	主要な症状を示す対象者の看護（身体的不活動・休息障害、認知・知覚障害）			身体的不活動・休息障害、認知に関連する症状のメカニズム、アセスメント、必要な看護援助							
13	主要な症状を示す対象者の看護（ストレス・コーピング）			ストレス・コーピングに関連する症状のメカニズム、アセスメント、必要な看護援助							
14	主要な症状を示す対象者の看護（安全・生体防御・安楽障害）			安全・生体防御機能に関連する症状のメカニズム、アセスメント、必要な看護援助							
15	主要な症状を示す対象者の看護（安全・生体防御・安楽障害）			安全・生体防御機能に関連する症状のメカニズム、アセスメント、必要な看護援助							
準備学習（予習復習）の具体的な内容											
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ % ）									
教 科 書		系統看護学講座 臨床看護学総論 医学書院									
参 考 書		系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学技術Ⅱ 医学書院									
授業の留意点・備考											

科目名	臨床看護技術Ⅰ							担当教員	濱崎 勝子		
-----	---------	--	--	--	--	--	--	------	-------	--	--

学科	看護学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	基礎看護学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		消化器外科、手術室での患者への看護経験を活かし、講義・演習を行うことができる。									
授 業 概 要		与薬の技術・薬剤等の管理（毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤、抗悪性腫瘍薬を含む）・経口薬・経皮・外用薬の投与・坐薬・皮下注射・筋肉内注射・静脈路確保・点滴静脈内注射・輸血の管理、針刺し事故防止・事故後の対応・状況設定での演習									
到 達 目 標		与薬の技術の科学的根拠と正確な方法を理解して安全に実施できる技術を身につける。									
授 業 計 画											
回	テーマ				授 業 内 容						
1	与薬の基礎知識				薬剤の基本的性質・看護師の役割						
2	与薬の種類				経口薬、経皮的、外用薬・直腸内与薬						
3	注射の基本的知識				注射の基本的知識(針刺し事故の取り扱いを含む)						
4	注射の技術				注射剤の準備(演習)						
5	皮内注射・皮下注射・筋肉内注射				皮内注射・皮下注射・筋肉内注射の実際（講義）						
6	筋肉内注射				筋肉内注射（演習）						
7	筋肉内注射				筋肉内注射（演習）						
8	静脈内注射				静脈内注射（シリンジポンプの操作含む）・中心静脈カテーテルについて(講義)						
9	静脈内注射①				静脈内注射（演習）						
10	静脈内注射②				静脈内注射（演習）						
11	点滴静脈内注射①				点滴静脈内注射：輸液の準備（演習）						
12	点滴静脈内注射②輸液ポンプ③輸血				点滴静脈内注射：輸液の準備（演習）						
13	点滴静脈内注射②輸液ポンプ③輸血				点滴静脈内注射（演習）輸液ポンプの操作（演習） 血液製剤の種類と適応(講義)、輸血の準備、輸血管理の実際（演習）						
14	人体へのリスクの大きい薬剤のばく露予防策				人体へのリスクの大きい薬剤のばく露予防策の実際・事例演習の自己学習						
15	持続点滴を行っている患者への看護援助の実例				事例も用いた演習 点滴中の患者の移動・清拭など						
準備学習（予習復習）の具体的な内容											
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 90 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☒ 課題 （ 10 % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 医学書院									
参 考 書		根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 医学書院 任 和子									
授業の留意点・備考		講義・演習の繰り返しになるため、演習前には、映像学習と・参考書を持ちに事前学習を行う。 演習後の振り返りを習慣化する。 基礎看護学実習Ⅱまでには終了する。									

科目名	臨床看護技術Ⅱ	担当教員	坂本 浩子
-----	---------	------	-------

学科	看護学科	年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	45	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	基礎看護学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		内科的疾患、外科的疾患を持つ入院患者の看護経験を活かし、講義・演習を行うことができる。									
授 業 概 要		1.呼吸・循環を整える技術：・酸素吸入療法、酸素ポンベの取り扱い　・ネブライザーを用いた気道内加湿　・口腔・鼻腔内・気管内吸引　・体位ドレナージ　・胸腔ドレナージ　・人工呼吸器の取り扱い ・抹消循環促進ケア 2.創傷管理技術：・創傷処置（創洗浄と創保護、包帯法）　・褥瘡予防 3.症状・生体機能管理技術：・静脈血採血、血糖自己測定の実施　・医療器具（心電図、心電図モニター）の操作と検査時の看護　・酸素吸入・ドレーン等を留置している患者の移乗動作									
到 達 目 標		診断・治療の過程で行われる看護技術を身につける。									

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
1	医療機器の取り扱い	医療機器を安全に使うために、測定機器の原理と実際
2	酸素療法①	酸素療法の基礎知識、目的、適応、援助の実際
3	酸素療法②	酸素ポンベの取り扱い（演習）、残量計算
4	排痰ケア	排痰ケアの目的と方法、体位ドレナージ、咳嗽助法、ハフティング（演習）
5	吸引①	一時的吸引の基礎知識
6	吸引②	口腔・鼻腔内吸引、気管内吸引の方法と留意点
7	吸引③	口腔内吸引（演習）
8	胸腔ドレナージ	胸腔ドレナージの目的と方法、援助の実際
9	吸入	吸入の基礎知識、ネブライザーを用いた援助の実際
10	人工呼吸療法	人工呼吸療法の基礎知識、援助の実際
11	末梢循環促進ケア	末梢循環促進技術の基礎知識、援助の実際（演習）
12	創傷管理	創傷管理の基礎知識、創傷治癒のための環境
13	創傷治癒	創洗浄と創保護、テープ固定法、包帯法（演習）
14	褥瘡予防①	褥瘡予防の基礎知識、援助の実際
15	褥瘡予防②	臥位患者・座位患者の褥瘡予防のケア（演習）

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	症状・生体機能管理技術①	心電図
17	症状・生体機能管理技術②	心電図モニター、Spo2モニター、援助の実際（演習）
18	採血①	採血の基礎知識、採血の目的、方法、留意点、援助の実際
19	採血②	真空管採血（演習）、血糖自己測定の実施
20	採血③	真空管採血（演習）
21	採血④	真空管採血（演習）
22	酸素療法・モニター装着・ドレナージ等行っている患者の移乗動作	酸素療法・モニター装着・ドレナージ等行っている患者の移乗動作（演習） グループワーク 振り返り
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
準備学習（予習復習）の具体的な内容		
成 績 評 価	☒ 定期試験 （ 70 %） ☐ 実技試験 （ %） ☒ 小テスト （ 10 %） ☐ レポート （ %） ☒ 課題 （ 20 %） ☐ 発表 （ %） ☐ その他 （ ）	
教 科 書	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床 看護技術 医学書院	
参 考 書		
授業の留意点・備考		

学科	看護学科	年次	1	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	基礎看護学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		内科・外科病棟での看護経験を活かし、看護の展開、在宅へ向けての援助について講義・演習を行うことができる。									
授 業 概 要		看護過程の概要、看護過程の各段階（情報収集・アセスメント・看護診断・看護計画立案・実施・評価）、問題解決過程、クリティカルシンキング、リフレクション、看護記録、学習支援、事例を用い、ゴードンの枠組みを使用し一連の看護過程の展開									
到 達 目 標		看護実践に必要な看護過程の基本的事項や構成要素について理解し、事例を通して一連の看護過程の展開方法を実施できる基礎的な技術を習得する。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	看護過程の概要			看護過程を理解する ①看護過程の概要 ②看護過程とは							
2	看護過程の各段階			① アセスメント：情報の意味づけ② 看護問題の明確化(看護診断) ③ 計画 ④ 実施 ⑤ 評価							
3	症状をアセスメントしていく			看護過程の各段階の相互関係：症状に対してのアセスメント							
4	看護過程を展開する考え方			①問題解決過程②クリティカルシンキングと看護過程との関係③倫理的判断 ④リフレクション							
5	看護記録の書き方を理解する			看護記録の構成・留意点を学ぶ							
6	事例：腰椎圧迫骨折アセスメント			アセスメントを理解する（個人でのアセスメント検討）							
7	事例：急性心筋梗塞アセスメント			アセスメントを理解する（グループでのアセスメント検討）							
8	情報の整理とアセスメント			事例のグループワークの内容発表 まとめ							
9	関連図			関連図を理解する（グループでの関連図の検討）							
10	関連図の理解			事例のグループワークの内容発表 まとめ							
11	看護問題の明確化			看護問題の明確化(看護診断)を理解する（個人ワーク・グループワーク）							
12	看護計画とは			看護計画を理解する。看護計画の構成要素（目標・観察計画・援助計画・教育計画）を学ぶ							
13	看護計画立案（１）			看護計画を理解する（グループワーク）							
14	看護計画立案（２）			事例のグループワークの内容発表							
15	学習支援			看護の役割、学習支援の基礎知識、学習支援の技術・方法							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		急性心筋梗塞の病態整理、心臓の機能と構造									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 50 ％） ☐ 実技試験 （ ％） ☐ 小テスト （ ％） ☐ レポート （ ％） ☒ 課題 （ 50 ％） ☐ 発表 （ ％） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 医学書院									
参 考 書		1. 患者さんの情報収集ガイドブック メヂカルフレンド社 古橋洋子著 2. 看護診断ハンドブック リンダJ.カルベニート 3. 疾患別看護過程の展開 4. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論 基礎看護学④ 医学書院									
授業の留意点・備考		基礎看護学実習Ⅰと同時期に授業を行うことによって、患者の持つ情報の重要性に気づくことができるよう授業をすすめていく。									

科目名	地域・在宅看護論概論Ⅰ	担当教員	濱崎 勝子
-----	-------------	------	-------

学科	看護学科	年次	1	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	地域・在宅看護論						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		看護師及び介護支援専門員としての実務経験を活かし、在宅看護全般について講義を行うことができる。									
授 業 概 要		家族・地域に暮らすすべての人々、暮らし、支えあい、健康の保持増進(生活習慣予防、介護予防、セルフケア、健康行動)、地域の生活環境が健康に与える影響（フィールドワーク）									
到 達 目 標		地域に暮らす人々の暮らしを理解するとともに、暮らしが健康に与える影響を理解する。									
授 業 計 画											
回	テーマ	授 業 内 容									
1	人々の暮らしと地域・在宅看護（１）	人々の暮らしの理解									
2	人々の暮らしと地域・在宅看護（２）	地域・在宅看護の役割									
3	自分の暮らし	個人ワーク・発表									
4	暮らしの基盤としての地域の理解	システム理論、地域包括ケアシステムと地域共生社会									
5	地域を理解する（熊本市西区春日）	PowerPoint作成									
6	地域の理解	発表									
7	地域・在宅看護の対象（１）	地域・在宅看護の対象者									
8	地域・在宅看護の対象（２）	家族の理解									
9	地域における暮らしを支える看護（１）	暮らしを支える地域・在宅看護、暮らしの環境を整える看護									
10	地域における暮らしを支える看護（２）	対象、提供方法、家族、ライフステージ									
11	地域における暮らしを支える看護（３）	疾病とライフステージ									
12	自分の暮らす地域の特性および健康に関する取り組み（１）	PowerPoint発表									
13	自分の暮らす地域の特性および健康に関する取り組み（２）	PowerPoint発表									
14	地域における暮らしを支える看護（４）	地域での暮らしにおけるリスクの理解									
15	まとめ										
準備学習（予習復習）の具体的な内容		自分の住んでいる地域の特性について、調べておくこと									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 70 ％ ） ☐ 実技試験 （ ％ ） ☐ 小テスト （ ％ ） ☐ レポート （ ％ ） ☒ 課題 （ 30 ％ ） ☐ 発表 （ ％ ） ☒ その他 （ 出席・態度 ）									
教 科 書		地域・在宅看護の基盤(地域・在宅看護論1)									
参 考 書											
授業の留意点・備考		夏季休暇を利用して、フィールドワークを行う。									

科目名	地域・在宅看護論概論Ⅱ	担当教員	松尾 祐子
-----	-------------	------	-------

学科	看護学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	地域・在宅看護論						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		看護師として病院及び在宅領域で10年以上の実務経験を活かし、在宅看護全般について講義を行うことができる。									
授業概要		健康と暮らしを支える看護（地域包括ケアシステム、自助／互助／共助／公助、家族支援、多職種連携、協働）、看護が提供される多様な場、地域・在宅看護論に関連する法と制度、生活を継続するための支援（自己決定支援、ケアマネジメント、インフォーマルネットワーク）									
到達目標		健康上の課題を抱えて地域で暮らしながら療養する人々とその家族の特徴を知るとともに、在宅看護の基本的な考え方、暮らしを支援する地域包括ケアシステム、在宅での法と制度を理解する。暮らしの場において療養者とその家族の尊厳を守り、自立を促し、QOLの維持向上を目指した看護のあり方を理解する。									
授業計画											
回	テーマ			授業内容							
1	地域・在宅看護実践の場と連携1			Aさまざまな場、さまざまな職種で支える地域での暮らし Bおもな地域・在宅看護実践の場							
2	地域・在宅看護実践の場と連携2			C地域・在宅看護における多職種連携							
3	地域・在宅看護にかかわる制度とその活用1			A介護保険・医療保険制度①							
4	地域・在宅看護にかかわる制度とその活用2			A介護保険・医療保険制度②							
5	地域・在宅看護にかかわる制度とその活用3			B地域・在宅看護にかかわる医療提供体制							
6	地域・在宅看護にかかわる制度とその活用4			C訪問看護の制度①							
7	地域・在宅看護にかかわる制度とその活用5			C訪問看護の制度②							
8	地域・在宅看護にかかわる制度とその活用6			D地域保健にかかわる法制度 E高齢者に関する法制度							
9	地域・在宅看護にかかわる制度とその活用7			F障害者・難病に関する法制度 G公費負担医療に関する法制度 H権利保障に関連する制度							
10	中間まとめ										
11	地域共生社会における多職種連携・多職種チームでの協働1			A地域・在宅看護における多職種連携							
12	地域共生社会における多職種連携・多職種チームでの協働2			B医療・福祉・介護関係者との連携・協働 C医療・福祉・介護関係者以外との連携・協働							
13	地域共生社会における多職種連携・多職種チームでの協働3			D地域共生社会を実現するために							
14	地域・在宅看護マネジメント			A地域・在宅看護マネジメントとは B多様な場における地域・在宅看護マネジメント							
15	総まとめ										
準備学習（予習復習）の具体的な内容		1年次の老年看護学概論における介護保険法について復習しておく。 1年次に地域・在宅看護論概論1で学習した知識が基盤となるため復習しておくこと。									
成績評価		☒ 定期試験 （80％） ☐ 実技試験 （ ％） ☐ 小テスト （ ％） ☐ レポート （ ％） ☒ 課題 （20％） ☐ 発表 （ ％） ☒ その他（出席・態度 ）									
教科書		系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 地域在宅看護論1 医学書院 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 地域在宅看護論2 医学書院									
参考書											
授業の留意点・備考											

科目名	地域・在宅看護論援助論Ⅰ	担当教員	大石 逸子・上野 裕美 松尾 祐子
-----	--------------	------	----------------------

学科	看護学科	年次	2	開講期	前期	単位数	2	時数	45	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	地域・在宅看護論						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	訪問看護活動、病院での退院調整、地域連携、介護保険事業での地域行政との関わりの経験を活かし、病院から地域への移行支援、在宅療養支援の実践事例を交えて講義する事ができる。										
-----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

授業概要	地域で療養生活を送る人と家族のアセスメント（ヘルスアセスメント、病態、症状、家族、生活のアセスメント）、暮らしの中で行われる治療と看護（褥瘡、栄養、輸液、排泄、呼吸、疼痛管理等）について事例を用いて在宅でのケア										
------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

到達目標	在宅で暮らしている療養者や障がい者とその家族との援助的関係形成のための基本的知識・技術を学び、在宅看護に必要な看護技術、高度な医療を支える看護とその方法等について習得する。										
------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

授業計画											
------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	地域における在宅看護のケアマネジメントを学ぶ。
2	チームアプローチと在宅看護の役割	在宅でのチームケアにおける多職種・諸機関との連携・協力・役割。
3	在宅看護の実際（１）	在宅で療養生活をしている高齢者（終末期）と家族への看護を学ぶ。
4	在宅看護の実際（２）	在宅で療養生活をしている高齢者（認知症・パーキンソン病）と家族の看護。
5	在宅看護の実際（３）	在宅で療養生活している成人（独居・脳卒中）と家族の看護。
6	在宅看護の実際（４）	在宅で療養生活している成人（人工呼吸療法・COPD）と家族の看護。
7	在宅看護の実際（５）	在宅で療養生活をしている小児と家族への看護を学ぶ。
8	在宅看護技術（１）	訪問看護の1日を学ぶ。療養者の日常生活を「生活行為」としてみていくこと。動作分析を学ぶ。
9	在宅看護技術（２）	呼吸に関するアセスメントや在宅看護技術を学ぶ。
10	在宅看護技術（３）	食生活・嚥下に関するアセスメント・在宅看護技術を学ぶ。
11	在宅看護技術（４）	排泄・清潔に関するアセスメント・在宅看護技術を学ぶ。
12	在宅看護技術（５）	移動・移乗・認知に関するアセスメント・在宅看護技術を学ぶ。
13	処置別・在宅看護援助方法（１）	医療管理を要する人の看護を学ぶ。（褥瘡・排泄・栄養・呼吸）
14	処置別・在宅看護援助方法（２）	医療管理を要する人の看護を学ぶ。（外来がん治療・疼痛緩和）
15	地域・在宅における時期別の看護	健康・外来・入院・在宅・急性増悪・終末・在宅療養終了期の看護
16	在宅看護過程の展開方法	在宅看護過程の展開方法の実際について学ぶ。
17	事例による在宅看護の看護過程の展開（１）	療養者の情報収集・アセスメントの実際
18	事例による在宅看護の看護過程の展開（２）	療養者の情報収集・アセスメントの実際
19	事例による在宅看護の看護過程の展開（３）	全体関連図・ケアシステムの実際
20	事例による在宅看護の看護過程の展開（４）	全体関連図・ケアシステムの実際

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
21	事例による在宅看護の看護過程の展開（５）	看護問題・看護計画・１日の記録の実際
22	事例による在宅看護の看護過程の展開（６）	看護問題・看護計画・１日の記録の実際
23	まとめ	
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
準備学習（予習復習）の具体的な内容		疾病治療論、小児看護援助論、慢性期看護援助論、老年看護援助論の科目から各回に関連した学習内容を復習しておく。
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 80 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☒ レポート （ 20 % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）
教 科 書		系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤 医学書院、 系統看護学講座 地域・在宅看護の実践 医学書院
参 考 書		角田直枝 編，知識が身につく！実践できる！よくわかる在宅看護，Gakken，
授業の留意点・備考		実践の事例で講義します。不明な点は積極的に質問し、エビデンスを明確にしましょう。

学科	看護学科	年次	2	開講期	後期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	地域・在宅看護論						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		看護師として病院及び在宅領域で10年以上の実務経験を活かし、在宅看護全般について講義を行うことができる。									
授 業 概 要		事例を通して暮らしの場で展開する看護ケア、介入時期と看護の継続性、健康と暮らしを支える看護（地域包括ケアシステム、自助／互助／共助／公助、家族支援、多職種連携、協働）対象の尊厳を守りながら自律を促しQOLを維持向上を目指す看護									
到 達 目 標		価値観や生活を尊重した看護の基本的なケアプラン、医療と生活を統合するマネジメントについて習得する。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	脳卒中をおこした患者の在宅療養導入の事例			療養者の身体状況の理解・家族の思いと状況・退院計画の進め方							
2	パーキンソン病療養者に対する在宅看護の事例（1）			疾患・服薬・活動の理解							
3	パーキンソン病療養者に対する在宅看護の事例（2）			アセスメント							
4	パーキンソン病療養者に対する在宅看護の事例（3）			ケアシステム							
5	パーキンソン病療養者に対する在宅看護の事例（4）			看護計画							
6	ALSで人工呼吸療法を実施する療養者の在宅看護の事例（1）			疾患・身体状況・本人家族の思い・社会参加とQOLの理解							
7	ALSで人工呼吸療法を実施する療養者の在宅看護の事例（2）			情報収集・アセスメント							
8	ALSで人工呼吸療法を実施する療養者の在宅看護の事例（3）			アセスメント							
9	ALSで人工呼吸療法を実施する療養者の在宅看護の事例（4）			ケアシステム・全体関連図							
10	ALSで人工呼吸療法を実施する療養者の在宅看護の事例（5）			全体関連図・問題リスト							
11	ALSで人工呼吸療法を実施する療養者の在宅看護の事例（6）			看護計画							
12	ALSで人工呼吸療法を実施する療養者の在宅看護の事例（7）			看護計画							
13	ALSで人工呼吸療法を実施する療養者の在宅看護の事例（8）			ケアプランの実際と考察（演習）							
14	ALSで人工呼吸療法を実施する療養者の在宅看護の事例（9）			ケアプランの実際と考察（演習）							
15	在宅看護Ⅱ全体のまとめ・振り返り			看護過程一連の振り返りと状況設定問題の解説							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		在宅援助論概論・援助論Ⅰの復習。脳梗塞、パーキンソン病、ALSの3疾患の病態生理の理解。									
成 績 評 価		☐ 定期試験 （ %） ☐ 実技試験 （ %） ☒ 小テスト （ 20 %） ☒ レポート （ 10 %） ☒ 課題 （ 70 %） ☐ 発表 （ %） ☒ その他 （ 授業やグループワーク参加態度 ）									
教 科 書		系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 地域在宅看護論1 医学書院 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 地域在宅看護論2 医学書院									
参 考 書											
授業の留意点・備考		まず疾患の理解を促す。在宅看護は生活の部分が理解しにくいのでできるだけ写真や動画などの教材を多く取り入れイメージできるようにしたい。実習とつながる看護過程の展開を行う。									

学科	看護学科	年次	1	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野Ⅱ	教育内容	成人看護学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		急性期病棟、慢性期病棟での入院患者への看護経験を基に、成人期の看護の講義・演習を行う。									
授 業 概 要		ライフサイクルにおける成人各期の特徴を身体的・精神的・社会的に理解し、成人期の対象の理解と健康問題、その人にとって最適な健康の保持、増進への看護の実際を学ぶ。									
到 達 目 標		1 ライフサイクルにおける成人各期の特徴を身体的・精神的・社会的に理解する。 2 成人各期の発達課題、健康問題を理解する。 3 成人保健の意義を理解し、成人の健康の保持、増進の実際について学ぶ。 4 成人の看護の特徴、関連する看護理論について理解する。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	成人期にある対象の理解			1)成人の定義 2)成人の発達段階・発達課題 3)健康指標からみる成人期の健康の特徴							
2	成人各期の特徴			1)成人各期の特徴（青年期） (1)身体的特徴 (2)心理・社会面の特徴							
3	成人各期の特徴			2)成人各期の特徴（壮年期、向年期） (1)身体的特徴 (2)心理・社会面の特徴							
4	成人期にある人の生活			1)成人期の生活の特徴 2)成人期にある人と家族 3)労働とは							
5	成人各期の生活背景と健康			1)成人を取り巻く今日の状況 (1)人口構成と年齢・平均寿命・死亡状況の変遷・健康状況・心の健康							
6	保健・医療・福祉政策と今日の健康課題			1)成人を取り巻く保健福祉政策 (1)健康増進・生活習慣病対策 (2)高齢者政策(3)がん政策 (4) 障がい者福祉 (5) ストレスマネジメント							
7	成人期にある人の健康障害の要因と健康管理			1)成人期にある人の健康観と保健行動 2)成人期にある人の健康問題 (1)健康に影響を及ぼす要因 (2)職業に関連する健康障害							
8	成人期にある人の健康障害の要因と健康管理			1)生活ストレスに関連する健康障害 2)セクシュアリティ・更年期に関連する健康障害							
9	ヘルスプロモーションと看護			1)ヘルスプロモーションと看護 2)ヘルスプロモーションを促進する看護の場と活動 3)保健行動と行動変容 4)生活習慣病と予防対策							
10	意思決定支援			1)医療における意思決定とは 2)意思決定のプロセス 3)意思決定支援 4)意思決定プロセスにおける看護師の役割 5)意思決定過程に関与する要因							
11	成人期の学習者である患者の看護			1)成人学習を促進するための方法(1)成人を対象とした教育的支援とは(2)アンドラゴジー理論(3)大人の学習者とともに取り組むモデル(4)生涯学習モデル							
12	成人期の学習者である患者の看護			2)セルフマネジメントを促進する・セルフマネジメント教育 (1)エンパワメント・エデュケーション (2)自己効力を高める看護教育							
13	健康状態に応じた看護			1) 健康の急激な破綻、急性期の看護、2) 慢性病とともに生きる人を支える看護、							
14	健康状態に応じた看護			1) 障害がある人の生活とリハビリテーション2) 人生最後の時を支える看護							
15	健康状態に応じた看護			様々な健康レベルにある人の継続的な移行支援							
準備学習（予習復習）の具体的な内容											
成 績 評 価		☒ 定期試験 (80 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☒ 課題 (20 %) ☐ 発表 (%) ☐ その他 (									

科目名	成人看護学援助論Ⅰ（生涯疾病コントロール）	担当教員	首藤眞奈美（8H）・西真紗美（12H） 藤本有紀（10H）
-----	-----------------------	------	----------------------------------

学科	看護学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	成人看護学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		病院や施設での臨床経験や糖尿病ケアの専門的な知識を活かして講義を行うことができる。									
授 業 概 要		生涯にわたり疾病をコントロールする成人の特徴、内分泌、代謝疾患、腎疾患、膠原病患者の看護、がん看護、糖尿病の看護、セルフマネジメント、自己効力感、成人学習者									
到 達 目 標		生涯にわたり疾病コントロールを必要とする成人の特徴を理解する。生涯にわたり疾病コントロールを必要とする対象おなる疾患の看護を理解する									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	生涯にわたり疾病コントロールを必要とする人と家族の看護（看護過程）			生涯にわたって疾患のコントロールが必要な患者へ教育・指導についての看護過程を学ぶ。							
2	生涯にわたり疾病コントロールを必要とする人と家族の看護（看護過程）			自己学習を基に、アセスメントを行い関連図を検討する。							
3	生涯にわたり疾病コントロールを必要とする人と家族の看護（看護過程）			グループワーク発表、追加説明 自己学習を基に、関連図を作成し、看護診断、看護計画を作成する。							
4	生涯にわたり疾病コントロールを必要とする人と家族の看護（看護過程）			グループワーク発表、追加説明、まとめ							
5	生涯にわたり疾病コントロールを必要とする疾患看護 2			1)がん治療をしながら生活している患者の看護							
6	生涯にわたり疾病コントロールを必要とする疾患看護 3			1)肺がん患者の看護 （1)症状に伴う看護（咳嗽）(2)検査、治療を受ける患者の看護（気管支鏡検査、手術後の胸腔ドレナージ、放射線療法）							
7	生涯にわたり疾病コントロールを必要とする疾患看護 4			1)肺がん患者の看護 (3)症状に伴う看護 呼吸困難感 胸痛などの症状のある患者の看護							
8	生涯にわたり疾病コントロールを必要とする疾患看護 5			1）肺がん患者の看護 (1)症状に伴う看護 呼吸困難感 （2）治療を受ける患者の看護（化学療法、緩和ケ							
9	生涯にわたり疾病コントロールを必要とする疾患看護 6			6)慢性閉塞性肺炎疾患のある対象の看護(1)							
10	生涯にわたり疾病コントロールを必要とする疾患看護 7			7)慢性閉塞性肺炎疾患のある対象の看護(2)							
11	血糖調節機能とその役割			疾患の概要について学ぶ。							
12	糖代謝疾患の症状と合併症			疾患でみられる症状と、その原因からの予防について学ぶ。							
13	糖代謝疾患の治療と検査			各疾患における症状とその病態生理を理解し、治療と検査について学ぶ。							
14	看護と療養支援			疾患に対する看護の基礎と必要とされるチームアプローチについて学ぶ。							
15	自己血糖測定と自己注射の手順と指導方法 症例検討			正しい手順と確実な、自己管理の方法について学ぶ。 症例を通してアセスメントし、看護活動についてグループワークを行う。							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		疾患に関する病態生理や看護について、教科書を熟読しておく									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 70 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ 30 % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		系統看護学講座 臨床看護総論 （医学書院） 別巻 がん看護学 系統看護学講座 成人看護学 呼吸器 （医学書院）系統看護学講座 成人看護学 運動器（医学書院） 系統看護学講座 成人看護学 内分泌・代謝 （医学書院）									
参 考 書		事例に関する参考書									
授業の留意点・備考		不明な点はそのままにせず、担当教員に質問をし、その都度理解できるようにする。 提出物については、期限厳守とし、提出できない場合は評価の対象とならない。									

科目名	成人看護学援助論Ⅱ (身体一部喪失、生活行動に障害のある人への看護)	担当教員	永村ひろみ/山田明美 (20H) 工藤かしみ (10H)
-----	---------------------------------------	------	---------------------------------

学科	看護学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	成人看護学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		整形外科病棟、外来において看護の経験を活かし、運動機能障害を持つ患者の看護について講義・演習を行うことができる。									
授 業 概 要		脳・神経系疾患の症状と病態生理、検査と治療・処置、運動器系の疾患、視機能障害の症状と検査法、眼疾患、聴覚・平衡感覚機能障害の症状と検査法、耳鼻咽喉科疾患、救急医療									
到 達 目 標		生活行動に障害のある成人の特徴と障害受容過程及び自立への看護の在り方を理解する。生活行動に障害及び身体の一部を喪失した対象となる疾患の看護を理解する。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	運動機能障害と日常生活への影響			1) 良肢位を理解する 2) ADL、歩行状態の観察							
2	運動機能の把握と看護			3) 関節可動域・筋力の測定の理解 4) 起座困難・体位変換困難・歩行困難など日常生活活動困難・廃用性変化を理解する							
3	運動機能障害の検査・治療に伴う看護			1) 関節リウマチ患者の看護							
4	運動機能障害を持つ患者の看護			2) 椎間板ヘルニア患者の看護 3) 大腿骨骨折患者の看護							
5	運動機能障害と日常生活①			運動機能とその役割・障害について学ぶ。							
6	運動機能障害と日常生活②			運動機能障害がもたらす生命・生活への影響を学ぶ。							
7	運動機能障害の把握と看護①			起座困難・体位変換困難・歩行困難・把持困難の患者のアセスメントと看護を学ぶ。							
8	運動機能障害の把握と看護②			網羅性の低下・日常生活活動困難・運動機能に関する痛み・廃用性変化のある患者のアセスメントと看護を学ぶ。							
9	手術により身体の一部を喪失した患者の看護 1			1)咽頭・喉頭がん患者の看護 2)症状に対する看護 3)検査・治療の看護							
10	手術により身体の一部を喪失した患者の看護 2			1)咽頭・喉頭がん患者の看護 2)喉頭摘出術後の看護							
11	手術により身体の一部を喪失した患者の看護 3			1)大腸がんの患者の看護							
12	手術により身体の一部を喪失した患者の看護 4			2)大腸がんの患者の看護（ストーマ看護）							
13	手術により身体の一部を喪失した患者の看護 5			1)乳がん患者の看護 (1)検査・治療を受ける患者の看護							
14	手術により身体の一部を喪失した患者の看護 6			1)乳がん患者の看護 乳房切除術を受けた患者の看護（リンパ浮腫、ボディイメージの変化）							
15	身体一部喪失患者の看護7			2)感覚器障害のある患者の看護							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		疾患に関する病態生理や看護について、教科書を熟読しておく									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 100 ％） ☐ 実技試験 （ ％） ☐ 小テスト （ ％） ☐ レポート （ ％） ☐ 課題 （ ％） ☐ 発表 （ ％） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		系統看護学講座 臨床看護総論 （医学書院） 系統看護学講座 成人看護学 感覚器 （医学書院） 系統看護学講座 成人看護学 消化器 （医学書院） 系統看護学講座 成人看護学 女性生殖器（医学書院） 系統看護学講座 成人看護学 運動器 （医学書院） 系統看護学講座 成人看護学 呼吸器 （医学書院）									
参 考 書		事例に関する参考書									
授業の留意点・備考		不明な点はそのままにせず、担当教員に質問をし、その都度理解できるようにする。 提出物については、期限厳守とし、守られなかった場合は減点とする。									

科目名	成人看護学援助論Ⅲ（周手術期の看護）	担当教員	首藤 眞奈美（30H）
-----	--------------------	------	-------------

学科	看護学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	成人看護学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		臨床での周手術期の看護の経験を活かし講義・演習ができる。									
授 業 概 要		周手術期の成人の特徴について、術前・術中・術後（周手術期）の看護、開心術、開胸術、開腹術などを受ける患者の看護									
到 達 目 標		手術に伴う身体侵襲とボディイメージの変化を理解し、手術後の機能障害・機能喪失に対する援助や手術後の継続的な自己管理に関する看護を理解する。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	低侵襲手術を受ける患者の看護 1			周手術期患者の術前・術直後・術後の看護 1)胃がん患者の看護 (1)腹腔鏡を用いた胃切除を受ける患者の看護（手術療法）							
2	低侵襲手術を受ける患者の看護 2			1)胃がん患者の看護(2)腹腔鏡を用いた胃切除を受ける患者の看護（手術後の看護、食事指導）							
3	周手術期にある患者と家族の看護			周手術期患者の術前・術直後・術後の看護についての看護過程を学ぶ。							
4	周手術期にある患者と家族の看護			自己学習を基に、アセスメントを行い関連図を検討する。							
5	周手術期にある患者と家族の看護			グループワーク発表、追加説明							
6	周手術期にある患者と家族の看護			自己学習を基に、関連図を作成し、看護診断、看護計画を作成する。							
7	周手術期にある患者と家族の看護			グループワーク発表、追加説明、まとめ							
8	開腹術を受ける患者の看護 1			1)肝臓がんの患者の看護							
9	開腹術を受ける患者の看護 2			2)肝臓がんの患者の看護							
10	開胸術を受ける患者の看護 1			1)心臓弁膜症の患者の看護 (1)主な症状の看護 (2)検査や治療							
11	開胸術を受ける患者の看護 2			1)心臓弁膜症の患者の看護 (1)主な症状の看護 (2)検査や治療							
12	開胸術を受ける患者の看護 3			1)心臓弁膜症の患者の看護 (3)手術後の看護 (4)心臓リハビリテーション							
13	開胸術を受ける患者の看護 4			1)虚血性心疾患により急激な健康状態の破綻をきたした患者の看護 (1)症状看護 (2)検査と治療							
14	開胸術を受ける患者の看護 5			2)虚血性心疾患により急激な健康状態の破綻をきたした患者の看護 (1)検査と治療							
15	開胸術を受ける患者の看護 6			心不全・血圧異常・心筋症の患者の看護							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		疾患に関する病態生理や看護について、教科書を熟読しておく									
成 績 評 価		☒ 定期試験 (80 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (20 %) ☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☒ その他 ()									
教 科 書		系統看護学講座 臨床看護総論 (医学書院) 系統看護学講座 成人看護学 循環器 (医学書院) 別巻 臨床外科各論 (医学書院)									
参 考 書		事例に関する参考書									
授業の留意点・備考		不明な点はそのままにせず、担当教員に質問をし、その都度理解できるようにする。 提出物については、期限厳守とし、提出できない場合は評価の対象とならない。									

学科	看護学科	年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	成人看護学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		総合病院における救急医療の経験を活かし、講義・演習ができる。									
授 業 概 要		循環器疾患、脳神経疾患、感染症、アレルギー疾患、生命危機状況にある患者の看護									
到 達 目 標		生命の危機的状態にある対象の身体的変化、対象やその家族の心理・社会的変化の理解を深めるとともに健康状態に応じた援助を理解する。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	救急看護・クリティカルケア看護 1			1)救急看護・クリティカルケアの概念 2)救急看護・クリティカルケアの対象 ※ 危機理論を含む（対象の心理的反応：フィンの「危機モデル」） 2)救急看護・クリティカルケアの場、治療室環境							
2	救急看護・クリティカルケア看護 2			1)生体侵襲 2) 救急看護・クリティカルケアにおける看護師の役割 3) 家族への援助 看護師							
3	身体侵襲に伴う手術患者の特徴とケア 1			1)脳神経外科手術後の看護(侵襲と集中治療室での術後の看護) ・ 脳出血のある患者の看護							
4	身体侵襲に伴う手術患者の特徴とケア 2			2)脳神経外科手術後の看護(侵襲と集中治療室での術後の看護) ・ 脳出血のある患者の看護							
5	身体侵襲に伴う手術患者の特徴とケア 3			4)食道離断・再建術後の看護(侵襲と集中治療室での術後の看護)							
6	身体侵襲に伴う手術患者の特徴とケア 4			5)食道離断・再建術後の看護(侵襲と集中治療室での術後の看護)							
7	急激に病状が悪化した患者の看護 1			1)アナフラキシーショック、熱傷							
8	急激に病状が悪化した患者の看護 2			2)アナフラキシーショック、熱傷							
9	急激に病状が悪化した患者の看護 3			感染症を学ぶにあたって・感染症とは・検査診断治療の流れ・検査の実際・感染症治療の原則・抗菌薬・抗真菌薬・抗ウイルス薬・その他の治療・一次予防と二次予防							
10	急激に病状が悪化した患者の看護 4			発熱不明熱・上気道・下気道・心血管系・消化管・肝胆道系・尿路・性・皮膚軟部組織・目・中枢神経・悪性腫瘍等・菌血敗血症・人動物咬傷・その他ウイルス・寄生虫							
11	急激に病状が悪化した患者の看護 5			感染予防 スタンダード プリクション（DVD/演習あり）・感染経路別予防策・洗浄・消毒・滅菌・職業感染対策（DVD使用）・サーベ イルス・予防接種とワクチン							
12	急激に病状が悪化した患者の看護 6			発熱・発疹・下痢・検体採取・抗菌薬投与中看護HIV/AIDS患者の病期に応じた看護・敗血症患者の看護・日和見感染に対する看護・造血幹細胞移植を受ける患者の看護							
13	救急看護の概念			1)救急看護とは 2)救急医療体制 3)救急看護の場 4)救急看護と法的・倫理的側面救急看護の対象の理解 5)救急患者の特徴 6)救急患者家族の特徴							
14	主要病態に対する救急処置と看護 1			1)心肺停止状態への対応 2)意識障害への対応 3)呼吸障害への対応 4)ショック・循環障害への対応 5)急性腹痛への対応 6)泌尿器・生殖器等障害への対応							
15	主要病態に対する救急処置と看護 2			7)体液・代謝異常への対応 8)体温異常への対応 9)外傷への対応 10)熱傷への対応 11)中毒への対応 12)溺水への対応 13)刺咬症への対応 14)精神症状への対応 15)脳死状態への対応							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		疾患に関する病態生理や看護について、教科書を熟読しておく									
成 績 評 価		☑ 定期試験 （ 100 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		クリティカルケア看護学 （医学書院） 系統看護学講座 専門分野 成人看護学（5） 消化器 （医学書院） 系統看護学講座 専門分野 成人看護学（7） 脳・神経 （医学書院） 系統看護学講座 専門分野 成人看護学（3） 循環器 （医学書院） 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(11) アレルギー 膠原病 感染症 （医学書院）									
参 考 書		事例に関する参考書									
授業の留意点・備考		不明な点はそのままにせず、担当教員に質問をし、その都度理解できるようにする。 提出物については、期限厳守とし、守られなかった場合は減点とする。									

科目名	成人看護学援助論Ⅴ（治療困難な対象の看護）						担当教員	川崎理加（10H）/桐原由香里（4H） 首藤眞奈美（16H）			
学科	看護学科	年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	成人看護学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		総合病院での治療困難な対象の看護の経験と知識を活かし講義・演習を行うことができる。									
授 業 概 要		治療困難な状態にある成人の特徴、呼吸器疾患患者の看護、血液、造血管疾患患者の看護、終末期のケア									
到 達 目 標		治療困難な状態にある成人の特徴と対象となる疾患の看護について理解する。終末期を迎える人の看護について理解する。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	治療困難な対象と家族の看護			患者及び家族の苦痛の緩和〈全人的苦痛〉、身体的・心理的・社会的ニーズをふまえた看護の展開							
2	治療困難な対象と家族の看護			自己学習を基に、アセスメントを行い関連図を検討する。							
3	治療困難な対象と家族の看護			グループワーク発表、追加説明							
4	治療困難な対象と家族の看護			自己学習を基に、関連図を作成し、看護診断、看護計画を作成する。							
5	治療困難な対象と家族の看護			グループワーク発表、追加説明、まとめ							
6	治療困難な対象と家族の看護			患者を取り巻くサポートシステム 1)家族の危機 2)家族のニーズ 4)喪失と悲嘆のプロセス							
7	終末期の身体防御機能障害のある患者の看護1			1)白血病患者の看護 (1)症状に伴う看護（貧血、出血傾向）							
8	終末期の身体防御機能障害のある患者の看護2			1)白血病患者の看護 (2)検査、治療を受ける患者の看護（骨髄穿刺、化学療法、造血幹細胞移植）							
9	終末期の身体防御機能障害のある患者の看護3			1)白血病患者の看護 (3)治療を受ける患者の看護（化学療法）							
10	終末期の身体防御機能障害のある患者の看護4			1)白血病患者の看護 (4)治療を受ける患者の看護（化学療法）							
11	終末期の身体防御機能障害のある患者の看護5			1)白血病患者の看護 (5)終末期の看護							
12	終末期の性・生殖機能障害のある患者の看護 1			1)子宮がん患者の看護 (1)症状に伴う看護（性器出血）							
13	終末期の性・生殖機能障害のある患者の看護 2			1)子宮がん患者の看護 (2)検査、治療を受ける患者の看護（子宮全摘出術後の看護、内診、放射線療法）							
14	緩和ケアにおける患者の看護 1			1)緩和ケアと倫理的配慮 2)緩和ケアとチーム医療の必要性							
15	緩和ケアにおける患者の看護 2			3)緩和ケアにおけるコミュニケーションと意思決定支援							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		疾患に関する病態生理や看護について、教科書を熟読しておく									
成 績 評 価		☒ 定期試験 (85 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (15 %) ☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☐ その他 ()									
教 科 書		系統看護学講座 臨床看護総論 (医学書院) 系統看護学講座 成人看護学 血液 (医学書院) 系統看護学講座 成人看護学 女性生殖器 (医学書院) 系統看護学講座別巻 がん看護 (医学書院)									
参 考 書		事例に関する参考書]系統看護学講座別巻 緩和ケア (医学書院)									
授業の留意点・備考		不明な点はそのままにせず、担当教員に質問をし、その都度理解できるようにする。 提出物については、期限厳守とし、提出できない場合は評価の対象とならない。									

学科	看護学科	年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	老年看護学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		病院および介護施設での勤務経験を活かし、少子高齢化時代の社会保障制度・介護保険制度の変革と高齢者の特性を理解し老年看護の役割について講義・演習を行う。									
授 業 概 要		この科目は老年看護の導入部分である。老年期はライフサイクルの最終ステージであり、人間的成熟・統合に向けての成長・発達する段階でもある。加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化により、健康問題の出現や人間関係・社会的役割・経済生活など様々な変化や喪失を体験する時期でもある。 少子高齢化社会の現状と法・制度について学習し老人保健法、介護保険法のもとに取り組まれる事業を理解し老年看護の活動の場について学習を深める。また、地域包括ケアシステムの中の関係職種との連携について理解する。									
到 達 目 標		・老年期の身体的・精神的・社会的変化を理解し、様々な課題と看護の必要性を説明できる ・社会保障制度の動向や枠組み・医療介護保険制度の活用について説明できる ・老年看護活動の場の拡大とチーム活動、多職種連携の説明ができる ・介護保険制度や地域包括ケアシステムでの看護活動について説明できる。 ・権利擁護の理念を学び、高齢者虐待や身体拘束の問題点や予防するための看護職の義務を理解する。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	老いの理解と老いを生きること			高齢者体験し老いることの疑似体験。加齢と老化の関係を考え、高齢者の全体像をイメージしてみる。介護体験を通して加齢に伴う老化を実感する。（レポート提出）							
2	老いの理解と老いを生きること			高齢者の発達課題を学び、老年期の生き方や課題を考える。高齢者の特性（加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化）を整理してみる。（レポート提出）							
3	老年期の発達課題			高齢者の発達理論を学び、スピチアリティな側面や高齢者の生き方が社会的変化と共に転換していることを理解する。							
4	老年期の健康と生活			老年期の健康意識を理解する。また政策課題として健康寿命の延伸について理解する。							
5	超高齢社会と社会保障・統計的輪郭			日本の超高齢化率を知り、社会生活の変化（核家族化・疾病構造・多死社会等）の現状を理解する。							
6	超高齢社会と社会保障・統計的輪郭			高齢者と家族・高齢者の暮らし方や就労などの社会参加の現状を理解する。							
7	超高齢社会における保健医療福祉の動向			高齢者にかかわる保健医療福祉システムの変遷を知る。新たな介護保険制度の整備、地域包括ケアシステムの構築と目的を学習し、看護の役割を学ぶ。							
8	介護保険サービスの利用と支援方法の実際			介護保険制度を学ぶ。模擬事例を想定し、介護保険サービスの申請から利用まで展開してみる。（レポート提出）							
9	高齢者の権利擁護			高齢者虐待防止法と高齢者虐待の定義							
10	高齢者の権利擁護			高齢者虐待防止法と高齢者虐待の定義を通して実例を通して現状の課題を考える。							
11	高齢者の権利擁護・高齢者虐待			高齢者の権利擁護を理解し、日常生活の中に差別的な行為がないか考えてみる。高齢者虐待の現状と特徴を知り、虐待防止に向けた支援を考えてみる。							
12	高齢者の権利擁護・身体拘束・権利擁護制度			・身体拘束の実情や制度を知り廃止に向け、看護職の役割を考える。 ・成年後見人制度の目的と活用方法を事例を通して学ぶ。							
13	老年看護の成り立ち			社会の変化とともになぜ老年看護学が成立したのか学ぶ。							
14	老年看護における理論			老年看護学の理論を活用した看護展開と老年看護の責務を理解する。							
15	試験			まとめと解説							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		予定された教科書の項目を読んでおく。配布資料や前回の講義内容を復習してくる									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 85 ％ ） ☐ 実技試験 （ ％ ） ☐ 小テスト （ ％ ） ☒ レポート （ 15 ％ ） ☐ 課題 （ ％ ） ☐ 発表 （ ％ ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		系統看護学講座 専門分野 老年看護学 第9版 （医学書院）									
参 考 書		新聞記事等									
授業の留意点・備考											

科目名	老年看護学援助論Ⅰ	担当教員	梅下 恵
-----	-----------	------	------

学科	看護学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	老年看護学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		多領域の臨床や教育経験を活かし、高齢者の特徴・精神的・社会的問題を捉えた中で、看護師の役割や制度について、講義・演習ができる。									
授 業 概 要		高齢者が健康的な日常生活を過ごし、その人らしい人生を送るための保健活動について学ぶ。高齢者のアセスメントの特徴、主な症状とその看護、回復過程の特徴、健康の段階に応じた看護、看護の継続性などについて学習する。									
到 達 目 標		老年期にある人の生活が、健康と深い関わりのあることを学び、生活に視点を置いた看護について理解する。機能障害をもつ高齢者のアセスメントと援助を理解する。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	高齢者のヘルスケアアセスメント			加齢に伴う高齢者の生活と健康状態の変化について学ぶ							
2	高齢者の生活を支える看護（１）			食生活を支える看護（食事、脱水、摂食嚥下障害、低栄養）について学ぶ。							
3	高齢者の生活を支える看護（２）			排泄を支える看護（排泄、尿失禁、排便障害）について学ぶ。							
4	高齢者の生活を支える看護（３）			清潔・衣生活を支える看護（清潔、掻痒、痛み・しびれ、感染症）について学ぶ。							
5	高齢者の生活を支える看護（４）			活動と休息を支える看護（活動・休息、視覚・聴覚の障害、睡眠障害）について学ぶ。							
6	高齢者の生活を支える看護（５）			歩行・移動を支える看護（歩行・移動、骨粗鬆症、廃用症候群、褥瘡）について学ぶ。							
7	高齢者の生活を支える看護（６）			呼吸・循環を機能障害を支える看護（肺炎、高血圧、心不全など）について学ぶ。							
8	高齢者に特徴的な疾患・症状を支える看護（１）			糖尿病、がん、骨折、浮腫、貧血、めまい、熱中症など							
9	高齢者に特徴的な疾患・症状を支える看護（２）			認知症、うつ病、せん妄などについて学ぶ。							
10	高齢者に特徴的な疾患・症状を支える看護（２）			認知症、うつ病、せん妄などについて学ぶ。							
11	治療を必要とする高齢者の看護（１）			検査・薬物療法・手術について学ぶ							
12	治療を必要とする高齢者の看護（２）			急性期・慢性期の看護 リハビリテーションについて学ぶ							
13	エンドオブライフケア			入退院 保健医療福祉施設について理解する							
14	生活・療養の場における看護			多様な生活の場で高齢者の健康を支える看護について理解する							
15	高齢者のリスクマネジメント			高齢者の特徴的なリスクを理解する							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		講義に関連した解剖生理・疾病や経過別看護、援助技術について復習しておく。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 80 ％ ） ☐ 実技試験 （ ％ ） ☐ 小テスト （ ％ ） ☐ レポート （ ％ ） ☒ 課題 （ 20 ％ ） ☐ 発表 （ ％ ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		系統看護学講座 専門20 老年看護学 医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅱ 年看護 病態・疾患論									
参 考 書		生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図 医学書院									
授業の留意点・備考		課題提出があります。ルールや期限を守り提出してください。提出できない場合、そのままにしないこと。									

科目名	老年看護学援助論Ⅱ	担当教員	梅下恵 土田昂明
-----	-----------	------	-------------

学科	看護学科	年次	2	開講期	前期	単位数	2	時数	45	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	老年看護学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		神経難病センターでの経験を活かして、主にALS、パーキンソン病、脊髄小脳変性症の患者の看護について実際に病棟で行っている患者教育やACPを含め講義を行うことができる。 病院・高齢者施設等での10年以上の実践経験を生かして高齢者の看護技術について指導できる。									
授 業 概 要		脳神経疾患看護について身体面だけでなく心理面、社会面から捉えられるよう、実際の事例から患者のみならず家族、周りをとりまく環境や支援する多職種の役割・機能について学習する。経過別にみた高齢者の看護、高齢者によくみられる疾患および治療・処置に伴う看護、事例を使つての看護過程の展開									
到 達 目 標		脳神経疾患患者の特徴が理解できる。 神経疾患の症状に応じた看護援助について理解できる。 健康段階に応じた高齢者のアセスメントと援助を理解する。加齢に伴う心身の変化及び機能障害・治療が高齢者に与える影響を理解し、老年看護に必要な知識・技術を習得する。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	脳神経疾患患者の特性と看護の視点			脳神経疾患患者の身体的・心理的・社会的特徴と急性期～慢性期の看護のポイント							
2	脳神経疾患の主な特徴とケア			神経症状と看護の視点							
3	主な脳神経疾患患者の看護①			脳血管障害の病態・症状・診断・治療・アセスメントと看護の要点							
4	主な脳神経疾患患者の看護②			パーキンソン病の病態・症状・診断・治療・アセスメントと看護の要点							
5	主な脳神経疾患患者の看護③			ALSの病態・症状・診断・治療・アセスメントと看護の要点							
6	主な脳神経疾患患者の看護④			認知症の病態・症状・診断・治療・アセスメントと看護の要点							
7	主な脳神経疾患患者の看護⑤			その他神経難病の病態・症状・診断・治療・アセスメントと看護の要点							
8	高齢者に対する看護援助、事例展開			看護過程について、看護過程の考え方							
9	高齢者に対する看護援助 事例展開（1事例目）			病態の理解、アセスメント							
10	高齢者に対する看護援助 事例展開（1事例目）			対象理解（アセスメント）							
11	高齢者に対する看護援助 事例展開（1事例目）			対象理解（アセスメント）							
12	高齢者に対する看護援助 事例展開（1事例目）			対象理解（アセスメント・関連図）							
13	高齢者に対する看護援助 事例展開（1事例目）			看護計画の立案							
14	高齢者に対する看護援助 事例展開（1事例目）			実施（1日の行動計画）							
15	高齢者に対する看護援助 事例展開（1事例目）			評価							

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	高齢者に対する看護援助 事例展開（2事例目）	病態の理解、アセスメント
17	高齢者に対する看護援助 事例展開（2事例目）	対象理解（アセスメント）
18	高齢者に対する看護援助 事例展開（2事例目）	対象理解（アセスメント）
19	高齢者に対する看護援助 事例展開（2事例目）	対象理解（アセスメント・関連図）
20	高齢者に対する看護援助 事例展開（2事例目）	看護計画の立案
21	高齢者に対する看護援助 事例展開（2事例目）	実施（1日の行動計画）
22	高齢者に対する看護援助 事例展開（2事例目）	評価
23	高齢者に対する看護援助、事例展開	ふりかえり、まとめ
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
準備学習（予習復習）の 具体的な内容		
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 70 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☒ 課題 （ 30 % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）
教 科 書		系統看護学講座 専門20 老年看護学 医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅱ 年看護 病態・疾患論
参 考 書		生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図 医学書院
授業の留意点・備考		課題提出があります。ルールや期限を守り提出してください。提出できない場合、そのままにしないこと。

科目名	小児看護学概論	担当教員	古賀 みち子
-----	---------	------	--------

学科	看護学科	年次	1	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	小児看護学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		臨床での小児看護の経験を活かし、小児看護に必要な成長発達や小児を取り巻く社会を理解するため講義・演習を行うことができる。									
授 業 概 要		小児看護の特徴と理念、小児看護の対象、子どもの権利、社会の変化と小児看護、子どもの成長発達の特徴、小児各期の成長発達と日常生活の世話、発達段階に応じた健康生活、家族の特徴とアセスメント、子どもと家族を取り巻く社会（保健・医療・福祉）虐待防止									
到 達 目 標		子どもを取り巻く社会の中で小児看護の対象と小児看護の目標・役割を理解する。子どもの成長発達・生活を理解し、子どもと家族の健康増進への看護を理解する。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション			子どもとは、小児看護の対象、小児看護の目標・役割、変遷、子どもの権利							
2	現代社会における小児の緒問題			人口構造・乳児死亡率・合計特殊出生率・母子保健・児童福祉法等小児をめぐる法律と政策小児をめぐる法律と政策について演習（検索）し理解する							
3	児童虐待を考えよう			児童虐待について調べ、その特徴・原因・誘因及び対策についてグループで調べ考えることができる。							
4	小児看護における倫理			子どもの権利、児童憲章、権利条約、日常的な臨床場面での倫理的課題							
5	成長発達の概念や子どもの健康状態を理解する			成長・発達の概念と子どもの健康状態の理解に必要な知識を理解する。							
6	成長発達の評価			発達評価の目的、方法（デンバー等）							
7	乳幼児の健康診査と保健指導			母子手帳等を活用し、小児保健（健康診査）について理解する。							
8	予防接種について知る			予防接種の歴史、現在の予防接種、副反応と健康被害救済制度について理解する。							
9	新生児（期）の特徴と養育及び看護を知る			新生児の形態的・生理的理解をし、必要な養育および看護を知る。							
10	乳児（期）の特徴と養護及び看護を知る			乳児の形態的・認知・情緒・社会的特徴を理解することができる。							
11	幼児（前期）の特徴と養護及び看護を知る			幼児の形態的・認知・情緒・社会的特徴を理解することができる。							
12	幼児(後期) の基本的生活習慣の獲得			幼児期に必要な基本的生活習慣の獲得について理解し保育園実習を考える							
13	学童（期）の特徴や生活習慣と健康			学童（期）の形態的、精神、社会的特徴を自分達の時代を思い出しながら理解する。（学校保健）							
14	思春期・青年期の特徴と健康問題			思春期・青年期にある健康問題を身近に感じ必要な援助を考える。							
15	家族の特徴とアセスメント			子どもにとっての家族とは・現代家族の特徴・家族アセスメント							
準備学習（予習復習）の具体的な内容											
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 90 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☒ レポート （ 10 % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		系統看護学講座 専門分野 小児看護学〔1〕小児看護学概論/小児臨床看護総論 第14版：医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学〔2〕小児看護学各論 第14版：医学書院									
参 考 書		病気がみえる 小児科 医療情報科学研究所編集 第1版 メディックメディア発行									
授業の留意点・備考		少子化の現代、子どもに興味・関心を持ち小児各期の成長発達をイメージしながら理解すること。又、自分の母子手帳等を利用して保健・医療・福祉の理解をする。積極的に検索課題を行いグループ活動・発表を共有し視野を広めたり深められるようにすること。									

科目名	小児看護学援助論Ⅱ	担当教員	百田真樹/山下里美/峰香菜子 (12H) 梅下 恵 (18H)
-----	-----------	------	------------------------------------

学科	看護学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	小児看護学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		重症心身障害児病棟で小児科看護に携わった経験を生かし、小児とその家族への看護について講義を行うことができる。小児科病棟及び小児看護学実習指導に携わった経験を生かし、小児とその家族への看護について講義を行うことができる。									
授 業 概 要		病気・障害が子どもと家族に与える影響、入院中の子どもと家族の看護、外来における子どもと家族の看護、子どもにおける疾病の経過（慢性期・急性期・周手術期・終末期）に応じた子どもと家族への看護、症状を示す子どもの看護									
到 達 目 標		病気・障害が子どもと家族に与える影響をふまえ、子どもの状況に応じた看護について理解する。子どもの疾病の経過や症状における看護について理解できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	外来、入院における小児の看護			外来における小児・家族の特徴、感染症対応などを理解し、看護を学ぶ。 入院が小児・家族に与える影響、病棟の安全管理などを理解し、看護を学ぶ。							
2	急性期・慢性期にある小児と家族への看護			急性期に起こりやすい症状と看護を学ぶ。慢性期に必要な指導や看護を成長発達段階と照らし合わせて理解する。							
3	手術を受ける小児と家族への看護			手術を受ける子どもへのプレパレーション方法や家族への看護を学ぶ							
4	終末期にある子どもと家族への看護			終末期にみられる症状や、子ども・家族への心理的影響を理解し、看護を学ぶ。							
5	①症状を示す子どもの看護			小児に多い代表的な症状の看護について理解する（呼吸困難・発熱・痙攣） 等							
6	②症状を示す子どもの看護			小児に多い代表的な症状の看護について理解する（嘔吐・下痢・脱水）等							
7	病気・障害をもつ子どもと家族の看護			病気・障害が子どもと家族に与える影響。子どもの反応、家族の反応。 子どもの日常生活にかかわる看護。健康問題をもつ子どもの家族の看護							
8	慢性期にある子どもと家族への看護①			慢性期にある子どもと家族の看護。慢性期の特徴、慢性状態が子どもに与える影響と看護（糖尿病）							
9	慢性期にある子どもと家族への看護②			慢性状態が子どもに与える影響と看護（ネフローゼ症候群）							
10	慢性期にある子どもと家族への看護			慢性状態が子どもに与える影響と看護（小児気管支喘息）							
11	急性期にある子どもと家族への看護			急性期にある子どもと家族の看護。急性期の特徴、急性状態が子どもに与える影響と看護（急性リンパ性白血病）							
12	急性期にある子どもと家族への看護			急性状態が子どもに与える影響と看護（ファロー四徴症）							
13	終末期にある子どもと家族の看護			終末期の特徴、子どもの生命・死のとりえ方、子どもと家族の看護、子どもを亡くした家族の看護、終末期における多職種チームアプローチ（小児がん）							
14	在宅療養中の子どもと家族の援助			在宅看護論を想起し在宅での子どもと家族の特徴（レスパイト入院）							
15	災害時の子どもと家族の看護			災害時の子どもと家族の特徴と看護、被災地の環境と看護の役割、子どもの災害							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		教科書を読んでおくこと。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 80 ％ ） ☐ 実技試験 （ ％ ） ☐ 小テスト （ ％ ） ☐ レポート （ ％ ） ☒ 課題 （ 20 ％ ） ☐ 発表 （ ％ ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔2〕小児臨床看護各論 第14版 （医学書院）									
参 考 書											
授業の留意点・備考											

科目名	小児看護学援助論Ⅲ	担当教員	坂本 浩子
-----	-----------	------	-------

学科	看護学科	年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	小児看護学						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	臨床での小児看護の経験を活かし、小児看護に必要な成長発達や病態アセスメントを理解するため講義・演習を行うことができる。
授 業 概 要	子どものアセスメントに必要な技術、検査、処置を受ける子どもの看護、救急処置と緊急時の看護、子どもの特徴的な疾患やさまざまな状況にある子どもと家族への看護、低出生体重児の看護
到 達 目 標	小児看護に必要な看護技術を習得できる。発達段階や子どもや家族の置かれている状況に応じた看護を事例を用いて理解する。

授 業 計 画

回	テーマ	授 業 内 容
1	疾患をもつ子どもと家族の看護	小児看護の特徴を理解する。川崎病を理解する
1	疾患をもつ子どもと家族の看護	川崎病の患児の看護の特徴を事例を通して知る
2	成長・発達段階を考えたアセスメント①	成長・発達アセスメントの方法（ゴードンの各パターン）（川崎病）
3	成長・発達段階を考えたアセスメント②	成長・発達アセスメントの方法（ゴードンの各パターン）（川崎病）
4	成長・発達段階を考えたアセスメント③	成長・発達アセスメントの方法（ゴードンの各パターン）（川崎病）
5	子どもの健康障害及び生活の全体像（関連図）①	事例の関連図を考える（川崎病）
6	子どもの健康障害及び生活の全体像（関連図）②	事例の関連図を考え、発表する（川崎病）
7	子どもの健康障害の回復過程の看護診断	事例の看護診断を考える（川崎病）
8	子どもの健康障害の回復過程の看護計画①	事例の看護計画と実施方法を考える（川崎病）
9	子どもの健康障害の回復過程の看護計画②	事例の看護計画と実施方法を考え、発表する（川崎病）
10	子どもの健康障害の回復過程の評価・修正	事例の看護計画内容を修正する（川崎病）
11	身体的アセスメント （各器官の観察のポイント）	子どもの成長・発達の評価（計測）、一般状態の観察方法、子どものバイタルサイン測定とアセスメントの演習
12	活動制限・救急救命処置が必要な子どもと家族の看護	子どもの入院環境をサークルベッドの演習から学び事故防止を考える。子どもの事故、小児の一次救命処置（PBLs）と異物除去方法の演習
13	検査・処置を受ける子どもの看護	子どもの与薬（輸液等）・採血・採尿・穿刺等の演習（プレパレーション・ディストラクション）
14	新生児の看護（ハイリスク新生児と看護）	N I C U・保育器などを知り、低出生体重児の看護がイメージできる
15	障害のある子どもと家族の看護	障害のとらえかた・障害の受容過程と家族への看護・重症心身障害児（者）の特徴を学ぶ

準備学習（予習復習）の 具体的な内容	小児の発達の特徴、小児看護技術の事前学習レポート必要。
-----------------------	-----------------------------

成 績 評 価	☒ 定期試験 (50 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (20 %)
	☒ 課題 (20 %) ☐ 発表 (10 %) ☐ その他 ()

教 科 書	系統看護學講座 專門分野Ⅱ「小兒看護學概論/小兒臨床看護總論」 第14版：医学書院
	系統看護學講座 專門分野Ⅱ「小兒看護學各論」 第14版：医学書院

参 考 書	「写真でわかる小児看護技術アドバンス」(インターメディカ)
-------	-------------------------------

授業の留意点・備考	授業資料を整理をし活用できるようにする事。技術演習も多く、臨地実習への具体的準備として必修であり欠課しない事。課題提出・レポート・発表等も評価対象となるため、積極的に取り組み期日を守って提出すること。
-----------	--

科目名	母性看護学概論	担当教員	加治 美由起
-----	---------	------	--------

学科	看護学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	母性看護学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		助産師として病院や地域で母子支援に携わってきた経験を活かし、いのちの尊重や女性の健康と権利について講義を行うことができる。									
授 業 概 要		リプロダクティブ・ヘルス/ライツとウィメンズヘルスを主軸に、女性のライフサイクル各期の性と生殖および健康問題について学習する。母性および女性のおかれた立場を社会的、文化的、歴史的背景からも学習する。									
到 達 目 標		母性の概念及び母性の特性や発達段階に応じた女性の健康と健康問題について学び、母性看護に必要な知識を得る。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	母性看護の概念			母性の概念を通して、母性看護の対象を理解する							
2	母性看護の概念			母親になる過程に関して、身体的・心理的・社会的特性							
3	母性看護の歴史の変遷と現状			母子保健統計に関する数値と、歴史的社会的変化に関連させて、現状を学ぶ							
4	母子保健を守る法律と施策			安全な妊娠・分娩・子育てを守るための母子保健に関する法律や施策							
5	母性看護の対象			女性生殖器の機能・性周期							
6	母性看護の対象			妊娠の成立と胎児の性分化							
7	母性看護の対象			遺伝子と染色体・人の発生のメカニズム							
8	思春期の身体的・心理的・社会的特徴			思春期の身体的・心理的・社会的特徴を知り、健康問題と看護について学ぶ							
9	成熟期の身体的・心理的・社会的特徴			成熟期の身体的・心理的・社会的特徴を知り、健康問題と看護について学ぶ							
10	更年期の身体的・心理的・社会的特徴			更年期の身体的・心理的・社会的特徴を知り、健康問題と看護について学ぶ							
11	リプロダクティブ・ヘルスカ①			家族計画・受胎調節法・人工妊娠中絶・性感染症について							
12	リプロダクティブ・ヘルスカ②			児童虐待・DVと地域連携支援について							
13	生命倫理			死産・障害をもった児の親の心理を感じ、看護者として行動指針を確認する							
14	演習問題を解く			母性看護学概論の演習問題をとき、授業をふりかえり要点を学ぶ							
15	試験			筆記試験と解説							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		日頃から、母性に関する事や女性の健康に関する事について興味関心をもつこと。講義内容と関連づけて学べるように教科書は事前事後学習で活用し読んでおく。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 100 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		系統看護学講座 専門分野 母性看護学(1) 母性看護学概論 第14版 （医学書院）									
参 考 書											
授業の留意点・備考		自己の価値観も大切にしつつ、母性看護について考える。									

科目名	母性看護学援助論Ⅰ							担当教員	青木 早織		
-----	-----------	--	--	--	--	--	--	------	-------	--	--

学科	看護学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	15	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	母性看護学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		産婦人科医としての経験を活かし、妊娠・分娩・産褥各期について講義を行うことができる。									
授 業 概 要		妊娠・分娩・産褥・新生児期の生理的变化と特徴を理解し、母子及び家族への適切な看護について学ぶ。									
到 達 目 標		1. 妊娠・分娩・産褥の正常経過と異常経過、新生児の生理についての理解を深める。 2. 妊娠・分娩・産褥の看護、新生児の看護について理解する。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	妊娠の生理			教科書p.62-180（妊娠とは）							
2	分娩の生理			教科書p.184-259（分娩とは）							
3	妊娠の異常			教科書p.380-422（ハイリスク妊娠、妊娠悪阻、妊娠高血圧症候群など）							
4	分娩の異常			教科書p.423-488（産道の異常、弁出力の異常、胎児・付属物の異常など）							
5	新生児・産褥の生理および異常			教科書p.262-372、p.489-548（子宮復古不全、新生児仮死など）							
6	リプロダクティブヘルスケア			教科書p.14-59（不妊治療、出生前診断、メンタルヘルスなど）							
7	まとめ			全体のまとめ							
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習）の具体的な内容											
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 100 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ % ）									
教 科 書		系統看護学講座 専門分野 母性看護学〔2〕母性看護学各論 第14版 （医学書院）									
参 考 書		1.病気がみえるシリーズ vol.10 産科（メディックメディア） 2.授業中に配布する資料									
授業の留意点・備考											

科目名	母性看護学援助論Ⅱ	担当教員	坂梨 京子
-----	-----------	------	-------

学科	看護学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	母性看護学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		臨床助産師5年、母性看護学担当教員16年、妊娠SOS電話相談員5年、自宅分娩サポート15年の経験を活かし、各期の看護について講義を行うことができる。									
授 業 概 要		妊娠・分娩・産褥・新生児期の生理的变化と特徴を理解し、母子及び家族への適切な看護について学ぶとともに、自分自身のセクシュアリティとして母性・父性について考えを深める。									
到 達 目 標		1. 妊娠・分娩・産褥・新生児各期の看護について理解する。 2. 正常な妊娠および出産を、疾患ではなく人間の生理的な営みとして、対象理解を深める。 3. 対象のセルフケア能力を高める看護について学ぶ									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	妊娠期の看護の目標			学生自身の母子健康手帳を教材にし、公的な母性保健の位置づけを理解する。妊娠期・分娩期・産褥期のおおまかな流れを理解する。							
2	妊娠各期の看護と保健指導			妊娠中の生理的变化・マイナートラブルについて。セルフケアの方法について。							
3	分娩の機序について			正常な分娩の機序と進行について。							
4	分娩各期の看護の目標と実践			分娩各期の特徴をふまえた看護の実践について。							
5	褥婦の身体的変化と心理的变化			産褥期の退行性変化と進行性変化について。観察点と情報収集のポイント。							
6	産褥期の看護の目標と褥婦の理解			母子の愛着形成に必要な看護について。母乳哺育について。							
7	新生児期の看護			新生児期の観察・情報収集のポイント。							
8	異常妊娠時の看護（1）			1）悪阻 2）妊娠高血圧症候群 3）妊娠貧血 4）多胎妊娠 5）流早産の妊婦の看護を学ぶ							
9	異常妊娠時の看護（2）			6）ハイリスク妊婦の看護を学ぶ							
10	異常分娩時の看護（1）			1）娩出力の異常時の看護 2）産道の異常と看護を学ぶ							
11	異常分娩時の看護（2）			3）胎位・回旋の異常と看護 4）胎児付属物の異常と看護を学ぶ							
12	異常分娩時の看護（3）			5）帝王切開時の看護を学ぶ							
13	異常産褥時の看護			1）子宮復古不全 2）産褥熱の褥婦 3）乳房・乳頭の異常 4）産褥期精神障害の看護を学ぶ							
14	新生児異常と看護			1）新生児仮死 2）分娩外傷 3）低出生体重児 4）新生児黄疸を学ぶ							
15	総まとめ・試験			授業のまとめ							
準備学習（予習復習）の具体的な内容											
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 100 ％ ） ☐ 実技試験 （ ％ ） ☐ 小テスト （ ％ ） ☐ レポート （ ％ ） ☐ 課題 （ ％ ） ☐ 発表 （ ％ ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学〔2〕母性看護学各論 第14版 （医学書院）									
参 考 書		1.国民衛生の動向（厚生統計協会）2.病気がみえるシリーズ vol.10 産科（メディックメディア）3.資料									
授業の留意点・備考											

学科	看護学科	年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	母性看護学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		助産師として妊産褥婦・新生児の看護に携わった経験を活かし、母性看護の実践に必要な技術である対象を理解するためのアセスメントおよび看護の方向性、さらには看護実践について講義・演習を行うことができる。									
授 業 概 要		1.妊婦の看護に必要な技術、妊産褥婦に必要な体操、呼吸法、褥婦に必要な看護技術、母乳育児支援に必要な看護技術、新生児の看護に必要な技術の習得。 2.母性看護における看護過程の展開方法（以下の①～④）について学習する。 ①対象を身体的・心理的・社会的側面から把握するために必要な情報、②科学的根拠を基にした情報のアセスメント、③看護問題の推論および看護の方向性、④看護実践の評価									
到 達 目 標		妊娠・分娩・産褥・新生児期の母性看護技術の習得ができる。 母性看護における看護過程の展開方法について理解できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	母性看護技術（1）			1．妊婦健康診査の目的 2．子宮底・腹囲の測定 3．レオボルド触診法演習							
2	母性看護技術（2）			4．胎児心音聴取法（胎児心拍モニターの装着と判読）実演							
3	母性看護技術（3）			5．妊娠期の看護（妊婦体験・妊婦体操）							
4	母性看護技術（4）			6．分娩期の看護（分娩第1期から4期の進行・産痛緩和法）							
5	母性看護技術（5）			7．産褥期のケア。褥婦のセルフケアを支える看護							
6	母性看護技術（6）			8．母乳育児と看護:母乳分泌のメカニズムに基づいた母乳育児							
7	母性看護技術（7）			9．新生児の観察を学ぶ。新生児のフィジカルアセスメント実演							
8	母性看護技術（8）			1 0.新生児のケア（おむつの当て方・沐浴・臍処置）の実際を演習する							
9	母性看護技術（9）			1 1.新生児のケア（おむつの当て方・沐浴・臍処置）の実際を演習する							
10	ガイダンス 母性看護における看護過程の展開方法について			ウェルネス看護診断 妊婦・褥婦・新生児のアセスメント項目と必要な情報 事例紹介							
11	妊婦のアセスメント			妊婦のアセスメント							
12	褥婦のアセスメントと看護問題の抽出			褥婦のアセスメントと看護問題の推論 新生児のアセスメント							
13	新生児のアセスメントと看護問題の抽出			新生児のアセスメントと看護問題の推論 看護問題の優先順位							
14	関連図および看護計画			関連図の作成方法、看護計画の立案							
15	試験（90分）			試験（90分）							
準備学習（予習復習）の具体的な内容											
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ %） ☒ 実技試験 （ %） ☐ 小テスト （ %） ☐ レポート （ %） ☒ 課題 （ %） ☐ 発表 （ %） ☐ その他 （ %）									
教 科 書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学〔2〕母性看護学各論 第14版 （医学書院） 病気がみえるシリーズ vol.10 産科（メヂックメディア）									
参 考 書											
授業の留意点・備考											

科目名	精神看護学概論	担当教員	田上雄一郎/工藤かすみ
-----	---------	------	-------------

学科	看護学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	精神看護学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		内科、外科病棟に入院や疾患に伴うこころの問題を抱える患者や、精神障害を持ち一般病院に入院となった患者の看護経験をもとに講義・演習ができる。									
授 業 概 要		精神看護の理念、精神看護の対象の理解、精神看護の機能と役割、精神看護の課題と展望、精神保健とは、患者－看護師関係、心の発達、環境（生活の場）と精神保健、病人と家族の精神保健									
到 達 目 標		精神看護の概要（目的・対象・機能）を理解する。こころの健康と発達段階について学び、こころの健康について理解する。。精神保健看護の歴史的変遷を学び、人権や倫理について考え、精神保健福祉法の背景と経緯について理解する。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	精神看護学で学ぶこと			日本の精神障害者の現状と精神看護の特徴を説明することができる							
2	精神障害者の体験と精神看護			精神障害者の生きにくさを自分の言葉で表現できる（ドクメンタリー視聴）							
3	精神保健の考え方			精神の健康について自分の言葉で説明することができる							
4	危機と回復する力			①ストレスとは何か、心身の健康に及ぼすストレスの影響を説明できる。 ②リカバリー、レジリエンス、ストレングの考え方について説明できる							
5	心の働きと人格形成			意識・認知・感情・学習を理解し、それらが障害された時の症状について説明できる							
6	ライフサイクルにおける危機			各ライフサイクルに応じた発達課題と危機を説明することができる							
7	精神力動理論			自我の防衛機制について身近な具体例を示し説明できる							
8	対象関係論他			様々な理論を知り、人間と他者との関係についての理解を深める							
9	集団や家族という関係の中の個人について			現代社会における集団や家族の問題を知り、その問題について説明できる							
10	家族という関係の中の個人について			看護の対象としての家族を学び、家族システムについて説明できる							
11	地域社会で個人の精神や障害者の課題について			虐待やネグレクト、親子の関係に焦点を当てた映画を視聴して地域社会での精神の健康課題について考える。（映画視聴）							
12	社会の中の精神障害			精神障害と治療の歴史、精神障害と法制度について							
13	地域におけるケアと支援①			現在の日本の地域精神保健の動きについて 地域で精神障害者を支援する際の原則について							
14	地域におけるケアと支援②			社会資源について							
15	授業のまとめ			精神看護学の基本的な考え方と精神看護を実践するものとして、必要な視点や態度について確認する。							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		教科書と配布資料の確認をして授業に出席すること。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 90 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☒ レポート （ 10 % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		系統看護学講座 専門分野 精神看護学（1） 精神看護の基礎 第6版（医学書院） 系統看護学講座 専門分野 精神看護学（2） 精神看護の展開 第6版（医学書院）									
参 考 書		中範囲理論入門 第2版（日総研）									
授業の留意点・備考		精神看護学を学ぶ上で基礎となる科目であるため、理解できるように積極的に授業に参加すること。									

科目名	精神看護学援助論Ⅰ（精神の病理）						担当教員	杉本 啓介			
-----	------------------	--	--	--	--	--	------	-------	--	--	--

学科	看護学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	15	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	精神看護学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		精神疾患の治療や研究に携わった経験を講義に活用する。									
授 業 概 要		精神疾患について基本的な知識を概説する。									
到 達 目 標		精神疾患の基礎と主な疾患の病態を理解し看護への展開に活かす。									
授 業 計 画											
回	テーマ					授 業 内 容					
1	精神疾患各論①					(F7～9) 知的障害・発達障害					
2	精神疾患各論②					(F3・F0) 気分障害・認知症					
3	精神疾患各論③					(F1・F5) 嗜癖について					
4	精神疾患各論④					(F2) 統合失調症圏					
5	精神疾患各論⑤					(F4) 神経症・ストレス関連障害					
6	精神疾患各論⑥					(F4-F5) 精神及び行動の障害					
7	精神疾患各論⑦					(F6) パーソナリティ障害					
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習）の具体的な内容		教科書を読んでおく。講義ノートを復習する。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 100 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		系統看護学講座 専門分野 精神看護学（1）精神看護の基礎 第6版（医学書院） 系統看護学講座 専門分野 精神看護学（2）精神看護の展開 第6版（医学書院）									
参 考 書		なし									
授業の留意点・備考		なし									

科目名	精神看護学援助論Ⅱ（精神看護に必要な技術）	担当教員	伊藤 寿浩
-----	-----------------------	------	-------

学科	看護学科	年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	15/30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	精神看護学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		一般精神科で、患者およびその家族と関わってきた経験を活かし、患者の社会復帰に向けた看護師の役割について講義を行うことができる。									
授 業 概 要		ケアの人間関係、リハビリ（回復）を支援する、入院治療の意味、身体をケアし安全を守る、地域における精神看護、医療現場におけるメンタルヘルス、リエゾン精神看護、災害時のメンタルヘルスとケア									
到 達 目 標		精神の障害や症状によって引き起こされる日常生活のしづらさや、看護師が患者と関わる際に求められる基本的な姿勢・態度を学び、精神看護に必要な技術を理解する。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス			看護師のメンタルヘルスについて理解することができる。							
2	精神看護援助の基本と技術			日常生活の援助方法について学ぶ。							
3	精神疾患の理解と治療			対象の病的特性について理解し、疾患や症状別に用いられる治療法や看護を学ぶ。							
4	災害と精神看護			災害時の精神医療と看護について理解できる。							
5	精神臨床の考え方			急性期から回復期、慢性期の看護及びその各期に用いられる技法について学ぶ。（講義・演習など）							
6	統合失調症と発達障害			統合失調症、発達障害の症状及び治療・看護について学ぶ。							
7	児童思春期医療			対象の特性理解と治療・看護について学ぶ。（講義・DVD）							
8	試験										
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習）の具体的な内容		教科書、講義資料を読んでおく。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 50 ％ ） ☐ 実技試験 （ ％ ） ☐ 小テスト （ ％ ） ☐ レポート （ ％ ） ☐ 課題 （ ％ ） ☒ 発表 （ ％ ） ☒ その他（『プロセスノート』 10％ ）									
教 科 書		系統看護学講座 専門分野 精神看護学（１）精神看護の基礎 第6版 （医学書院） 系統看護学講座 専門分野 精神看護学（２）精神看護の展開 第6版 （医学書院）									
参 考 書		適宜、資料配布 ・精神看護学Ⅰ精神保健学/精神看護学Ⅱ精神臨床看護学（ヌーベルクロワ）									
授業の留意点・備考		グループワークのときには積極的に意見を出し、発言していくこと。									

科目名	精神看護学援助論Ⅱ（精神看護に必要な技術）	担当教員	那須 広輝
-----	-----------------------	------	-------

学科	看護学科	年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	15/30	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	精神看護学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		一般精神科で、患者およびその家族と関わってきた経験を活かし、患者の社会復帰に向けた看護師の役割について講義を行うことができる。									
授 業 概 要		患者との相互関係を通して援助関係を確立し、発展させていく能力を身につけることは、看護師にとって重要な課題である。患者が抱える様々な症状・状態について基本的対応を学習する。									
到 達 目 標		1. 精神科でみられる主な症状とその介入技術について説明できる。 2. 精神疾患をもつ患者の回復に向けた援助方法について説明できる。 3. 精神科における多職種との連携や、地域生活支援における看護師の役割について説明できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	精神科でみられる主な症状の理解と看護①			幻覚、妄想、せん妄について、症状を理解する。							
	精神科でみられる主な症状の理解と看護②			幻覚、妄想、せん妄の援助方法について学ぶ。							
2	精神科でみられる主な症状の理解と看護③			不安状態、意欲減退、抑うつ状態について症状を理解する。							
	精神科でみられる主な症状の理解と看護④			不安状態、意欲減退、抑うつ状態の援助方法について学ぶ。							
3	看護の役割：治療的環境、入院治療の意味			入院治療の意味を理解し、対象の安全を守ることについて学ぶ。							
	看護の役割：身体ケア			食事、睡眠、活動（リハビリテーションを含む）の援助について学ぶ。							
4	統合失調症、妄想性障害をもつ対象の看護①			病態および治療について理解し、援助方法について学ぶ（１）							
	統合失調症、妄想性障害をもつ対象の看護②			病態および治療について理解し、援助方法について学ぶ（２）							
5	躁極性障害、気分障害をもつ対象の看護①			病態および治療について理解し、援助方法について学ぶ（１）							
	躁極性障害、気分障害をもつ対象の看護②			病態および治療について理解し、援助方法について学ぶ（２）							
6	精神科病棟の環境とリスクマネジメント			一般病棟との構造上の違いや事故事例について学ぶ。							
	精神科における身体合併症			起こりやすい身体合併症について学ぶ。							
7	行動制限を受けている対象の看護			精神科における行動制限、倫理について学ぶ。							
	精神障害をもつ対象の地域生活支援の実践			長期入院患者の地域生活移行や訪問看護の目的について学ぶ。							
8	試験とまとめ										
準備学習（予習復習）の具体的な内容		予習：各テーマにある用語について、教科書を読んで把握しておく。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 100 ％ ） ☐ 実技試験 （ ％ ） ☐ 小テスト （ ％ ） ☐ レポート （ ％ ） ☐ 課題 （ ％ ） ☐ 発表 （ ％ ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		系統看護学講座 専門分野 精神看護学（１）精神看護の基礎 第６版（医学書院） 系統看護学講座 専門分野 精神看護学（２）精神看護の展開 第６版（医学書院）									
参 考 書											
授業の留意点・備考		不明な点は積極的に質問すること。回答できない場合、次回に回答します。									

科目名	精神看護学援助論Ⅲ（看護過程）	担当教員	伊藤 寿浩
-----	-----------------	------	-------

学科	看護学科	年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	15/30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	精神看護学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		精神科病棟勤務の経験を活かし、精神科の看護展開における看護理論を用いて、看護過程の展開の講義・演習ができる。									
授 業 概 要		患者－看護師関係の治療的関与技術、プロセスレコード、オレム・アンダーウッドモデルを用いた看護過程の展開（統合失調症・気分障害の事例）									
到 達 目 標		精神に障害をもつ患者の問題を解決するための方法を学び、看護の実践に必要な知識・技術を習得する。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	プロセスレコード			事例を用いて自己理解、対象理解を深める。（講義・演習など）							
2	看護過程①			統合失調症の事例から必要な情報を抽出する。（講義・演習など）							
3	看護過程②			精神状態・セルフケアの査定について学ぶ。（講義・演習など）							
4	看護過程の展開①			事例から得た情報をもとに、精神状態・セルフケアの査定をする。（グループワーク）							
5	看護過程の展開②			関連図から看護上の問題を抽出し、対象の目標を考える。（グループワーク）							
6	看護過程の展開③			グループで展開した看護過程を発表する①（グループワーク）							
7	看護過程の展開④			グループで展開した看護過程を発表する②（グループワーク）							
8	試験			まとめと解説							
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習）の具体的な内容		教科書、講義資料を読んでおく。									
成 績 評 価		☐ 定期試験 （ %） ☐ 実技試験 （ %） ☐ 小テスト （ %） ☐ レポート （ %） ☐ 課題 （ %） ☒ 発表 （ %） ☒ その他（「プロセスレコード」 10% ）									
教 科 書		系統看護学講座 専門分野 精神看護学（1）精神看護の基礎 第6版 （医学書院） 系統看護学講座 専門分野 精神看護学（2）精神看護の展開 第6版 （医学書院）									
参 考 書		適宜、資料配布 ・精神看護学Ⅰ精神保健学/精神看護学Ⅱ精神臨床看護学（ヌーベルエディカ）									
授業の留意点・備考		グループワークのときには積極的に意見を出し、発言していくこと。									

科目名	精神看護学援助論Ⅲ（看護過程）						担当教員	藤井美香/古川晃司			
-----	-----------------	--	--	--	--	--	------	-----------	--	--	--

学科	看護学科	年次	2	開講期	後期	単位数	2	時数	15/30	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	精神看護学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		精神科病棟勤務の経験を活かし、精神科の看護展開における看護理論を用いて、看護過程の展開の講義・演習ができる。									
授 業 概 要		・精神看護学の展開において、セルフケアに関する看護理論のオレムアンダーウッドモデルを用いて看護過程の展開ができる。 ・診断・状態に応じた看護ケア（セルフケアへの支援）ができる。									
到 達 目 標		・精神看護学の展開において、セルフケアに関する看護理論のオレムアンダーウッドモデルを用いて看護過程の展開ができる。 ・診断・状態に応じた看護ケア（セルフケアへの支援）ができる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	精神看護に関する看護理論 オレムアンダーウッドモデル			精神科病院のイメージをつかむ（ビデオをみてグループワーク） 精神看護に関する看護理論について							
2	精神症状の査定と精神症状の捉え方			メンタル ステイタス エグザミネーション（精神状態の査定）の理解ができるように、各項目に沿って説明する。							
3	普遍的セルフケア要件の把握と査定			セルフケアに関する情報の聞き取りと実際の記載方法の講義および演習をおこなう。							
4	統合失調症患者への看護展開 1			統合失調症の事例をオレムアンダーウッドモデルを用いて、看護過程の展開をおこなう。情報収集・アセスメントおよびセルフケア上の問題の明確化ができるよう演習し発表する。							
5	統合失調症患者への看護展開 2			セルフケア上の問題から長期目標・短期目標および看護計画の立案ができるよう演習し発表する。							
6	気分障害患者への看護展開 1			気分障害患者の事例をオレムアンダーウッドモデルを用いて、看護過程の展開をおこなう。情報収集・アセスメントおよびセルフケア上の問題の明確化ができるよう演習し発表する。							
7	気分障害患者への看護展開 2			セルフケア上の問題から長期目標・短期目標および看護計画の立案ができるよう演習し発表する。							
8	テスト										
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習）の具体的な内容											
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 90 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☒ レポート （ 10 % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		系統看護学講座 専門分野 精神看護学（1）精神看護の基礎 第6版（医学書院） 系統看護学講座 専門分野 精神看護学（2）精神看護の展開 第6版（医学書院）									
参 考 書											
授業の留意点・備考		より効果的な精神科看護実ができるように、実習の心構えや患者さんとのコミュニケーション方法の基本などを取り入れながら、上記授業をおこなう。また、質問コーナーを入れながら、今、ここでの思いが発言できるように心がけ授業をおこなう。									

科目名	看護管理	担当教員	岡田 玉子
-----	------	------	-------

学科	看護学科	年次	3	開講期	前期	単位数	1	時数	15	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	看護の統合と実践						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		病棟師長の経験と幹部看護教員の経験を活かし、リスクマネジメントや看護管理について教授することができる。									
授 業 概 要		看護活動が有効に機能するための組織・管理について理解する。									
到 達 目 標		看護管理の目的・方法を学び、看護管理システムと危機管理(医療安全管理対策)を理解する。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	危機のマネジメント医療安全のためのしくみづくり（１）			危機のマネジメント医療安全のためのしくみづくりを学ぶ							
2	危機のマネジメント医療安全のためのしくみづくり（２）			危機のマネジメント医療安全のためのしくみづくりを学ぶ							
3	看護管理とは			看護管理の定義、管理のレベル、社会人になること、社会人基礎力							
4	組織づくりの仕組み			労働三法、継続教育、新人看護職員研修制度、継続教育と資格等の認定・研修制度							
5	マネジメントに関する理論と手法			マネジメントとリーダーシップ、バランススコアカード、SWOT分析							
6	看護部門の組織と看護方式			組織図、役職と役割、看護提供システム（看護方式）							
7	関係法令(医療・看護)			医療法、保助看法、看護師等の人材確保の促進に関する法律、診療報酬制度							
8	まとめ			試験							
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習）の具体的な内容											
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 100 ％） ☐ 実技試験 （ ％） ☐ 小テスト （ ％） ☐ レポート （ ％） ☐ 課題 （ ％） ☐ 発表 （ ％） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		系統看護学講座「看護管理」(医学書院)、系統看護学講座「医療安全」(医学書院)									
参 考 書											
授業の留意点・備考											

科目名	災害看護	担当教員	園田 照子
-----	------	------	-------

学科	看護学科	年次	3	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	看護の統合と実践						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		施設内における看護、野外看護や大量傷病者収療訓練、野外における救護活動などの経験と、カウンセリングの知識技術を活かし、災害時の看護師の活動や役割を学生に伝えることができる									
授 業 概 要		災害の定義、種類、特徴等の知識を得ることで、災害医療・災害看護は、災害の種類や特徴によって様相が変わることを理解し、イメージすることができるよう講義・演習等を行う。 また、災害看護は基礎看護をベースにし、各災害の特性や災害サイクルに応じ応用展開されることを学ぶ。									
到 達 目 標		(1)災害の定義、種類・特徴を理解し、説明できる。 (2)災害医療、災害看護の概要が理解できる。 (3)災害サイクルに応じた看護活動と役割を理解することができる。 (4)活動現場別の看護活動と役割を理解することができる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	(1)オリエンテーション (2)レディネス調査			(1)講師自己紹介(10分) (2)授業の進め方・提出物の説明(10分) (3)レディネス調査(30分) (4)災害の定義と災害の種類・特徴、健康被害(40分)							
2	災害医療・看護の概要を学ぶ			(1)災害医療・看護の特徴 (2)トリアージについて (3)災害対応にかかわる職種間・組織間の連携 (4)災害と情報 (5)災害と法律							
3	災害サイクルと活動場面に応じた看護活動			(1)災害サイクルと災害医療・看護 (2)グループワークについての説明							
4	災害サイクルと活動場面に応じた看護活動			・グループ編成:メンバー自己紹介、チーム名決定 リーダー選出 メンバー作成提出(30分) ・グループワーク:災害の種類・時期、被災状況、看護場面、発表形態等設定 (60分)							
5	災害サイクルと活動場面に応じた看護活動			グループワーク：各自の役割を決め、対応する災害と看護を設定する(災害の種類 対応時期 被災状況 被災者数 性別 年齢 健康被害の種類・状況)							
6	災害サイクルと活動場面に応じた看護活動			グループワーク：各グループのテーマに沿って被災者への看護対応を考える(患者状況 傷病の種類・看護(必要物品等含む))							
7	災害サイクルと活動場面に応じた看護活動			グループワーク：各グループのテーマに沿って被災者への看護対応を考える(患者状況 傷病の種類・看護(必要物品等含む)) 連携先の選定							
8	災害サイクルと活動場面に応じた看護活動			グループワーク：各グループのテーマに沿って被災者への看護対応を考える(患者状況 傷病の種類・看護(必要物品等含む)) 連携先への情報伝達							
9	災害サイクルと活動場面に応じた看護活動			グループワーク：各グループのテーマに沿って被災者への看護対応を考える(患者状況 傷病の種類・看護(必要物品等含む)) 看護師の個人装備品							
10	災害サイクルと活動場面に応じた看護活動			グループワーク：グループ発表のシナリオ作り 役割分担の確認							
11	災害サイクルと活動場面に応じた看護活動			グループワーク：発表準備(発表順決め 発表時の役割分担 配布資料準備 リハーサル他)							
12	災害サイクルと活動場面に応じた看護活動			グループワーク：発表・評価 発表時間10分 質疑応答							
13	災害サイクルと活動場面に応じた看護活動			グループワーク：発表・評価 発表時間10分 質疑応答							
14	災害と心のケアについて 災害看護のまとめと補足			・災害現場で行うメンタルケアについての解説と演習 ・災害看護全般に関する質疑応答							
15	学科試験			まとめと解説							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		＊授業の前日までに、教科書を読んでおくこと。 ＊教科書は必ず持参すること。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 (80 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ テスト (%) ☐ レポート (%) ☒ 課題 (10 %) ☐ 発表 (%) ☒ その他 (授業態度10%)									
教 科 書		系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践〔3〕災害看護学・国際看護学 第5版 (医学書院)									
参 考 書											
授業の留意点・備考		1 携帯電話の電源は切り、机に出さない。 2 授業に関係のない私語禁止。質問や意見がある場合は、その都度挙手し指名を受けて発言する。									

科目名	臨床看護の実践	担当教員	松尾 祐子
-----	---------	------	-------

学科	看護学科	年次	3	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	看護の統合と実践						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	内科・外科病棟、ICU勤務の経験を活かしそれぞれの健康レベル別の対象の看護や、病棟での看護管理者の立場からスタッフとの関わりを経験したこと活かし、看護のマネジメントについて講義・演習を行うことができる。
-----------	---

授 業 概 要	複数疾患を持つ患者のアセスメントと看護ケア、多重課題、優先順位、タイムマネージメント、複数患者の看護、多職種連携、緊急時（急変時）の対応
---------	--

到 達 目 標	既習の知識・技術を統合させ臨床現場で求められる患者の状況に応じて優先度を考慮した判断や安全に配慮した看護の実践を理解する。
---------	---

授 業 計 画											
---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

回	テーマ	授 業 内 容
1	優先順位	「優先順位」とは何かを事例を用いて理解する
2	時間管理・他職種との調整	「時間管理」とは何かを理解し、他職種の役割と協働について理解する
3	タイムスケジュールの立案	事例を用いて、タイムスケジュールを立案し、優先順位の決定につなげる
4	多重課題の優先度	多重課題が起きる場面を知り、事例をもとに、根拠を踏まえて優先順位の決定する
5	1日のタイムスケジュールを立案	事例を用いて、優先度を考え1日のタイムスケジュールを立案する
6	2例の事例紹介とアセスメント	複数患者の看護展開（事例紹介・アセスメント）をする
7	優先順位の視点について	複数患者の看護展開で優先順位の視点を学ぶ
8	複数患者のタイムスケジュール	複数患者の1日の看護計画のタイムスケジュールを立案する
9	患者の状態変化について	患者の状態変化の把握とタイムスケジュール変更の実践を学ぶ
10	優先順位	優先順位を明確にし確認ができる
11	タイムスケジュール	タイムスケジュール発表準備（GW）
12	タイムスケジュール	タイムスケジュール変更発表（GW）
13	緊急時の対応（計画）	緊急時の看護の実施するための計画を立案できる
14	緊急時の対応（演習）	緊急時の看護の実施・報告
15	緊急時の対応（演習）	緊急時の看護の実施・報告

準備学習（予習復習）の具体的な内容	事例に関する疾患の理解ができるように教科書等を読んでおく
-------------------	------------------------------

成 績 評 価	☒ 定期試験 （ 60 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ）
	☒ 課題 （ 40 % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）

教 科 書	事例に関する教科書
-------	-----------

参 考 書	事例に関する参考書
-------	-----------

授業の留意点・備考	事例の展開になるため、不明な点はそのままにせず、担当教員に質問をし、その都度理解できるようにする。提出物については、期限厳守とし、守られなかった場合は減点とする。
-----------	---

科目名	基礎看護学実習Ⅰ						担当教員	濱崎 勝子			
-----	----------	--	--	--	--	--	------	-------	--	--	--

学科	看護学科	年次	1	開講期	7月・12月	単位数	1	時数	45	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	基礎看護学実習Ⅰ						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		内科・外科病棟での臨床看護経験を日常生活援助の実施に向けての指導に生かす。									
授 業 概 要		看護が行われる場、患者が生活している療養環境や看護師の活動の実際、対象の日常生活の理解、疾患や治療が日常生活に及ぼす影響の理解、個別な生活に合わせた援助の実際、既習の看護技術を用いての援助									
到 達 目 標		基礎看護学で学んだ知識・技術・態度を統合し、対象に応じた日常生活の援助を実践できる能力を養う。									
授 業 計 画											
回	テーマ					授 業 内 容					
1	基礎看護学実習Ⅰ－1（1日間）：5時間					看護の場、患者の生活する療養環境、看護師の活動の実際、対象の日常生活の理解					
1	基礎看護学実習Ⅰ－2（1日目）：8時間					受け持ち患者の決定、情報収集					
2	（2日目）：8時間					援助の実際（バイタルサイン測定・情報収集）情報の分析					
3	（3日目）：8時間					援助の実際（バイタルサイン測定・日常生活の援助を指導者と共に実施）情報の分析、援助の必要性の判断、援助計画の立案					
4	（4日目）：8時間					援助計画に沿った援助の実施、評価					
5	（5日目）：8時間					援助計画に沿った援助の実施、評価、学びの発表					
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習）の具体的な内容											
成 績 評 価		☐ 定期試験 （ %） ☐ 実技試験 （ %） ☐ 小テスト （ %） ☐ レポート （ %） ☐ 課題 （ %） ☐ 発表 （ %） ☒ その他 （実習評価 ）									
教 科 書											
参 考 書											
授業の留意点・備考		受け持ち患者の選定・決定について、受け持ち患者は、コミュニケーションの取りやすい患者、日常生活の援助の必要な患者とする。									

科目名	基礎看護学実習Ⅱ						担当教員	濱崎 勝子		
-----	----------	--	--	--	--	--	------	-------	--	--

学科	看護学科	年次	2	開講期	7月	単位数	2	時数	90	授業形態	実習
区分	専門分野	教育内容	基礎看護学実習Ⅱ						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		内科・外科病棟での臨床看護経験を日常生活援助の実施に向けての指導に生かす。									
授 業 概 要		対象を総合的に理解するために、必要な援助を判断して計画的に看護を実践し評価する。基礎看護学実習は、看護過程の展開を通して個別な対象の看護のあり方を学ぶ。									
到 達 目 標		基礎看護学で学んだ知識・技術・態度を統合し、対象に応じた日常生活の援助を実践できる能力を養う。									
授 業 計 画											
回	テーマ				授 業 内 容						
1	臨地実習（1日目）				病棟オリエンテーション、受け持ち患者の決定、看護の見学、情報収集						
2	臨地実習（2日目）				援助の実際（バイタルサイン測定など看護の見学、実践）情報の整理・分析						
3	臨地実習（3日目）				援助の実際（バイタルサイン測定・日常生活の援助を指導者と共に実施）情報の分析、関連図にて全体像の把握、援助の必要性の判断						
4	臨地実習（4日目）				看護計画の立案						
5	臨地実習（5日目）				援助計画の発表、計画に沿った援助の実施、評価、追加・修正						
6	臨地実習（6日目～8日目）				看護の実践と評価、中間評価						
7	臨地実習（9日目～11日目）				看護の実践と評価						
8	臨地実習（12日目）				看護の実践と評価、最終評価、学びの発表						
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習）の具体的な内容											
成 績 評 価		☐ 定期試験 （ %） ☐ 実技試験 （ %） ☐ 小テスト （ %） ☐ レポート （ %） ☐ 課題 （ %） ☐ 発表 （ %） ☒ その他 （実習評価 ）									
教 科 書											
参 考 書											
授業の留意点・備考		受け持ち患者は、原則として比較的交流コミュニケーションがとりやすい、症状の変化が少ない患者とする。また、基礎看護学実習での看護技術の到達として、清潔項目は、指導者監視のもと全員が実施できるようにする。									

科目名	地域・在宅看護論実習Ⅰ					担当教員	松尾 祐子				
-----	-------------	--	--	--	--	------	-------	--	--	--	--

学科	看護学科	年次	2	開講期	9月	単位数	1	時数	45	授業形態	実習
区分	専門分野	教育内容	地域・在宅看護論実習Ⅰ					選択・必修	必修		
担当教員の実務経験		看護師として病院及び在宅領域で10年以上の実務経験を活かし、在宅看護全般について指導を行うことができる。									
授 業 概 要		地域で生活する人の看護、健康を保持増進する理論、介護予防の実際、生活習慣予防、多様な場での看護の実際・認知機能に障害のある高齢者の看護・地域で療養しながら暮らす人々とその家族の生活状況、対象特性に応じた援助方法各施設の機能と役割、ケアシステムにおける関係機関・職種の連携の実際、地域ケアシステムにおける保健・医療・福祉領域の社会資源の理解									
到 達 目 標		地域で暮らす人々とその家族の特性と生活ニーズを理解し、その人らしく生きるための支援の計画について学ぶ。また生活している地域の環境や社会資源、保健・医療・福祉の関係職種との協働連携の実際を通して地域包括ケアにおける看護師の役割を考える。									
授 業 計 画											
回	テーマ					授 業 内 容					
1	実習1日目～5日目					地域包括支援センター、社会福祉協議会、検診センター、病院外来、地域の老人会、デイケア、デイサービス					
2	実習6日目					まとめ					
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習）の具体的な内容											
成 績 評 価		☐ 定期試験 （ %） ☐ 実技試験 （ %） ☐ 小テスト （ %） ☐ レポート （ %） ☐ 課題 （ %） ☐ 発表 （ %） ☒ その他 （実習評価 ）									
教 科 書											
参 考 書											
授業の留意点・備考											

科目名	地域・在宅看護論実習Ⅱ					担当教員	松尾 祐子				
-----	-------------	--	--	--	--	------	-------	--	--	--	--

学科	看護学科	年次	3	開講期	4月～11月	単位数	2	時数	90	授業形態	実習
区分	基礎分野	教育内容	地域・在宅看護論実習Ⅱ						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		看護師として病院及び在宅領域で10年以上の実務経験を活かし、在宅看護全般について指導を行うことができる。									
授業概要		地域で生活する療養者及び家族の理解（身体・精神・社会的側面）。地域で生活する療養者及び家族に対する看護の方法、介入計画の立案と実践。実践した看護の評価。									
到達目標		地域や在宅で生活している健康上の問題とその家族を理解し、状態に応じた看護ができる能力を養う。									
授業計画											
回	テーマ				授業内容						
1	実習1日目				オリエンテーション、担当看護師紹介、受け持ち療養者情報収集、訪問看護同行						
2	実習2～3日目				受け持ち利用者の情報収集、アセスメント、訪問看護同行						
3	実習4～5日目				中間カンファレンス、看護計画・ケアシステム発表、訪問看護同行						
4	実習6～11日目				介入計画に基づいた援助の実施、計画の実施・評価、計画の追加・修正、訪問看護同行、						
5	実習12日目				最終カンファレンス、私が考える在宅看護、療養者の評価発表						
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習）の具体的な内容											
成績評価		☐ 定期試験 （ % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☒ その他 （ 実習評価 ）									
教科書											
参考書											
授業の留意点・備考		受け持ちは、在宅療養者であれば、どの段階の発達段階でもよい。実習先や療養者の状況に合わせる。訪問看護実施に当たっては、訪問看護のあり方を学習するだけでなく、事前学習し、自己の訪問の目的をもって主体的に関わる。									

科目名	成人・老年看護学実習Ⅰ						担当教員	梅下 恵		
-----	-------------	--	--	--	--	--	------	------	--	--

学科	看護学科	年次	2	開講期	12月	単位数	1	時数	45	授業形態	実習
区分	専門分野	教育内容	成人・老年看護学実習Ⅰ						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		看護師として病院で10年以上の実務経験を活かし、老年看護全般について指導を行うことができる。									
授 業 概 要		地域で生活している高齢者の理解、地域で支援を受けながら生活している高齢者の理解、介護保険施設に入所している高齢者の理解、日常生活行動の低下した高齢者の理解									
到 達 目 標		老年期にある対象の健康の特徴を踏まえて、老化や認知症状、健康の段階に応じた看護を実践できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ					授 業 内 容					
1	実習1日目～5日目					施設オリエンテーション、受け持ち対象者の決定、情報の整理、援助の実践、					
2	実習6日目					実習のまとめ					
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習）の具体的な内容											
成 績 評 価		☐ 定期試験 （ %） ☐ 実技試験 （ %） ☐ 小テスト （ %） ☐ レポート （ %） ☐ 課題 （ %） ☐ 発表 （ %） ☒ その他 （実習評価 ）									
教 科 書											
参 考 書											
授業の留意点・備考											

科目名	成人・老年看護学実習Ⅱ	担当教員	梅下 恵
-----	-------------	------	------

学科	看護学科	年次	2	開講期	1月	単位数	2	時数	60	授業形態	実習
区分	専門分野	教育内容	成人・老年看護学実習Ⅱ						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		看護師として病院で１０年以上の実務経験を活かし、老年看護全般について指導を行うことができる。									
授 業 概 要		健康障害をきたしている成人（高齢者を含む）の理解、身体機能の維持にかかわる援助の方法、社会資源の活用在宅復帰支援、生活関連活動の自立、認知機能に障害のある患者への自立支援									
到 達 目 標		健康障害をきたしている成人（高齢者の、健康の特徴を踏まえ、生活障害を中心に機能維持・ＡＤＬの拡大を目指した看護について理解する。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	実習１日目			病棟オリエンテーション、受け持ち患者の情報収集、整理							
2	実習２日目～４日目			看護の見学・実施、アセスメント、援助計画の立案							
3	実習５日目～７日目			看護計画に基づいた援助の実施と評価							
4	実習８日目			最終カンファレンス、実習のまとめ							
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習）の具体的な内容											
成 績 評 価		☐ 定期試験 （ % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☒ その他 （ 実習評価 ）									
教 科 書											
参 考 書											
授業の留意点・備考											

科目名	成人・老年看護学実習Ⅲ					担当教員	首藤 眞奈美				
-----	-------------	--	--	--	--	------	--------	--	--	--	--

学科	看護学科	年次	3	開講期	4月～11月	単位数	2	時数	90	授業形態	実習
区分	専門分野	教育内容	成人・老年看護学実習Ⅲ						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		看護師として病院で10年以上の実務経験を活かし、成人・老年看護全般について指導を行うことができる。									
授 業 概 要		生涯にわたり疾病をコントロールする成人の特徴、セルフマネジメントや自己効力感、変化ステージ、ストレスマネジメント、成人学習者としての対象、障害受容過程									
到 達 目 標		生涯にわたり疾病コントロールを必要とする対象を理解し、セルフコントロールが必要な様々な健康障害・疾病との共存を図り、セルフケア確立への看護を学ぶ。									
授 業 計 画											
回	テーマ				授 業 内 容						
1	実習1日目				病棟オリエンテーション、受け持ち患者情報収集及び整理						
2	実習2日目～4日目				看護の見学・実践						
3	実習5日目～8日目				看護計画に基づいた実施と評価、生活指導の計画						
4	実習9日目～11日目				看護計画に基づいた実施と評価、生活指導の実施						
5	実習12日目				看護計画に基づいた実施と評価、最終カンファレンス、						
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習）の具体的な内容											
成 績 評 価		☐ 定期試験 （ %） ☐ 実技試験 （ %） ☐ 小テスト （ %） ☐ レポート （ %） ☐ 課題 （ %） ☐ 発表 （ %） ☒ その他 （実習評価 ）									
教 科 書											
参 考 書											
授業の留意点・備考											

科目名	成人・老年看護学実習Ⅳ					担当教員	首藤 眞奈美				
-----	-------------	--	--	--	--	------	--------	--	--	--	--

学科	看護学科	年次	3	開講期	4月～11月	単位数	2	時数	90	授業形態	実習
区分	専門分野	教育内容	成人・老年看護学実習Ⅳ						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		看護師として病院で10年以上の実務経験を活かし、成人・老年看護全般について指導を行うことができる。									
授業概要		周手術期の成人の対象について、術前・術中・術後（周手術期）の看護、ボディイメージの変化、危機理論、退院支援									
到達目標		手術に伴う身体侵襲とボディイメージの変化を理解し、手術後の機能障害・機能喪失に対する援助や手術後の継続的な自己管理に関する援助を学ぶ。									
授業計画											
回	テーマ				授業内容						
1	実習1日目				病棟オリエンテーション、受け持ち患者の情報収集						
2	実習2日目				受け持ち患者の情報収集、看護の見学・実施						
3	実習3日目～実習8日目				受け持ち患者の看護の実施（看護計画に沿って）、中間カンファレンス						
4	実習9日目～実習11日目				受け持ち患者の看護の実践（修正した看護計画に沿って）						
5	実習12日目				受け持ち患者の看護の実践（修正した看護計画に沿って）、最終カンファレンス						
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習）の具体的な内容											
成績評価		☐ 定期試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☒ その他（実習評価 ）									
教科書											
参考書											
授業の留意点・備考		受け持ち患者は手術を受ける患者（内視鏡的手術も可）、または急性の経過をたどる患者から1例以上受け持つ。									

科目名	成人・老年看護学実習Ⅴ					担当教員	首藤 眞奈美				
-----	-------------	--	--	--	--	------	--------	--	--	--	--

学科	看護学科	年次	3	開講期	4月～11月	単位数	2	時数	90	授業形態	実習
区分	専門分野	教育内容	成人・老年看護学実習Ⅴ						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		看護師として病院で10年以上の実務経験を活かし、成人・老年看護全般について指導を行うことができる。									
授 業 概 要		治癒困難な状態にある対象及び家族の特徴、障害受容、自己決定、ACP、緩和ケア									
到 達 目 標		治癒困難な状態にある対象及び家族の特徴と対象となる疾患の看護について理解する。障害受容や自己決定に関する支援について理解し、患者家族に必要な看護を理解する。									
授 業 計 画											
回	テーマ					授 業 内 容					
1	実習1日目					病棟オリエンテーション、受け持ち患者情報収集					
2	実習2日目					受け持ち患者情報収集、看護の実施					
3	実習3日目～6日目					受け持ち患者の看護の実施（看護計画に沿って）、中間カンファレンス					
4	実習7日目～8日目					受け持ち患者の看護の実施（看護計画に沿って）、緩和ケア病棟見学					
5	実習9日目					受け持ち患者の看護の実施（看護計画に沿って）、プロセスレコード					
6	実習10日目					受け持ち患者の看護の実施（看護計画に沿って）、死生観					
7	実習11日目					受け持ち患者の看護の実施（看護計画に沿って）、緩和ケア病棟見学					
8	実習12日目					受け持ち患者の看護の実施（看護計画に沿って）、最終カンファレンス					
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習）の具体的な内容											
成 績 評 価		☐ 定期試験 （ % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☒ その他 （ 実習評価 ）									
教 科 書											
参 考 書											
授業の留意点・備考		治癒困難な状態にある癌疾患など終末期患者、もしくは、予後不良で回復見込みのない状態の患者を1例受け持つ。緩和ケア病棟での見学実習ができる場合は、事前学習のレポートを事前に提出する。									

科目名	小児看護学実習						担当教員	坂本 浩子			
-----	---------	--	--	--	--	--	------	-------	--	--	--

学科	看護学科	年次	3	開講期	4月～11月	単位数	2	時数	60	授業形態	実習
区分	専門分野	教育内容	小児看護学実習						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		臨床での小児看護の経験を活かし、小児看護に必要な成長発達や病態アセスメントを理解するため講義・演習を行うことができる。									
授 業 概 要		健康な小児の成長発達段階における特徴・乳幼児の成長発達を促す保育のあり方、健康な乳幼児の生活援助、基本的な生活習慣の獲得への援助。障害が小児の成長や家族に与える影響、在宅、外来、入院など治療の場が小児や家族に与える影響、治療や処置などを受ける小児や家族の援助。									
到 達 目 標		小児期にある対象の特徴、健康問題を理解し、成長発達や健康レベルに応じた看護が実施できる能力を養う。									
授 業 計 画											
回	テーマ				授 業 内 容						
1	健康な小児の看護実習（保育園）1日目				保育園の環境、日課、保育活動の実際、事故防止						
2	2日目～4日目				成長発達の理解、基本的な生活習慣の援助、保健指導企画・実施						
3	健康障害をもつ小児の実習 （外来・病棟） 1日目～4日目				オリエンテーション、外来の環境、問診・アセスメント～診察介助、外来看護師の役割、外来医療、健診、予防接種、救急・継続看護の理解。						
4					情報収集、アセスメント、行われている援助の見学、個別性に応じた状態観察、成長・発達をとらえた生活援助、治療・処置別看護、小児看護技術						
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習）の具体的な内容											
成 績 評 価		☐ 定期試験 （ % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☒ その他 （ 実習評価 ）									
教 科 書											
参 考 書											
授業の留意点・備考											

科目名	母性看護学実習					担当教員	山下芳枝/梅下恵				
-----	---------	--	--	--	--	------	----------	--	--	--	--

学科	看護学科	年次	3	開講期	4月～11月	単位数	2	時数	60	授業形態	実習
区分	専門分野	教育内容	母性看護学実習						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		助産師としての臨床経験を活かし、専任教員として講義・実習指導を行うことができる。									
授 業 概 要		妊産褥婦の特徴・経過を理解し、看護診断ができる。産褥期における看護診断から看護計画を立案することができる。看護計画に基づいて産褥期の看護が実践できる。実施した産褥期の看護を評価することができる。新生児の特徴を理解し、正常な経過をたどる新生児に応じた看護ができる。対象やその家族、医療チームとの良い人間関係を築くことができる。妊娠・分娩・産褥期の看護を通して自己の母性観を深めることができる。									
到 達 目 標		母性および新生児の特徴を理解し、妊産褥婦と新生児に応じた援助ができる能力を養う。									
授 業 計 画											
回	テーマ				授 業 内 容						
1	実習1日目～5日目 (周産期病棟での実習)				外来での実習(妊婦健康診査・保健指導)						
2					病棟での実習(妊婦・産婦・褥婦・新生児の援助)						
3					新生児室実習(もしくは母児同室)						
4	実習6～7日目(子育て支援実習)				子育て支援施設の行事・日課に沿った実習。母子相互作用、地域のサポート体制						
5	実習8～10日目(思春期)				出生後からの生育過程での母親・父親・家族の関わりと思春期のアタッチメント						
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習(予習復習)の具体的な内容											
成 績 評 価		☐ 定期試験 (%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☒ その他 (実習評価)									
教 科 書											
参 考 書											
授業の留意点・備考		原則として、正常に経過すると思われる母子を共に受け持ち、産前から退院までの援助を実施する。受け持ちは予定入院産婦、分娩期、産褥0日目、1日目、2日目の順で優先的に決める。									

科目名	精神看護学実習	担当教員	工藤 かしみ
-----	---------	------	--------

学科	看護学科	年次	3	開講期	4月～11月	単位数	2	時数	90	授業形態	実習
----	------	----	---	-----	--------	-----	---	----	----	------	----

区分	専門分野	教育内容	精神看護学実習	選択・必修	必修
----	------	------	---------	-------	----

担当教員の実務経験	内科、外科病棟に入院や疾患に伴うこころの問題を抱える患者や、精神障害を持ち一般病院に入院となった患者の看護経験をもとに講義・演習ができる。
-----------	---

授 業 概 要	人々の精神の健康増進と疾病予防への援助活動、精神障がい者の社会復帰への援助活動、精神障害のある対象の特徴と苦悩、精神障がい者の自立に向けたリカバリーを促進する援助の実際、精神に障害をもつ患者に関する保健・医療・福祉の連携及び看護の役割
---------	---

到達目標	人々の精神の健康増進と疾病予防への援助活動を理解し、さらに精神障がい者の理解と自立に向けた援助の能力を習得する。対話を通して信頼関係を形成し、共感と傾聴を主な看護技術として看護が実践できる能力を養う。
------	--

授 業 計 画

回	テーマ	授 業 内 容
---	-----	---------

1	実習 1 日目	病棟オリエンテーション、受け持ち患者情報収集
---	---------	------------------------

2	実習2日目	受け持ち患者情報収集、看護援助の見学、一部実施
---	-------	-------------------------

3	実習3日目～4日目	受け持ち患者の情報整理・分析、不足情報の確認、看護の見学一部実施 プロセスレコードの検討①
---	-----------	--

4	実習5日目～6日目	受け持ち患者の看護の実施（看護計画に沿って）レクリエーション計画（案）検討
---	-----------	---------------------------------------

5	実習 7 日目	受け持ち患者の看護の実施（看護計画に沿って）、中間カンファレンス
---	---------	----------------------------------

6	実習8～9日目	受け持ち患者の看護の実施（看護計画に沿って）プロセスレポート検討② レクリエーションの実施
---	---------	--

7	実習10日目	受け持ち患者の看護の実施（看護計画に沿って）最終カンファレンス（病棟）

8	実習11日目	デイクア見学 (見学実習で学んだこと)

9	美音 1 2 日付	就为支援施設設兄字 (兄字美音(字んたこと))
10		

10		
11		

12		

13		
----	--	--

14		
----	--	--

15		
----	--	--

準備学習（予習復習）の 具体的な内容	
-----------------------	--

成 績 評 価	☐ 定期試験 (%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%)			
	☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☒ その他 (実習評価)			

教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学① 第5版 (医学書院)
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学② 第5版 (医学書院)

参 考 書	
-------	--

授業の留意点・備考	受け持ち患者は統合失調症、気分障害等の精神疾患を有し、急性期を脱した回復期に向かう時期の精神に障害のある患者を受け持つ。実習中にプロセスレコードを2回記載し検討することによって、自分自身の傾向の理解を深める。事前学習は実習に入る前には担当教員に確認してもらい準備を整える。
-----------	--

科目名	看護の統合と実践の実習					担当教員	工藤 かしみ				
-----	-------------	--	--	--	--	------	--------	--	--	--	--

学科	看護学科	年次	3	開講期	10月～11月	単位数	2	時数	90	授業形態	実習
区分	専門分野	教育内容	看護の統合と実践の実習					選択・必修	必修		
担当教員の実務経験		総合病院で、あらゆる健康のレベルの対象の看護や、さらに看護管理者の立場からスタッフとの関わりを経験したこと活かし、看護のマネジメントについて講義・演習を行うことができる。									
授 業 概 要		複数患者の看護、多重課題の優先順位とタイムマネジメント、一勤務帯の患者の状況、看護管理の実際、保健医療福祉チームにおける看護の役割と機能、緊急時（急変時）の看護の実際									
到 達 目 標		看護チームの一員の体験、一勤務帯実習、複数患者の受け持ちを通して知識・技術・態度を統合し、さまざまな健康レベルの対象に応じた看護実践力を身につける。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	実習1日目			病棟オリエンテーション、受け持ち患者情報収集							
2	実習2日目～4日目			チーム看護の見学 受け持ち患者の看護の実践（多重課題、援助の優先度の判断）							
3	実習5日目			受け持ち患者の看護の実践（多重課題、援助の優先度の判断） 中間カンファレンス テーマ：多重課題、援助の優先度							
4	実習6日目～11日目			受け持ち患者の看護の実践 病棟師長による管理についてのオリエンテーション チーム看護実習 管理実習、看護リーダー実習							
5	実習12日目			最終カンファレンス 実習記録一式・評価表を提出							
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習）の具体的な内容											
成 績 評 価		☐ 定期試験 （ %） ☐ 実技試験 （ %） ☐ 小テスト （ %） ☐ レポート （ %） ☐ 課題 （ %） ☐ 発表 （ %） ☒ その他 （実習評価 %）									
教 科 書											
参 考 書											
授業の留意点・備考		受け持ち患者は成人期あるいは老年期にある患者を2人受け持つ。チームメンバー実習は、学生の受け持ち患者が受け持っている2人のうち1人の担当看護師と一緒に行動し、受け持ち患者以外の援助を見学・一部実施し、援助の調整の方法や優先度の決め方を学ぶ。2週目以降にリーダー実習1日・管理実習1日を行う。									